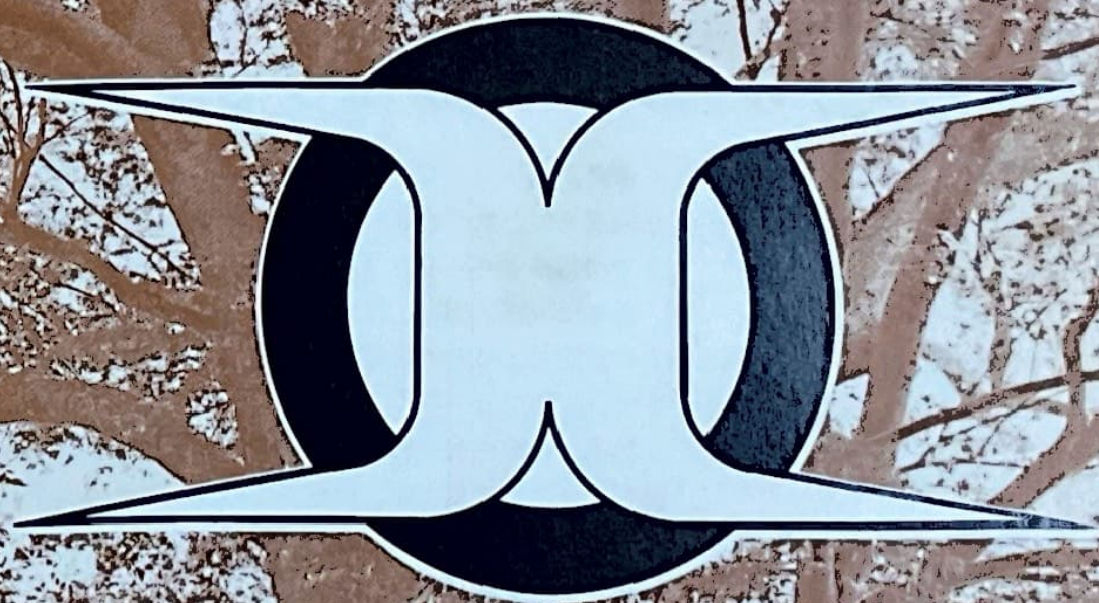




1975
相模原青年会議所
創立10周年記念誌



**相模原青年会議所
創立10周年記念誌**



青年会議所(JC)とは

青年会議所(JC)は、`明るい豊かな社会、の実現を同じ理想とし、次代の担い手たる責任感をもった20歳から40歳までの指導者たらんとする青年の団体です。

青年は人種、国籍、性別、職業、宗教の別なく、自由な個人の意志によりその居住する各都市の青年会議所に入会できます。

25年の歴史をもつ日本の青年会議所運動は、めざましい発展を続けておりますが、現在573の都市に4万5千余の会員を擁し、全国的運動の総合調整機関として日本青年会議所が東京にあります。

全世界に及ぶこの青年運動の中枢は国際青年会議所ですが、80数カ国に国家青年会議所があり、42余万人が国際的な連けいをもって活動をしています。

日本青年会議所の事業目標は、`社会と人間の開発、です。その具体的事業としてわれわれは市民社会の一員とし、市民の共感を求め社会開発計画による日常活動を展開し`自由`を基盤とした民主的集団指導能力の開発をおし進めています。

さらに日本の独立と民主主義を守り、自由経済体制の確立による豊かな社会を創りだすため、市民運動の先頭にとって進む団体、それが青年会議所です。

1975年度 日本JCスローガン

人間への期待 明日への行動
創ろう正しい日本の心

J C I Creed

We Believe :

That faith in God gives meaning and purpose to human life ;

That the brotherhood of man transcend the sovereignty of nations ;

That economic justice can best be won by free men through free enterprise ;

That government should be of laws rather than of men,

That earth's great treasure lies in human personality; and

That service to humanity is the best work of life.

J C 宣言文

理性と法による

社会の秩序を確立し

個人の創意と

公正な競争を通じて

経済の発展を実現し

隣人の幸せを願う者が

正しく報われる

民主主義社会の達成を誓い

民族の気概を結集して

日本の平和と独立を守り

人間性への信頼こそ

すべての国を結ぶ

きずなであることを確信する

J C I 綱領

我々はかく信じる：

「信仰は人生に意義と目的を与え

人類の同胞愛は国家の主権を超越し

正しい経済の発展は

自由経済社会を通じて最もよく達成され

政治は人によって左右されず法によって

運営さるべきものであり

人間の個性はこの至宝であり

人類への奉仕が人生最善の仕事である」

綱 領

われわれ Jaycee は

社会的・国家的・国際的な責任を自覚し

志を同じうする者相集い力を合わせ

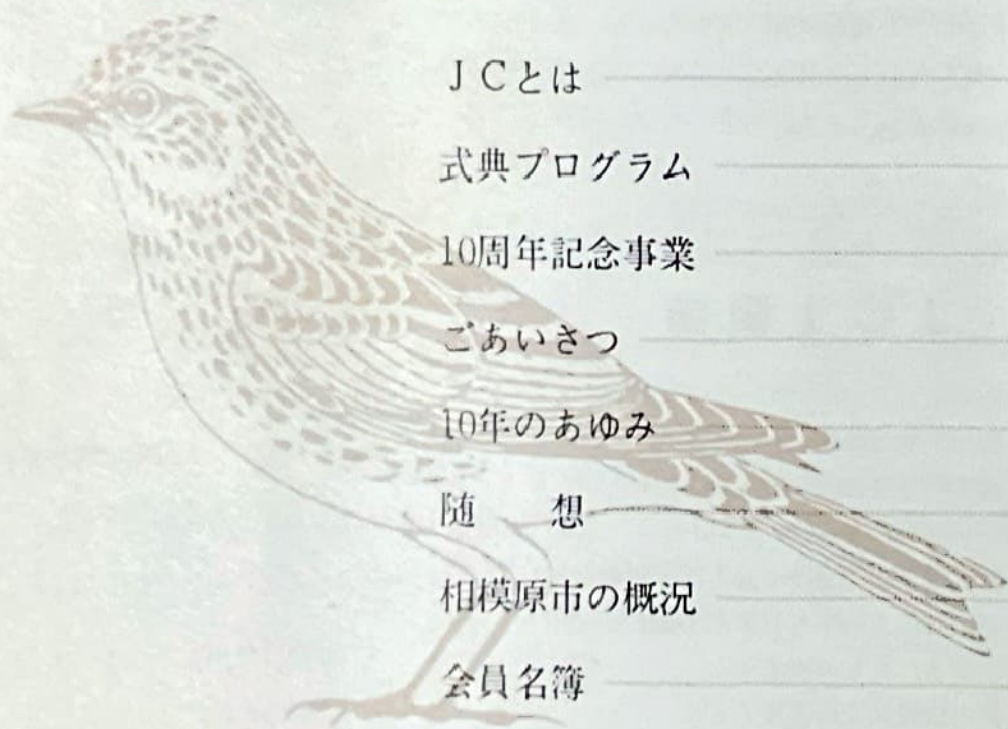
青年としての英知と勇気と情熱をもって

明るい豊かな社会を築き上げよう

奉 仕 ・ 修 練 ・ 友 情

■ 目 次

J C とは	2
式典プログラム	5
10周年記念事業	6
ごあいさつ	8
10年のあゆみ	16
随 想	61
相模原市の概況	83
会員名簿	87
相模原青年会議所組織図	88
協賛名簿	109
編集後記	112



大会記念式典 プログラム

10月25日(土)

登録受付 (相模原市民会館) 13:00~14:00

創立10周年記念式典 14:00~16:00

プロローグ ぼうちうた 郷土芸能 相模原
ぼうち歌保存会

式典 国歌斉唱

J C ソング斉唱

J C 宣言文朗読

綱領唱和

来賓紹介

日本 J C 役員紹介

来訪 J C 紹介

歓迎のあいさつ

来賓祝辞

理事長あいさつ

エピローグ こども神楽囃し 相模原市
久保デュニア囃連

思い出の人々との10年

記念事業発表

御礼のことば

懇親会 (三協会館) 16:30~18:30

10周年



市に藤棚を寄贈

チャリティショー基金をもとに市立鹿沼公園に藤棚寄贈
(設置場所：児童交通公園内休憩広場) 恒久物の寄贈は
市の歴史始まって以来のことであり、9月10日に完成。



市民若葉まつり

5月3日・4日

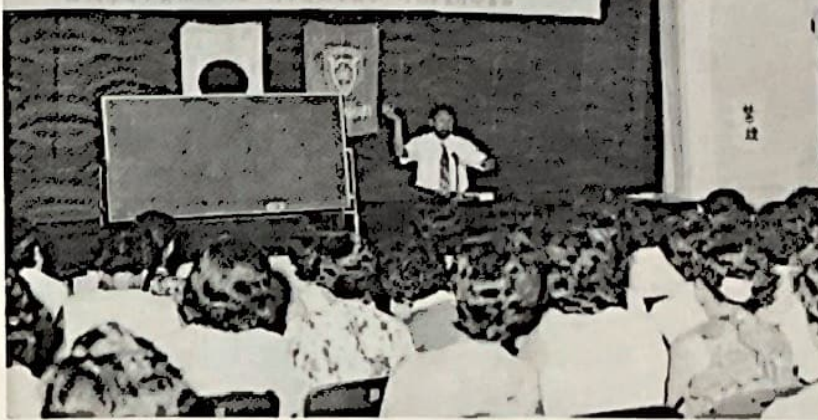
第2回市民まつりに協賛。



記念事業

西丸震哉氏を囲み人類の未来を考える

第1回 J.C.文化講座
無着成恭氏を囲み教育を考える



J.C.文化講座

第2回 9月3日 講師 西丸震哉氏
西丸震哉氏を囲み人類の未来を考
える

第1回 8月4日 講師 無着成恭氏
子どもの幸せを保障する教育を考
える集い



早起き野球大会

7月6日より9月7日迄
市内各球場で実施



祝 辞



神奈川県知事

長洲 一二

相模原青年会議所が輝かしい歴史を刻みつつ創立10周年を迎えられましたことを心からお祝い申し上げます。

県北の地相模原に郷土を愛する経済人が博愛と奉仕の精神の種をまいて10年、相模野の大地にたわわに実る稲穂のように、いまや早苗はみごとに成長し創立10周年記念式典を盛大に開催されるまでに発展いたしました。

10年の星霜をへて大地に大きくしっかりと根を張るまでにはぐくんでこられた関係者の皆様の御努力に対し深く敬意を表します。

世の中がめまぐるしく移り変わり、人と人との心のふれあいすら薄れている昨今、人間性の回復を求める人々の声には切実なものがあります。

私は、630万県民全てが安心して暮らせる神奈川、隣人同士がいたわりあい励ましあうような連帯感に満ちた神奈川の建設を県政の第一の課題といたしました。

そのためには、私たち行政に携わる者の努力はもとよりですが、県民の皆さんの深い理解と協力、そしてさらに一步進んで皆様のような市民の間での自主的かつ建設的な活動の盛り上がりがあってこそはじめて「生活者の心がしみ通り脈うつ県政」が実現できるものと信じます。

どうか今後とも若き実業人の英知と熱意を結集して明るい豊かな社会づくりに御尽力下さるよう念願いたしますとともに、相模原青年会議所の限りない発展と会員皆様の御健康をお祈りしお祝いの言葉といたします。

ご挨拶

祝 辞



相模原市長
河津 勝



相模原商工会議所
会頭 篠崎 隆

相模原青年会議所が、このたび、創立10周年を迎えられましたことを、心からお喜び申し上げます。

昭和40年9月、友情、奉仕、修練の三信条のもとに明るい豊かな社会づくりを目指して相模原青年会議所が結成されて以来、交通安全キャンペーン、チャリティショウ、各種行事への参加協力等、地域社会に密着した日常活動を積極的に展開され、住民福祉の向上に多大の成果をあげてこられました。

このことは、歴代理事長をはじめ会員各位のなみなみならぬご努力の賜と存じ、深く敬意を表する次第であります。

本市では、人口急増と激しい都市化が続いており、名実ともに人間尊重の住み良い都市を実現するため、市の総力を結集して都市づくりを推進していますが、真に豊かな「たくましい市民のまち相模原」を実現するためには、市民皆さんの郷土を愛する熱意と力が不可欠なことは申しあげるまでもありません。

そのため、市では「市民桜まつり」等を行い、ふるさとづくりに努力していますが、この市民的な行事に青年会議所が中心となって活躍されていることは、大変意義あることであり、皆様がこの活動に寄せる市民の期待はひとしお大きいものがあります。

どうか、この10周年を契機に会員相互の連携を一層深められ、相模原青年会議所が今後ますますご発展されることを祈念してお祝いの言葉といたします。

昭和も既に50年、將に半世紀を画するこの爽秋に当り相模原青年会議所がめでたく創立10周年を迎えられ、ここに意義ある記念誌編さんが企画され一言祝辞申し上げる機会を得ましたことは私の深く喜びとするところであります。

顧みれば戦後の国民が荒廃した混乱にあえぎつつあった昭和24年再建日本の理想像実現に燃えて東京に創設された青年会議所運動は実に若人の英知と情熱の逞しい結晶でありました。以来この創始精神たる友情、奉仕、修練の三信条は全国に波及し現在570市に於て45000余名の会員を有するに至っており、本市においても相模原ロータリークラブ及び川崎青年会議所指導の下に「明るく豊かな社会づくり」をモットーとして昭和41年誕生した相模原青年会議所は会員すでに100名になんとし交通安全キャンペーン、チャリティショウ、市民まつり等の社会事業推進にも輝しい成果をおさめられ、この度記念すべき10周年を迎えられることとなり誠にご同慶にたえないところでございます。

なおこの発展に挺身された会員各位のたゆまざるご努力に対しましては深甚なる敬意と感謝を捧げる次第であります。

特に当会議所発足以来、引続き事務局を担当して参りました関係もあり、往時を回想しばし今昔の感を禁じ得ませんでした。時恰も我が国経済は戦後最大の危機に直面しつつあり両会議所の使命もまた、重かつ大といわざるを得ませんが今後私共はそれぞれの分野で努力するは勿論、進んで相互協力の緊密化を図り以て地域社会の発展と、商工業の振興に寄与することにより市勢の興隆ひいては明るい日本建設の一助ともいたしたいと考えておりますので一層のご協力をお願いすると共に益々のご発展を祈念し祝辞といたします。

ごあいさつ



社団法人日本青年会議所
会頭 佐藤 敬夫

創立10周年を迎えられた相模原青年会議所の会員諸兄に心からお祝いを申し上げます。

諸兄が、諸先輩とともに力をそそいでこられたこのJC運動10年の歴史は、草創期の激動の歴史であったことであろう。しかし、会員ひとりひとりが、ここで経験された貴重な体験と、若々しい情熱、郷土愛にみちた真摯な気持を、どのような形で展開していくかが、今後の相模原JC発展の鍵となろう。

もとより、JC運動は地域社会に密着した運動である。自分達の住む地域社会にしっかり根を下ろし、その社会から多くの信頼を得た各地青年会議所の活動がすべてである。お互いの手づくりの価値観を認めあい、地域社会の中に、真の自主性をもってJC運動を確立していただきたい。

我々は、今日、隣人の幸せを願うものが正しくむくわれるような社会を築いていかねばならないが、それには内心にひそむ欲情邪念と戦いうち克つことのできる良き生活者、健全な大衆が必要となろう。

新しいJC運動の流れを創るため、人間社会の秩序のため、会員ひとりひとりが、自分の手によってという気概にみちてこれからの運動をすすめていただきたい。

相模原青年会議所の今後のご活躍を大いに期待したい。

以上



社団法人日本青年会議所
副会頭 小沢 一彦

相模原青年会議所の創立10周年を心よりお喜び申し上げます。

スポンサーの川崎青年会議所はじめ、創立当初にご苦勞された先輩諸兄から今日まで多くの友情と情熱が注がれて、ここに10年目をむかえられました事は大変意義深い事であります。

さらにこの間に地域社会の皆様の暖かいご理解とご支援が常にこの運動のささえであったと確信を致しております。

私達の運動もこの10年間で大きな変革をしてまいりました。

経済成長最中の10年前、私達の運動も経済思考サロンのなムードでなかったとは言えません。

しかし今日では、私達の運動は、その街の最も必要とする、その街の個性と特色を十分に生かした市民運動を推進する市民団体としての方向を目標としております。

この10年間に急激な躍進をとげた相模原に於いて躍進が生んだ多くの問題点を適確にとらえ積極的に幅の広い市民運動をこの相模原の街に展開され新しい街づくりの礎となられた事を祈念し、益々のご発展を期待致します。

ごあいさつ



社団法人日本青年会議所
(関東地区協議会長)
高橋 福八



社団法人日本青年会議所
(神奈川ブロック協議会長)
多田 慎二

相模原青年会議所創立10周年おめでとうございます。

関東地区 110 会員会議所 1 万人会員を代表して心からお祝い申し上げます。

「十年一昔」と言いますが、10年は地球の歴史と比較すれば一瞬ですし、反面毎時毎日の人間の営みを想うと途方もなく長い期間であります。

この間移り変わる社会の変革を常に先取りし、JC運動をたゆみなく続けられた相模原青年会議所の皆さんの感懐は無量のものがあることでしょう。さて青年会議所運動は現在「中間チェックの時」に来ていると思われま。

言葉をかえて言えば、かつて新しかった手法が現在急速に陳腐なものになり、この辺で創始の精神に立ち返りそのシステムを総点検すべき時です。

又青年会議所会員のおかれている立場も以前と比較し、ずい分きびしいものになってまいりました。

今年度関東地区協の重点事業として去る8月訪中の折「道は曲りくねってけわしいが前途には光明がある」

「条件がと、のわないのなら自からその条件を作って前進しよう」と言うスローガンが特に印象に残りました。

さあ10周年を迎えた相模原青年会議所同志諸君！この大きな節を契機としてこのスローガンのように「明日」を信じ「自分」を信じて先輩後輩が肩をだき合い、スクラム組んで相模原の、神奈川の、日本の、そして地球の為にさらに大きく前進しようではありませんか！

相模原青年会議所が創立10周年を迎えることは、神奈川ブロック協議会にとってもこの上もない喜びであります。この相模原と言う地に若い英知が結集し、急速な経済社会の近代化のために混乱した未来を憂いて、奉仕、友情、修練、の3原則のもと、相模原の担手となるべく10年前に我々の青年会議所が新しい、社会造りの広場を求め、青年の力をして勇気ある行動にかりたて、ここに10周年の節を迎えることが出来たものと思います。

私は、ここに神奈川ブロック協議会会長として、この10年の歴史の中に果された、相模原青年会議所の偉大なる足跡と、青年会議所運動への貢献に対し、神奈川ブロック 1300 名を代表し、厚い感謝と、深い敬意と、心からのお慶びを申し上げます。

青年会議所運動は、この10年間に培われた光輝ある歴史を背景に、その伝統の継承という責任、そして将来を創造するという使命を荷っており、その運動の最も大事なことは、同志的結合に築かれた連帯感、きびしい使命感、そして共通の目標に向い青年の情熱を、もって挑戦し邁進し、貢献する行動こそ期待される、JC運動であると思います。

我々のこの運動が、青年指導者運動であることをこの10年を契機として今一度、ここに再認し次なる未来に向って強いリーダーシップのもと社会の一員として先頭にたたれんことを祈りつつお祝いの言葉にかえさせていただきます。

ごあいさつ



社団法人横須賀青年会議所
(当時・関東地区協議会長)

高地光雄

相模原JC10周年記念おめでとう！
私は、当時の相模原JCの認承証伝達式の記念誌を今でも大切にしまっておりますが、お祝いの言葉を書くので、10年振りにその記念誌を開いて見ました。

なつかしい顔が、ぞくぞくと出て来ました。辻元会頭、増田元ブロック長、中野元川崎JC理事長、そして相模原JCの大先輩、矢島初代理事長等、皆んな頭の毛がふさふさとして若くはつらつとしているではありませんか。

今でも、夫々の年令としては、お若く見えるようですが、やっぱり40才以前の若さはピチピチしている感じです。今更ながら10年の才月がなつかしく身にしみる思いです。

当時の記念誌の私の挨拶文の中に「…相模原JCは、仮JCの時に既に活発な事業を実施されているので、認承証伝達式のときは、もう立派な会員ばかりで優秀なJCです…スポンサーの川崎JCが伝統あるJCですから、相模原JCの前途は洋々たるものが開けている…」とありました。

今の相模原市は、人口に於ても、私達の横須賀市を追越すことは時間の問題でありましょうが、市の発展と同様に、相模原JCも私の予言通り驚異的な発展を遂げておられる御様子で、本当に慶びにたえません。

どうぞ、若い力を中心に、更に次の20周年をめざして、大発展をして頂くよう期待してやみません。おめでとうございます。



社団法人川崎青年会議所
(16代理事長)

中野貴司

矢島初代理事長と相模原市民会館の壇上に於て感激の握手をしたのがつい昨日の事のように思っておりましたが、10周年を迎えられると伺い我が事のように喜んでおります。

相模原JCの設立は東京JCの会員で相模原に事業所をもつ木下治君の努力に始まり、其後関東地区協より川崎JCがスポンサーJCになるようにとの呼び掛けがありました。当時の高地光雄関東地区協議会長、増田彦一第三ブロック長、斉藤文夫直前理事長、大日向邦夫特別委員長はじめ一緒に相模原通いを続けて下さった、現在はOBになられた方も多い川崎JCの会員の方々に本当にお世話になりました。この機会に心からお礼申し上げます。

川崎JCにとりましても25年の歴史の中で唯一回のスポンサーJCとしての貴重な経験でありましたし、私個人としても其後1971年に国際青年会議所の副会頭として担当国を公式訪問した際、現地の新設JCを指導したり、JCの拡大を論じた時、私の相模原体験を大いに反映させてまいりました。

相模原JCもこの10年間に大きく成長され神奈川ブロックの副ブロック長を出されるJCにまでなれましたが、今後益々発展され相模原の地域社会に於ても、日本JCに於ても、更に進んで国際的にも極めて高く評価される団体になられるよう祈って止みません。

ごあいさつ



社団法人川崎青年会議所

(当時・拡大委員長)

大日向邦夫



社団法人川崎青年会議所

(当時、第3ブロック協議会長)

増田彦一

相模原青年会議所10周年をお迎え出来ました事を心からお慶び申し上げます。

顧みますと当時地区担当理事高地君より相模原に設立の気運があり川崎J.C.がスポンサーJ.C.として援助するよう依頼され、川崎J.C.会員数名と共に連絡に伺いました。その時点で東京J.C.の会員木下治君が、J.C.についての説明がなされ立派に指導され、又ロータリークラブの会員の多大なご支援があり、会員諸兄は極めて立派でJ.C.の本質等を充分理解されていました。スポンサーJ.C.としては、設立総会の準備のみにとりかかり65、9、18日設立総会を開きました。以後10年の間、そこにはいろんな意味があったと思います。この10年は激動社会の動き、高度経済成長を背景に世の中は、心の豊さ、人間の尊さを忘れられ、福祉福祉といわれ現在のような不況時代、急激な変化の中に、立派に地域社会に対しての青年会議所活動に多大なる成果を10年の歴史として、10年を節としてJ.C.綱領をもとに青年としての英知情熟をもって、明るい豊かな社会を築き上げてください。

おわりに相模原青年会議所の御発展と御活躍を祈念し祝辞といたします。

相模原に青年会議所が誕生して10年、その間に卒業したOBの諸兄、なお活躍している現役の諸君、本当にご苦勞様でした。心からお日出度と申し上げます。

この10年を振り返ってみると、所得倍増、高度経済への発展、豊かな生活への向上と誠にもって急激に日本は生長したと共に、相模原の地域も人口の激増により都市化へと急速な変化をしてきたものと思う。そのなかにおいて、古きよき相模原がいつとはなしに消え、都市化の浪がブルトナーのごとく押寄せ、その弊害もいくつか現れているかもしれない。古きものを破壊しなければ新しいものは建設できないかもしれない。しかし新しいものを創り出すために古いものの価値を十分に認めてこそ、新しいものの意義があり、存在価値がある。相模原の青年会議所の活動も又このような運動の連続があったればこそ、この10年を乗り越えてきたものだと思う。

常に新しい理想に向い、限らない前進を自ら行動の指針としている相模原の青年会議所の諸君が、これからも自らの地域を自らの手で耕し、新しい種を創り出しながら立派に華を咲かせ、素晴らしい収穫を夢みて、全員が一人丸となって活動してゆくものと確信している。

相模原の明日のために、神奈川の、日本の未来のために、貴重な時間と若者としてのエネルギーを存分に発揮することを誓ってこそ10周年の意義がある。

ごあいさつ



相模原ロータリークラブ

会長 伊藤 茂

創立10周年を迎えられましたことを心からお祝い申し上げます。

青年会議所は商工会議所の何だろう。とか、商工会議所とはどう違うのだろうか。等と非常識な言を耳にするようなまだ青年会議所に対する一般の認識が浅かった時に、川崎J.C.並びに相模原ロータリー・クラブのスポンサーにより、関係各位の深い関心と大きな期待とを寄せられて、相模原市の発展に呼応するかのよう発足をされてから早くも10年、光陰矢の如しの感を禁じ得ません。

青年会議所は社会的にも国家的にも強力な起動力であり、且つ、会員一人びとりはカロリーの高いエネルギーにたとえることができようかと思いますが、その英知と若い力を十分に発揮して地域社会の為に尽くされた功績は少くありません。

即ち、入学児童の交通安全の推進に、街頭献血に、チャリティーバザーに、はたまた身障者慰問等々枚挙に暇ありませんが、特筆すべきは「35万人のふるさとづくり」でありまして、予期以上の大きな成果が挙げられたのも一に青年会議所のご協力によるものであり、これによって青年会議所の存在がクローズアップされ、市民の認識も更に広まったと思います。

僅か41名の会員でスタートされてから10年後の今日では75名に増え、更に組織が拡大しつつ、ありますことは時代の要請に応えるものとして誠にご同慶に堪えません。

これ迄に築き上げられました歴代理事長を初め、役員各位の適切な運営と、会員各位のご尽力とに敬意を表し、今後益々のご発展をお祈りして止みません。

この度はほんとうにおめでとうございました。



相模原青年会議所

(初代理事長)

矢島 治

相模原J.C.、創立10周年を心よりお祝い申し上げます。

10年一昔と申しますが、本当にこの10年間は激動の10年であり、私達チャーターメンバーにより、昭和40年9月に創立総会が開かれた頃の相模原市は人口約15万、日本全体が高度経済成長の波にのっておる時で相模原市も多くの企業を誘致し、本日の記念式典会場であるこの市民会館も完成直後で、認承証伝達式の時の会場になりました。

以後市の発展と共にわがJ.C.も指導力のすぐれた歴代理事長のもと、会員数も増加し、神奈川ブロック、日本J.C.にも役員を送り、又数年前より、チャリティーショウ他、市の事業への協力も積極的に行なわれ、地域社会から頼りにされるJ.C.になった事は、まことに喜ばしく感じております。

しかし、2年前のオイルショック以後、経済状態は一変し、各企業とも、より真剣に事業の発展に取り組んでいると考えられます。

この時期にわがJ.C.が10周年を迎えた事は大いに意義があり、J.C.会員全員が創立時の初心に還り、綱領で述べられている如く、お互に力を合せ、青年としての英知と、勇気と、情熱をもやして努力していくことが最も必要であると考えます。又努力次第でこの難局を乗り切ることが出来、日本の将来の発展が期待出来ます。

相模原J.C.の益々の隆盛を望むと共に、創立時お世話になりました、当時の東京J.C.の木下さん、スポンサーJ.C.の川崎J.C.、横須賀J.C.、他多くの先輩J.C.に深く感謝致します。

ごあいさつ



社団法人川崎青年会議所
理事長 伊奈淳吉

明るい豊かな地域社会の建設をめざして、ここに10周年を迎える相模原青年会議所に、川崎青年会議所を代表して心よりお祝申し上げます。

当川崎青年会議所がスポンサーとなり社団法人日本青年会議所に加入されて10年、当時をかえりみますとオリンピック東京大会の翌年で、高度経済成長の初期であり、その後の日本経済の発展に伴い、市民の意識も大きく変動し大変困難な一時代に青年会議所運動を地域社会に着実又積極的に推進してこられました相模原青年会議所の全会員に敬意を表わす次第です。

青年会議所運動も、指導力開発(LD)中心の時代から社会開発(CD)運動へ大きく発展して久しくなり、地域社会への密着度も一段と滲透してまいりました。

しかし一昨年の石油問題等から日本経済も低成長に追いこまれ、まだまだこれからも続く低成長経済下に於ける社会開発運動は今迄の10年とは比較にならない程きびしさがあると思います。会員の一人一人が企業とJC運動をいかに両立させるか又、若手経営者の市民団体としていかに地域社会に貢献するかをこの10周年を迎える時を契機として充分考え次の10年に向って青年らしく英知と勇気と情熱をもって、力強く前進発展され相模原市にあってなくてはならない団体となる事をお祈りしお祝の言葉にかえさせて頂きます。

以上



相模原青年会議所
理事長 大貫一男

1965年9月川崎青年会議所のスポンサーにより創立総会に至り、翌年7月17日酷暑の中に認承証伝達式を挙げて以来、私共相模原青年会議所は「明るい豊かな社会を築き上げよう」との合言葉のもとに会員一丸となって運動を重ね、本年10周年を迎えました。

青年会議所運動は高度成長経済と相俟って着実に前進を続けてきましたが、昨今の内外の情勢は、まことに憂うべき多難な一途を辿っていることはご高承の通りであります。今こそ青年会議所運動の真価を改めて問われていると思います。

私共は、創立10周年という節を迎えるに当り、青年会議所の真価を発揮すべく創始の精神に帰りJCの厳しい使命感と責任を自覚し「和」のスローガンのもとに人間と人間との調和を目指し、連帯感と情熱を以って共通の目標に向って期待されるJC運動を展開していく所存であります。そこにこそ10周年記念の意義があり、記念すべき今日の「おめでとう」の意味は、次なる10年への誕生と心得、若い世代の指導者として、地域社会の信頼と期待に応える価値ある努力を積重ねる決意であります。

この10年間相模原青年会議所にご指導、ご鞭撻をいただきました相模原市並び関係各位スポンサー川崎青年会議所を始めとする青年会議所諸兄の友情に深く感謝し、今後共宜しくお祈りを申し上げます、ごあいさつといたします。

10年のあゆみ



1965年度

●設立の機運の起った動期及び時機

相模原に青年会議所を設立したいという機運は1965年初頭 東京JCのメンバー（木下君）よりそのアクティブな活動状況を聞き県下有数の内陸都市として発展せんとする段階にある当市に是非とも若い力を結集する心要を感じ、二、三の有志によって働きかけられ又相模原ロータリークラブの全面的協力を得られ急速に進展しその期も熟したとみられたので7月9日矢島、服部両君を中心に第一回発起人会を開催する運びとなった。

以上が設立の時期及び動機である。

既存の団体改組云々についてはなし

●その青年会議所の設立に関して中心となって活動している人々

氏名	生年月日	勤務先	役職	学歴
矢島 治	大15. 10. 29	矢島 医院	院長	慶応大学
土屋 定	昭2. 5. 2	淵野辺病院	事務長	宇都宮農専
西村 幸彦	昭2. 2. 5	(株)山光社	工場次長	早稲田大学
他 11 各				

●他の経済文化団体が設立に関与したとすればその団体の名称、主たる人々の氏名、年令、役職名

相模原ロータリークラブ会長	田 辺 重 明	M42. 5. 30
〃 副会長	橋 本 六 郎	M43. 10. 22
〃 理事	土 屋 章	T14. 9. 5

●推薦青年会議所が拡大委員会を編成した時及びその氏名

イ 拡大委員会を編成した時期

昭和40年8月1日

ロ 拡大委員会の氏名

委員長 大日向 邦 夫 (委員長以下10名)

委員 齊 藤 文 夫	鈴 木 祐	中 野 貴 司
渡 辺 達 夫	梶 悦 也	新 井 鉄 太 郎
丸 谷 哲 朗	梶 川 健 司	玉 置 克 价

●拡大委員会と新青年会議所の設置に至る迄の交渉経過

40. 8. 1 高地地区担当理事より川崎青年会議所に相模原JC設立に関する推薦JCの依頼あり。例会に於て全員一致をもって認め拡大委員会を結成する。
8. 3 於相模原医師会館。
相模原矢島君以下11名出席。
高地地区担当理事と共に大日向委員長以下3名出席JCの理念目的組織活動を説明。
8. 13 第2回設立準備会相模原横浜銀行。

40. 8. 13 川崎 J C より大日向委員長以下 5 名参加。
河津相模原市長、篠崎商工会会長、新田日本 J C 理事出席。
相模原市の現況及び日本 J C 加盟、今後の組織運営について討議。
8. 16 川崎神戸銀行。
川崎 J C 8 月第 2 例会に相模原より 3 名参加。J C 活動のあり方を指導。
8. 19 第 3 回準備委員会於横浜銀行。
川崎 J C より増田直前理事長以下 3 名出席。創立総会の日程及び役員予定者を決定。
8. 26 第 4 回設立準備委員会於横浜銀行。
川崎 J C より大日向委員長以下 5 名出席。
事業計画案、予算案及び委員会決定。
8. 29 於鎌倉建長寺。
仮鎌倉青年会議所創立総会参加。後相模原 J C 6 名、川崎 J C 斎藤理事長以下 7 名。
創立総会について協議。
9. 4 川崎日航ホテル。
川崎 J C 総会を相模原 J C 4 名が公式訪問。
9. 15 第 7 回設立準備委員会於相模原山光社。
川崎 J C 斎藤理事長以下 9 名参加。
創立総会準備。
9. 18 仮相模原青年会議所創立総会於三信会館。
川崎 J C 斎藤理事長以下 18 名参加。
11. 11 仮相模原 J C 第 4 回例会。
川崎 J C より大日向委員長他 2 名出席。
11. 28 川崎 J C 主催チャリティショー 於川崎グランドオスカー。
相模原 J C より 5 各参加。
41. 1. 13 相模原 J C 新年会。
川崎 J C より増田ブロック長他 5 名参加。
2. 10 相模原 J C 例会。
川崎中野理事長出席。
各地認承式参加及び認承式企画。

●推薦青年会議所の推薦理由

相模原市は神奈川県内の内陸都市として附近の町村を合併今や人口 15 万、東京、横浜より工場住宅の進出目ざましく今や県下有数の内陸工業都市として隆昌の気運一途をたどっております。この時に当り相模原ロータリークラブの全面的な御支援を得て青年経済人の集りたる青年会議所をこの地に設立し、その主旨にもある如く地域社会発展の為にその力を結集する事はまことに新興相模原市の発展に大なる寄与をなすものと信じます。

こゝに日本 J C 登録番号 22 号、15 年の歴史をもち関東地区内に於て最も活動的な J C の一つである川崎 J C は現在迄地域的な理由から新青年会議所設立の機会がありませんでしたが、仮相模原青年会議所の設立に共感しすべての点に於て J C 理念に合致すると認めこゝに日本青年会議所へ加盟承認されん事を希望して推薦いたします。

1966年度



10周年への歩み

初代理事長 矢島 治

明年相模原JCも創立十周年を迎えます。この期にここまで育て上げた歴代理事長に話を伺い、その歴史を探り、今後の発展の礎としよう企画し、一番手に初代理事長の登場をお願いしました。

早春の一夜、広報委員会は、宮崎、山内両特別理事、岡崎副理事長、根岸会員に同行をお願いし、矢島初代理事長を訪問しました。奥様の手料理を御馳走になりながら、創立当時のことから順次話をしていただく。

昭和40年5月頃、相模原ロータリークラブ内に青年会議所を作ろうという計画ができて、矢島先生に働きかけがあり、数人が集まりここに第一歩を踏みだした。ロータリーの方々、東京JCの木下さんの尽力もあり毎週会合を持ち、計画が練られて8月頃には会員も20名に増え設立に必要なスポンサーJCも川崎に決り、9月18日には三信会館にて、会員36名で創立総会を開くことができた。現在運営の基礎となっている定款、運営規則もこの頃に出来上り、各地の認承証伝達式や例会、また全国大会にも仮相模

原JCで各会員が出席し、積極的に実績作りが行なわれた。

先生も各地に出席し、その時の記念も沢山保存してありそれを見ながら思い出に話がはずむ。41年7月17日、チャーターメンバーには生涯忘れられない日だろう。認承証伝達式、ここに相模原青年会議所が県下で10番目、認承証番号、316、会員40名で正式に発足したのである先生も両特別理事も当時のことをよく覚えていてまるで昨日のことのように話して下さる。情熱を傾け設立の為に努力した日々、当時の熱気が聞き手の我々に響いてくるような話し方で、自分がその場にいなかったことが残念でなりません。この日の為には前年からの努力があったわけですが、具体的に準備が始まったのは5月頃からで各会員が仕事を分担し、川崎JCの指導も仰ぎ、当日のスケジュールの細部に至る迄入念に打合せがなされ会場は市民会館、エクスカージョンは田名河原で、鮎のつかみどりと野外パーティに決定する。

記念事業として、学童交通安全の為に市内学童通学道路標識を市に寄贈、更にドリームカードを発行し、来席者に五百円で買ってもらい、その純益で市内特殊学級に教材を寄贈する。前日はどしゃぶりの雨、各所で準備していた会員も明日は晴れるよう祈るような気持であった。あくる17日の朝、快晴、本当に嬉しかったろう。市民会館に来訪JC、各界の来賓の方々、JC、家族らのお客様を集めて、高木会員の演出で、司会は宮崎七代目理事長朗朗と響き渡る声、お



ちつた態度と共に今も語り継がれる立派なものでした。

高木会員の演出もユニークなもので全員の入場、暗転から一筋のライトが舞台をてらすと、紅一点の小林会員のナレーションが始まるという凝ったもので、式次第が決まる迄は川崎J.C.と議論し一歩も譲らなかつたとか、その甲斐あって相模原J.C.の名を高める立派な式典になったという。当日は米軍楽隊が演奏し、国歌の後予定外の米国歌が飛びだし、一同胆を冷したという、この件も外部からの咎めもなく式典は全て厳粛莊嚴なうちに終る。昼食の後は、バスを貸切り田名河原に移動、エクスカージョンの始まりである。鮎のつかみどりは大変な人気で参加者には順番に行ってもらった。新鮮な鮎を天ぷらにして食べたり、川崎J.C.による野点もあり、地元の芸能を被露するなど、大変暑い日であったが、相模川の清流と涼風の下でのひと時は大好評でした。初代理事長としては成功したことはもちろんうれしかったが、全てが終り、夕闇せまる頃、後始末が誰からともなく始まり、整理されたことが当日迄の奮闘を見ているだけに大変感激したそうです。当日の印象は快晴だったこと、暑い日だったこと、後始末の見事さ、この三点だという。

矢島先生は歴代の中で誰一人二年間理事長の席を務め今日の基盤を作ってくれた方であるが、青年会議所設立に参画できたことが大きな喜びであり勉強になったと言われる。無から有を創り出す素晴らしさ。相模原J.C.誕生のいきさつとその苦勞と感激を勉強できたことは、今後の活動の励みとなり、我々も諸先輩の汗と知力の結集である相模原J.C.を、創立時の意気と夢をひき継いで、より大きく発展させなければと痛感しました。
(菅沼記)

事業報告

昭和41年度活動経過

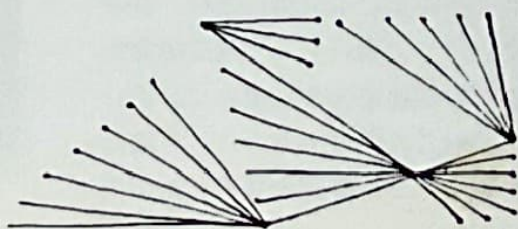
昨年創立総会を開催して以来懸案であった日本青年会議所への正式加盟が3月26日甲府に於ける日本青年会議所常任理事会で審議の結果4月1日付第316号をもって日本青年会議所に正式参加加盟が認承された。以後会の活動は認承証伝達式を中心に進められた。4月に認承式に対する実行委員会が編成され式典の挙行に全力が注がれた。記念誌の編纂、式典及エクスカージョンの準備がなされ、7月17日認承証伝達式典を相模原市民会館に於て挙行し、相模湖畔に於て会員懇親のエクスカージョンを行なった。式典の記念事業とし交通問題に目を向け児童通学の安全のために学童通学路標識百基を市内小学校に寄贈した。

登録J.C.42J.C.、会員600名を集め盛況裡に式典を終了した。

式典以後の活動はJ.C.統一事業とし相模原市長を招き特別講演会の開催と認承証記念事業の一環として行なった「からだの不自由な子に大きな夢を」と云うキャッチ・フレーズで発行したドリームカードの純益金を市内小中学校特殊学級に寄贈する為相模原市にその使用を委託した。

11月には川崎J.C.主催のプロ野球チャリティーオープン戦に市内母子家庭及身障者を招待し一日を楽しく過しました。

昭和41年度は前期、中期に於ける認承証伝達式のために大きな力が費され、会本来の活動が半減されてしまいましたが各委員会共計画の完遂に努力して無事昭和41年度の事業活動を終了いたしました。



1967年度

土屋二代理事長の横顔

柴胡の企画を持って、2代目に会いました。会えば必ず出るJC論にも花が咲きました。しかし、今話した考え方を一文にまとめてくれと頼んでもOKしてくれませんでした。理由は、現在の若手に貴重な紙面をぜひゆずりたいということ、卒業したからには、現役の紙面に意見は書くべきでないということでした。私もあと半年で卒業なのですが、悪口も交えて、私見の入った代筆ということで、土屋さんの許しを得ました。そう言えば、³脱JCのすすめ、といった題も良いねなんて言っていました。

土屋定、昭和2年生れ、現在医療法人社団相和会事務局長（淵野辺病院、新横浜病院及び横浜検診センター）趣味観葉植物の栽培、つり等。女兒2人で4人家族。淵野辺に住いがあり、庭の茶山花の大樹、純白の花をつけたときはとても見事です。

どんなことでも、2代目は大変なものです。とにかく認承証伝達式をすませて、ヤレヤレといった会員の目を何にむけさせるのか、土屋さん自身を含めて、JCとは何かを誰もわかっていない団体をどう引っぱって行くのか、ほんとうに苦しい一年だったと言っておられます。個人の責任を何とか呼び起そうと努力されました。せい一杯相模原JCを³いじめた、と私は考えます。日く会合の中でゴルフの話はするな。日く、会合の後の2次会は、一切取り止める。（初年度は、親ぼくの意味で、飲み会に移ることが多かった）。そして、自分一人になっても例会は行う。等、おそらく何かを期待してJCの名の下に集まったチャーターメンバーは、面くらったことでしょう。出席率も悪かったと記憶します。しかし、ほうり出されて、なお残る会に対する自分自身の責任に目賞めたメンバーが、

今日の相模原JCを育てました。もちろん土屋さん自身、わからないということあたり前と考え、先頭切ってわかろうと努めた姿を今でも思い出します。公式訪問一行に食ってかかったこと。地区協のオエラ方と口角泡を飛ばしたこと。そして今もJCとは何だったのだろうと時々考えておられます。

土屋さんは、現在でもそうですが、数字に関する天才ということを除けば、明らかに論理派であり、逆説的発想から真理をつかもうという人です。それがひょいと口をつけて出る³脱JCのすすめ、であり、同時に、土屋さんが理事長のとき、この考え方をくみ取れなかった我々の若さを反省すると同時に、土屋さんの本質論に今でも接することが出来る私は幸せ者だと思っています。

土屋さんは良く言います。JC運動の本質は、結局個人に帰するんだと。つまり、特定の一人が、高いレベルにあれば、会員は、そのレベルの運動ができるかもしれないが、JCの本質は、その高いレベルに個人が同調するように努めることにあると言ひ、40才で卒業ということは、人間40才までにやらねばならぬことを大いにやるのがJC運動だろうと。40才迄にやらねばならぬこととは若さ故の思考錯誤であり、途中で間違っていることがわかれば、止めることが出来るのがJCの本質ではないでしょうか。土屋さんは、会員一人一人、思ったことを暗中模索することなく、むき出しで、JCにぶつかるべきだと言ひ、それが間違っても恥じることなく止めることにJC運動の本質がある。と言ひます。私もその通り（土屋さんに感化されたためでしょうが）だと信じています。時々くり返されるスリーピングメンバー対策とか、仕事とJCとどちらが大切かといった質問に対する一つの解答として、土屋先輩の言をかみしめてみる必要があると信じます。

土屋さんは多分に逆説的な考え方をすると書きました。私が言うまでもなく皆さんにわかっていただけだと思いますが、会は、スリーピングメンバーにへつらうべきでないし、

仕事とJCとどちらをとるかは、個人の考え方に依るべきだ、ということに帰するわけです。

JCには何の特典も、名誉もありません。しかし、入会の意志をきめたのは、君自身であり、又退会の決心をするのも君自身です。JCで出来るだけ間違いをし、実社会に、そのミスを持ちこまないこと。これだけでも、青年会議所の価値はあります。

土屋さんに教わりました。会員は、JCマンとしてJCを卒業してはならない。つまり、40才迄JCでもまれた経験と、冷汗三斗の思いをかみしめて、明るい豊かな中年とならなければ、JCに入った意味はないと。JCは決してぬれ手に粟のメリットを与えてくれないのです。自分で手を汚し、その手でつかんだ何かこそ青年会議所の本質なのだとして土屋先輩は指摘しています。

生来セッカチでソソッカしい私が、土屋さんのような理論家の代筆をするのは不可能なのです。何を書いているのか自分でもわからず、委員会の皆様に申しわけない次第です。又、土屋さんの真意を伝え得たとは露思っていません。この点土屋さんに許しを乞い今後共、私達JCの考え方のよすがであることを切望します。

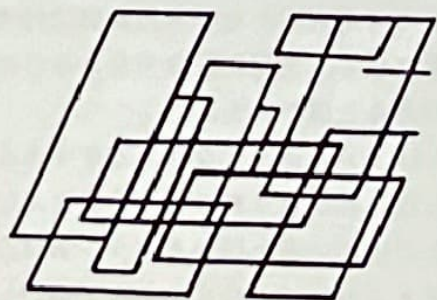
メ切日午前3時

特別理事 内田 寛 記

会 員 組 織 構 成

理 事 長	土屋 定
直前理事長	矢島 治
特別理事	加藤光男
副理事長	宮崎 昇(総務、社会福祉担当) 座間昭三(LT、広報、会員担当)
会計担当	飯田 亨
事務局	宮崎直道
監 事	原 安貞 井上一良 (総務委員会)
◎古藤友昭	○内田 寛 鈴木英次 佐々木義雄 重久正次 (5名) (修練委員会)
◎花形義一	○細谷晃一 服部 巖 原 章 山口富雄 小出 功 上田利光 (7名) (広報委員会)
◎大塚知雄	○古俣志郎 中島莊三 小松純雄 萩原 旭 中村宜勝 (6名) (社会福祉委員会)
◎大貫一男	○浅見長栄 山内 大 小林康子 松本謙二郎 大谷一夫 河野友治 (7名) (会員委員会)
◎高木史郎	○大貫浩夫 原 安貞 奥森 清 井上一良 後藤良雄 (6名)

◆各委員会の◎印は委員長、
○印は副委員長



相模原市議会議員 を囲んで

わがJCは5月25日PM7.00より、三信会館に於て、相模原市議諸公を囲む懇談会を持った。

会は、5月第2例会の一行事として行われ、市議6氏、会員27名、川崎JCよりの仲間の参加を得て行われた。出席市議は次の6氏である。(敬称略・アイウエオ順) 井上定雄、大谷猪三

郎、大塚良知、関山喜義、丹治栄三、原寅一の各氏。

先づ、6氏の青年に望む言葉を紹介し、当日の模様を記録しようと思う。(以下文責は広報委員会にあります)

若い人達がこのように集まり、真面目に話し合い、活動して居るのはすばらしい。今後J.C.のより一層の活動を期待する。

……………井上定雄氏

先づ実行、実行の伴なわない政治はあり得ないと同様に、特に若いJ.C.の皆さんには「実行する」と云う事を希むものです。

……………関山喜義氏

J.C.に結集した声だけで青年を代表した声と云えるだろうか。広い層を持つ青年大衆との連りを、どこでどのようにして考えているのか。

J.C.に対する一般的な認識を……恵まれた青年達だけの自己満足の場……を打ち破る活動と、実行を期待する。J.C.も社会開発を取り上げて居るが、それは圧倒的な多数をしめる労働者大衆の社会福祉であり、地域開発であらねばならず、その意味で相模原J.C.の計画の主眼点が、市民福祉の開発におかれている事は当を得たものと思う。……………丹治栄三氏

私の青年時代を省りみて、ずい分むちゃもしたし、色々な事をやった。とに角若い情熱を惜しみなく発揮して、勇み足をおそれることなく進んで頂きたい。……………大谷猪三郎氏

青年の青という字は、未熟だということを示わして居ると共に、それは清潔であることを示す。私も年はとったが、青と云う言葉に魅力を感じ、清潔でありたいと思って居る。特に皆さんはこれから、完成された人間を目指して努力されて行くのだが、完成を目指して常に完成しきれない人間、いつまでも積み上げる余力と若さを残した人間に成長してほしいと思う。そし

て又、私も常にそのようになりたいと思う。

……………大塚良知氏

私も色々な仕事をやって来たが、このような形での若い人達との交流を今後ももたせていただきたいと思う。……………とに角若い人にとけこんでやって行きたいと思う。

……………原寅一氏

以上発言順に各氏の青年に望む言葉を記したが、各氏の発言について自由討論と云うか、懇談に入った。懇談の要旨を問題別に整理すると次のようになる。尚録音をとって置かなかつたため、落した点についてはお許し願いたい。

地域開発について……………種々の質問が色々な形でこの問題に集中された。議員諸氏も私見だがと云う前置の上で、色々意見が述べられたが、一見ばらばらな市の統一的な発展のために、如何なる考えを持って居るかと云う質問に対して、丹治氏は次のように答えて居る。「産業経済の面では、その中心がないと云う事もあって、その発展が疎外されて居るが、市の中心街は、色々な条件よりして、現在の南門を中心にして設けられて良いのではないかと。又、大野地区では、道路事情等により、その発展が限界に来て居るように思われるが、これは現在の駅周辺の商店街を、米軍病院跡へ移して、再開発すべきものとする。行政的には各支所に権限を大巾に移譲して、市民の便を図るべきだと思ふ。又、全市を縦につなぐ交通機関を早急に設ける必要がある」……………と。

小経済圏として考えた場合として、関山氏は、上溝地区を取り上げ、次のように述べた。「農村地区を控えて商店街の発展、再開発を取り上げて行かなければならないと思ふ」として、そのためには上溝地区に見られる交通の問題が交通地獄と云えるような現状の打開が第一の問題として取り上げられなければならないと、上溝商店街のうらにバイパスを設けよ。バス車庫の移転等が急を要する要求となって居る」と発言した。

又、原氏は、橋本地区を取り上げ京王帝都線の乗り入れを目前にひかえた商店街の対策の緊急性を説いた。

教育行政について……………大塚氏は「子供の教育には明日やれば良いと云う事はない。5月15日現在の子供には、5月15日現在の教育があるだけである。そのような観点に立った時、教育の問題が明日に持ち込まれると云う事はその時の教育すべてが行われなかったと云うに等しい。その故に、又校舎が足りない、設備が足りないと云う事は、この様に発展途上にある相模原市のような所に於ては特に生徒数が増加してしまっただけに、その不足を考えるのではなく常に教育が全うされる状態を、先に先にと考え、施行して行くのではなくてはならないと思う。

又、学校と云う単位を考えて行く場合学校が管理運営されてゆくためには、どの程度の規模が必要かと云う事を考え、適正規模の学校を適地に配置すべきだと考える。そのような事が青少年の非行防止交通事故防止に関連し、ひいては学校全体丸となっての教育内容の向上に結びつくものだと思ふ。少くとも生徒数1500人以上の中学校など、自分がその管理をまかされた場合を考えても、その理想的運営は不可能と考えられる」と述べ、教育面での考えねばならぬ点を強調した。

都市計画について……………相模原市の道路計画について、又下水計画についての質問、意見は種々出されたが、井上氏は、長年議員として諸都市の事情を勉強したと云う面から、「相模原の都市計画は良く出来て居る方であり、道路用地の買収などは、他市に例を見ない」と云い、これまでの努力について強調したが会員からはほんの50米か100米工事して、次の所を掘ると云う工事計画は妙なものではないか、下水にしても、二年位待ってしっかりしたものが出来るのなら、蚊の発生場所のような下水を造るより良いのではないかと云う意見が出て居た。

又都市発展途上、農村地区と格差について、

教育その他考えねばならないのではないかと云う意見が出されたが、大谷氏は「これで良いと云う事ではないが、市全体を見た場合、まづまづさほどの格差はないと云えるのではないかと発言し、大塚氏は、「教育行政との格差は市内については多いとは思えないが、他都市と比較した場合あると云える」と述べた。しかし、当市内に於けるこの問題については、具体的な問題にとぼしく、出席者一同は、地域格差があるかないかをまはつきりと把握出来なかったのではなかろうか。

又「地域又は市内産業の育成をどう考えるか」の例として、JCの中より、市民会館建設の例を上げ、地元業者をボイコットしたのは、どのような理由かとの質問に対して、井上氏は、「皆さん方も、事業をやって居られる方が多いと思うが、地元には末だあれだけの仕事をやりとげられる業者はないのではなかろうか。協業その他によってやるにしても、それだけの力を入札の時に示してもらわなければだめな訳だし市のやり方ばかりを云うよりも前に、業者の自覚と努力をお願いすると答えて居た。それには会員の多くが賛成の声を上げて居たようであるが、もう一步つっこんだ点で例えば、中小企業ばかりの地元業者をどのように保護し、育てて行ったら良いかと云う議論も欲しかったと云う意見も聞かれた。

市議を囲む懇談会は、このような意見、懇談の中に第1回をたのしく有意義に終る事ができた。そしてこのような懇談会を今後も持とうと云う声が、議員諸公からも、会員からも圧倒的な声として聞くことが出来た。とにかく成功だったと云える。

尚当日の司会者は矢島直前理事長、JCの出席者は27名、64.3%であった。

1968年度

10周年への歩み

3代理事長 飯田 亨



柴胡の理事長訪問、今回は三代目飯田理事長を、橋本駅前の自宅に訪問しました。

今年度は、新年総会に始まり先輩参加の例会が多いのでJC経験の浅い会員とも今や顔なじみの飯田先輩である。当夜の訪問メンバーは、宮崎、山

内両特別理事、大貫副理事長と広報委員会。筆者以外は何れもチャーターメンバーであり、飯田氏とは旧知の間柄、先輩、後輩の枠を越えて貴重な友人という関係は見ていて気持ちが良いものである。43年、相模原青年会議所が創生期から内部充実の時期にさしかかった時に理事長に就任された。

当時は華やかな祭典である認承証伝達式を頂点とする燃え上った時が過ぎて、いくらか沈滞気味に見える時期であった。理事長の責任に於て何とか脱却しなければとまず第一にポイントを会員相互のコミュニケーション作りに置き、基礎のしっかりした組織にしようと努力された。飯田先輩はまず自からの姿勢をと、好きなゴルフを絶ち理事長に就任されたのである。

メンバーの職場や家族を訪問し、個々の環境を知ることから活動を始めた。これはメンバーをより知ることにより、互いに親近感を感じてその後の活動の大きな原動力となった。理事長時代に残した業績は数多いが、この年設立された「市立青年の家」に宮崎特別理事の筆になる立看板を寄贈した。JC内のゴルフ同好会^{ミジ}

ャガイモ^ミもこの年に発足し、県下ジャガイモ大会も始めて主幹した。このジャガイモくらぶには今や多数のメンバーが加入しているが、発足当時は数名であった。相模原青年会議所諸規定も、細則に至る迄この年に完全なものとなった。

当時の首脳陣は、副理事長に古藤四代目理事長、宮崎五代目理事長、総務委員長内田六代目理事長、専務理事山内八代目理事長、財務委員長大貫次年度理事長予定者という何れも大きな足跡を残した人達である。理事長として実力を発揮しつつ、多くの自分に続く後進の養成にも大きな力を残したのである。

たまには、セレモニーJCソング抜きで行なう等、色々実験も試み、新たな方法をとってみた。しかしスリーピングメンバーが多く、この問題には大変頭を痛め、再三に渡り種々の方法で、出席を促してみたが効果がなく、会の発展と志気昂揚とメンバーの為に大英断を下した。数名の整理を行なったのである。十年になろうとする歴史の中でも唯一の経験である。しかし、現在も依然としてこの問題は、相模原のみでなく各地JCの深刻な悩みでもある。任意団体であり、各自が仕事の合間に活動をしている現状であるから、簡単に結論が出せる問題ではないが、会員である以上会費を納入すれば良いのでなく、義務と責任があり個々の力の結集がこの運動を意義のあるものにしてゆくのである。参加意識の無いものは辞めるべきだと私も思う。我々は飯田理事長の取った措置をもう一度、検討してみる時期ではなからうか。しかしその結果、新たな発足をし、家族会を箱根で実施し、機会あるごとに懇談会を持つなど理事長の目的であったコミュニケーションも緊密になり益々の団結を高め、今日まで継続できる大きな基盤作りに成功したのである。

飯田先輩は相模原に來られて日の浅い頃に入会し、市内に多くの親しい友人ができた公私ともに非常にプラスになったそうである。自分の活動を振り返って現メンバーに言えることは、参加意欲を持ち、現時点で最良の方法をとる。メ

リットは自分自身の行動が生みだすものであり、義務観念で活動するのではなく、自分の為にするという信念が、大きなものとなって帰って来るのであると終始飯田先輩の人柄のように和やかな話合いのうちに、大いに得るものがあり我々の行動を援助してくれる立派な先輩が大勢いることが大変力強く感じられ、益々の努力をしなければと痛感しました。

(菅沼記)

所

信

理事長 飯田 亨

三代目の相模原青年会議所の理事長に就任した私が貴重な広報誌の紙面を借りて、所信やら抱負を一体どのように会員諸君に語りかけるのか、私自身迷っております。

社会全体が大きな転換期に直面し、新しい百年への出発が始まろうとしている時に、吾々相模原JCが、今後取るべき道、学ぶべき道は一体なんであろうかと考えます。

明治から百年、戦後二十数年、旧い思想に変わる新しいビジョンの確立、そうして新しい指導力の誕生という抽象的観念論では解決出来ない何か吾々の社会の中、生活の中に迫って来ております。

この様な時に、当面吾々JC運動がいかなる方向に進むのか、又進めなければならないのか、日本青年会議所本年度会頭所信に、四つの基本方針が打ち出されております。

本年1月号の30億JCライフに、その所信が述べられておりますので、諸君も既にご存知のことと思います。そうして諸君なりに、それぞれの把握をしていただけることと思います。

唯私は、JC運動がどのような形をもって進められていくとしても、その原動力となる根底に正しい理念に基く人間的条件を取り去ってはいらないと思います。余りに常識的と思われるかも知れませんが、その常識すら、ともすれば忘れ去られる現代社会ではないでしょうか。

「指導力の開発」「社会開発の推進」も、地域社会の実情を吾々なりに把握し、それに密着し、勇気ある英知をもって押し進めていくべきです。

自分の手を汚さずして、企業の繁栄を願ったり、平和な市民生活を営むことは、許されないということではなく、不可能なことです。

地域社会を理解し、それに働きかけ、正しい提言をもつ市民の一員とならうではありません

43年度役員構成

理事長	飯田	亨
直前理事長	土屋	定
副理事長	宮崎	昇
〃	古藤	友昭
専務理事	山内	大
会計担当	大貫	一男
総務委員長	内田	寛
会員委員長	鈴木	英二
C D委員長	大塚	知雄
経済活動委員長	座間	昭三
L D委員長	奥森	清
教育青少年委員長	宮崎	昇
広報委員長	古俣	志郎

年度ハイライト

☆8月25日(金) PM7.10 於三信会館
第2例会 LD担当 「県政に於ける相模原」と題して地元選出の県議を囲んで座談会を開催した。

☆10月24日 AM8.00当JC主催県
下ジャガイモ大会開かる。

於相模原ゴルフクラブ

団体戦で3位 個人戦では古藤友昭君7位
宮崎直道君8位 優勝は団体が秦野JCで、
個人は須山君(秦野JC)が栄冠を獲得した。

か。地域社会に於ても、吾々の企業に於ても、必要な人間になることが第一義と考えます。その常識的な考えが明日への指導力の開発、社会開発の基盤となり、共感を生む力となりましょう。

先ず身近かな地域社会を理解し、国際化時代の中で進歩する企業経営を学び取り、それに取組み、自分自身をよく自覚し、JCメンバーである以前に、人間としてお互いに語り合いたい……。

それが、私の本年度の希望でもあります。因果論的思考法の中に陥ることなく、その実態の中に身を挺し自分の肌で、JC運動を実行して行きたいと思えます。

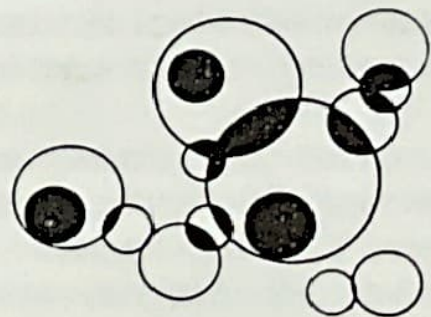
核時代の中で、激動する世界にあって、今後の日本の安全保障、世界的経済不安、移り変わりゆく社会の中での子弟の今後の教育の在り方……、どれを取り上げてみても、昭和時代の吾々に課せられた大きな現実です。

吾々JCは、特権階級でも、特殊な団体でもないことは衆知のとおりです。

その現実を正しく見つめ、自らの考えで正しく判断し、行動すべきです。

おわりに本年度は、お互いに語り合い、はげましあってベストをつくり、永遠に続く目的に向って、そのプロセスを大事にし、各委員会より提出されている事業予定を、それぞれの場で実現してください。

理事長としての、私のいたらないところは、JCの友情でどしどしお叱りとご協力をお願いいたします。



1969年度

10周年への歩み

四代理事長 古藤友昭



歴代理事長訪問、今回は古藤四代目理事長を先輩の会社である橋本の「コトウ科学」へ訪問いたしました。

先輩には忙しい仕事の時間を割いていただき山内直前理事長と広報委員会のメンバーが話を聞いて来ました。

古藤先輩はチャーターメンバーの1人であり、理在シニークラブの幹事もなされていて現役メンバーとのパイプ役であり、青年会議所の行事には必ず顔を見せ協力して下さり、現役の指導をしてくれる我々の兄貴的存在であります。

古藤先輩は1969年に四代目理事長の席につかれました。当時は二代目、三代目時代と続いて来た内部堅めの段階をへて相模原青年会議所が結束をして来た時でした。古藤理事長はこの状態を一步進めてJC活動の輪を内部から外部へと広げられ多くの実績を残されました。

相模原青年会議所としては創立以来初めての公式行事をこの年実施しました。現在行なわれているブロック会員大会の前身である全体会議を県下の青年会議所の理事長、委員長を集めて7月に市民会館を会場に主幹することが出来ました。認承証伝達式とは違い一本立ちしたロムとしての評価を受ける形であったが、古藤理事長の下に全会員が一致協力してこれにあたり大任を果たした。

またロム内の委員会活動も活発に行なわれ、桜美林学園長を招いての講演会、金融機関から

講師に来ていただき金融に関する勉強会、J Cデーには青少年問題を取り上げ市役所から関係者を招いて市民にも参加を呼びかけ討論会を開くなど、各方面からの協力を得て実りある活動が出来た年であった。

この年は多数の新入会員が入会したが現在ロムを中心となっているメンバーの多くがこの年入会したこともまた特筆すべきことである。

メンバー間のコミュニケーションも緊密で、家族会も行なわれ富士急ハイランドにバス旅行したそうである。この時には面白い話が沢山あり、我々も聞いて来ましたが、関係者の名譽の為に残念ながら発表出来ません。前年に引き続き懇親会も活発に行なわれ、古藤理事長も興が乗ると十八番である「相川音頭」で得意のノドを披露したことも多々あったそうです。

古藤理事長の一年間は、内外共に活動を続け相模原青年会議所の基礎を確固たるものにした意義ある年であった。古藤理事長はこの成果を買われ翌年はブロックの副会長という重責につくことになるのである。

来年、宮崎特別理事がブロック副会長に就任されますが古藤先輩は創立以来五年目にして初めて相模原青年会議所がブロックに送り出すことが出来た栄誉であり、メンバーの期待をになってブロックでも輝かしい足跡を残し相模原青年会議所の存在を広く知らしめることになりました。古藤四代目理事長としては、自分自身の足跡を今振り返って見て、現メンバーに伝えたいことは、J Cバッヂを胸につけることそれはJ Cのバッヂに誇りと責任を持つことであり、青年会議所の会員として恥しくないマナーと自覚を持ち行動することである。古藤氏はバッヂをつける時何時も気持がシャッキとするそうである。バッヂの重みに負けない様に自己を練磨し活動を続けて欲しいと言われる。我々は無雑作にバッヂをつけ行動しているが世界的組織の青年会議所会員の1人として他からは見られているわけであり、J Cの歴史と栄光の集約であるバッヂに恥じない行動をし、我々の手でより以上の輝きを増してゆきたい。(菅沼記)

44 年度 役員 構成

理 事 長	古 藤 友 昭
直 前 理 事 長	飯 田 亨
副 理 事 長	鈴 木 英 次
〃	宮 崎 昇
事 務 担 当 理 事	宮 崎 直 道
財 務 〃	大 貫 一 男
総 務 委 員 長	奥 森 清
広 報 委 員 長	山 内 大
経 済 開 発 委 員 長	花 形 義 一
指 導 力 開 発 委 員 長	内 田 寛
社 会 開 発 委 員 長	河 野 友 治
会 員 開 発 委 員 長	大 谷 梶 亨
青 少 年 委 員 長	中 村 宣 勝

第 3 回 神 奈 川 ブ ロ ッ ク 協 議 会

6月15日市民会館において開催

6月15日、1969年度第三回神奈川ブロック協議会が、相模原市民会館大会議室に於て、当相模原青年会議所のホストによって開催された。

これまでいろいろな条件から、県内各LOMのメンバーを迎えることがなかったが、このブロック協議会の開催によって、創立以来、最初に相模原青年会議所が主管になる公式会議がもたれた。

会議は全体会議の前に、市民会館小会議室に於て恒例の神奈川ブロック内J Cの理事長会議が開かれた。委員会は経済活動委員会と会員開発委員会が商工会館の会議室に於て開かれ活発な意見が交換された。

社会開発特別委員会発足

理事長 古藤友昭

「人と社会の開発」今日の青年会議所運動の目的はここにあります。「人の開発」これは立派な経済人として又地区社会の指導者として恥かしくない社会人になるために自己の修練にあります。社会の開発とはいかに住みよい環境をつくるかにあると思います。「人の開発」と「社会の開発」とはどちらも切りはなして考えられるものではありませんがなかでも「社会の開発」これは青年会議所運動をすゝめていく上にはどうしても第一番に取組まなければならない問題だと思います。なぜなら「社会の開発」青年会議所で言う「CD計画」こそが青年会議所運動の根底をなしているからです。

綱領にもありますように「明るい豊かな社会」をつくるにしても又福祉国家をつくるにしてもこの「CD計画」すなわち「社会の開発」の問題を真剣にとりあげ押し進めていかなければ出来ないわけです。「CD計画」を押し進めていくあいだに色々な問題もおきそのことによって我々自身の勉強になり、しいては成々自己の開発にもなるからです。こう考えますと先にものべましたように青年会議所の動きはすべてこの「CD計画」を実行することからはじまると私は信じます。

我々相模原青年会議所も他の大多数のJCに先がけて一昨年「社会開発特別委員会」をつくり、これに取組色々勉強もし資料もあつめて市民にたいしてアンケートを出しました。昨年特別委員会より社会開発委員会で引つぎこのアンケートによる市民の声をまとめそれより色々な問題点を出し我々相模原青年会議所としてどのように地域社会に働きかけるべきかと行動に移そうとしたわけですが残念ながら実現されずに終わってしまいました。又今年度もこの実行には困難をとまなっている現状です。

このことは1人「社会開発委員会」にまかせ

きるべき性質のものでなく相模原青年会議所全体の問題として取り上げるべきものと思うわけです。社会開発運動がJC運動の根底であるとするならば尚更なわけです。相模原市の現在をそして未来を考えるときただ市行政者のみにまかせたきりでよいでしょうか。やはり私はそこに住む青年が積極的に考え参加していくべきだと思います。

我々の愛する郷土相模原市の将来を我々自身で考えるべきです。「未来は青年の手の中にある」と言われています。私は相模原の未来は我々青年会議所の手の中にあると信じます。我々の「社会開発」CD計画により市民のすべての人を参加させ、明るい豊かな相模原市の建設に微力ながら参加することが出来るならば青年会議所の会員になったこと又青年会議所運動に参加していることがいかに意義が大きいことすばらしいことではないでしょうか。正に人生意気に感じではないでしょうか。今年度牛尾会頭の言葉の中に明日のために今日の犠牲を払うのが青年会議所運動だと言われています。我々相模原JCも相模原市の10年後20年後いや未来のために今日の犠牲を払おうではありませんか。CD計画に参加し積極的にすすめていくことがそのことだと思います。

社会開発問題は大きな問題です。言うはやすく行うは大変だと思います。しかし我々の若い情熱をかたむける価値は充分にあると思います。社会開発運動を積極的にすゝめていこうではありませんか社会開発こそJC活動の中心であり一番やりがいのある運動です。このやうな考えのもとに社会開発特別協力を発足させたわけです。会員諸兄の絶大な御支援御協力を切にお願いいたします。

1970年度

10周年への歩み

5代理事長 宮崎直道



早春の一夜、宮崎五代目理事長を上溝の宝光寺へ訪問いたしました。宝光寺は早朝例会場でもあり、相模原JC創立以来大変お世話になっている所です。今回は山内、中野、浦上各氏と広報委員会でお話を伺いました。

宮崎五代目理事長は現在特別理事で十周年実行委員会委員長も兼ねる現役中の現役であり、我々会員の牽引者である。宮崎五代目理事長は歴代の理事長の中で最年少で理事長になられた方であり、理事長就任にあたって(1)「社会と人間の開発のために」、(2)「仲間をふやそう」の2本のテーマを掲げた。(1)は地域社会との密着を図り相模原の未来を考え明日への相模原の躍進のために努力することであり(2)はメンバーの拡大に力を入れる二点であった。当時を知る現役会員も数多いがその意見を集約してみると、この年はあらゆる意味で画期的な一年であった。創立以来五年という時期を迎え過去四年の積み重ねの上に相模原青年会議所が青年会議所としての評価を受けるに恥しくないものに形態を整えたのである。

創立以来、多くの事業が計画され実行されて来たが市民参加の行事を実施出来たのはこの年が最初であった。現在同じことが我々会員で出来るだろうか?と思える歴史に残る事業が三委員会で行なわれた。

JCデー統一行事として青少年開発委員会が主体となって教育問題についての市民集会を開催した。

相模原青年会議所主催、相模原市教育委員会、市立小中学校、PTA連絡協議会の後援を得て、9月5日に市民会館大会議室を会場に実施したのである。第一段階として全国統一内容の24問に相模原JC独自の7問を加えて教育問題アンケートを市内に1400通配布しその回答を集計しそれを資料として「70年代の教育問題を考えよう」というテーマで講演と討論会を300名の市民の参加を得て行った。一部の講演会は講師に無着成恭氏、二部の討論会は講師に館盛教育長、尾原相模原少年院長以下教育関係者の方々、中里教育委員の司会で行列、一部二部とも活発な意見の交換があり教育の問題点が追求され今後の教育のあり方が真剣に討議された。この時の成果は立派な報告書にまとめられ残されている。

社会開発委員会が市内の中高校生を対象として「相模原をより豊かに、住みよい街にするため私の考え」というテーマで作文募集を行った。市内各校から沢山の優秀な作文の応募があり選考するのに大変苦心したそうだが入選作の発表会を行い作文集も発行した。

指導力開発委員会は「日本の安全と防衛について」の市民アンケートを行いその集計結果をもとに市会議員を囲む討論会を行った。市内に基地を持つ当市には直接的なテーマでありこの会は各新聞にニュースとして取り上られ大きな反響を呼んだ。これらの事業は何れも相模原青年会議所の存在を市民に知ってもらえる大きな成果をあげた。当時は会員拡大の担当は会員開発委員会であったが創立以来始めてという10数名の新会員が入会した。またオリエンテーション制度もこの年始めて取り入れた。それ迄充分で

なかった財政面も明確化された。5周年を記念する例会も新入会員歓迎例会とあわせて実施される等、一回一回の例会が慎重に計画され実行された。宮崎五代目理事長としては、創立以来認承式の余韻で来たような状態を打破する為に五年目という転機を十分に生じて会全体の活発化を促す方向に向けるよう努力し最も良い方向に向けることが出来た。その裏には委員会の会議に迄全部出席するという大変な努力を払われたのである。当時の資料は数冊に全ファイルされ、その完全さに理事長とは、かくあらねばならないものかと驚きとともに大変感心し感激しました。

宮崎特別理事は来年は相模原青年会議所が創立以来10年、初めてロム推薦で送り出すことが出来たブロック副会長という大役を務めます。就任にあたっての一言は、ブロックとロムのパイプ役となるよう努力し、J.C生活最後の年となる1975年は悔いのないようにしっかりがんばりたいとのことです。我々会員も宮崎ブロック副会長に大いに協力し、ブロックで笑われることのないようロム活動を充実させ全員でがんばりたい。

(菅沼記)

社会と人間の 開発のための

理事長 宮崎直道

過去四年間、着実なJ.C活動を展開して来た相模原青年会議所も、本年は五年目と云う一つの節を迎えることになりました。栄光と繁栄の七十年代、その初頭の年にも当り、相模原青年会議所も一歩新たな方向に向かって行動しなければならないと思います。本年度の活動を展開するに際し、我々が考えなければならない点を提起してみたいと思います。

＝ 相模原の未来を考えよう ＝

まず青年会議所運動は、「より豊かな社会」の創造のための運動であり、その運動は地域社

会とその市民に密着し、市民と共に考え、共に行動することによって、より大きな成果が得られると信じます。我々が生活し、企業を営むこの相模原が将来どのような発展をするのか。行政・経済・教育・都市問題等について種々考えなければならない点が多いと思います。これから益々発展する相模原、その地域社会にひそむ問題に勇気をもって取り組むべきでしょう。本年は社会開発、教育問題についての市民討論会、作文募集、公開講演会をはじめ公開セミナー、相模原青年会議所PR版広報紙発行等の事業が計画されました。この様な事業を通して、市民と共に「明日の相模原」を考え、「社会と人間開発」のための運動を進め、より多くの市民に我々の運動を理解していただけるような活発な運動を展開したいと思います。常に地域社会に密着した運動を続ける時、我々の運動の成果が集約され、より多くの人々の共感が得られるでしょう。そして指導性をもそなえた青年会議所にしよう努力すべきだと思います。

＝ 仲間をふやそう ＝

次にこのような運動を推進する当り、もう一度その意義と目的を考えてみたいと思います。それは「豊かな社会の創造」でありそのための「社会開発、指導力の開発」がJ.C運動の根本です。「社会開発は人間の開発であり、指導力の開発は個人の開発である」と云われ、又「青年会議所が、特に社会開発を目指して行く団体であるなら、もしその利益が唯一握りの青年達にだけ帰するなら価値ある組織とは云えない」と云う通り、我々が社会開発を中心に青年会議所運動を展開する時、より多くの仲間を増やすことの必要性を感じます。そして社会の進歩に調和出来るような、市民としての責任意識、会員としての責任意識の開発と革新が必要でしょう。活発な青年会議所運動を展開するために、又若さにあふれた行動力のある青年会議所にしようするためにも、一層の会員意識の向上と共に、より多くの会員の拡大に努めるべきであると思います。我々の青年会議所は常に若さを保ち、行

動力と創造性に富んだ団体でなければなりません。小さな世論を大きな反映にまで、そして本年は五年目、今まで築いて来たJC運動の輪を更に大きな輪に広げようという努力したいと思ます。皆様の御支援と御協力を切にお願い申し上げます。

待望の防衛問題アンケート

「指導力開発委員会でまとまる」

昨年度の日本青年会議所のJCデー統一事業の「日本の安全と防衛について考えよう」では、当相模原の青年会議所は、市民の皆様を対象とした、アンケートを実施致しました。その報告書が大変に遅れましたことは、誠に申し訳ありません。ここにこの書面をお借りして深くお

詫び申し上げます。

さてこの報告書を作成しながら私の感じたことを述べてみたいと思います。この報告書の表紙にも使用しましたが、日本の安全と防衛についての問に対して60%との多くの皆様がもっと深く考えてみたいと答えています。このことは日本の各政党の防衛政策が国民に完全に支持されたものがないのではないかと私は感じました。今日の日本で国の基本的な防衛政策ですら、国民の合意がないままに政治が行われている、このことが日本の不幸であり悲劇であると思います。この報告書がそうした中ですこしでも皆様の考えの中に取り入れられれば本当に幸いと存じます。最後にこの報告書作成に当り、古侯青少年開発委員長の絶大なるご協力に深く感謝致します。

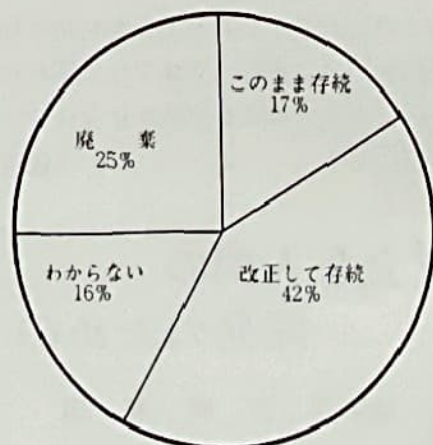
指導力開発委員長

中村宣勝

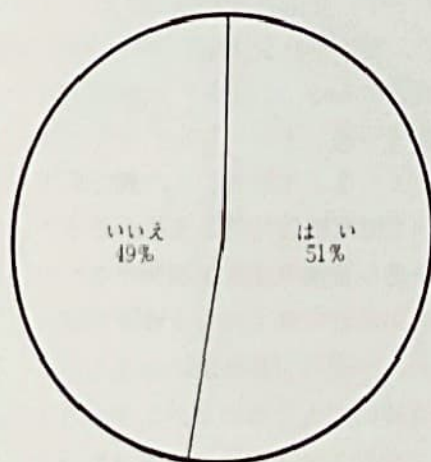
【以下冊子より抜粋した表】

年代別 男女別回答者構成表

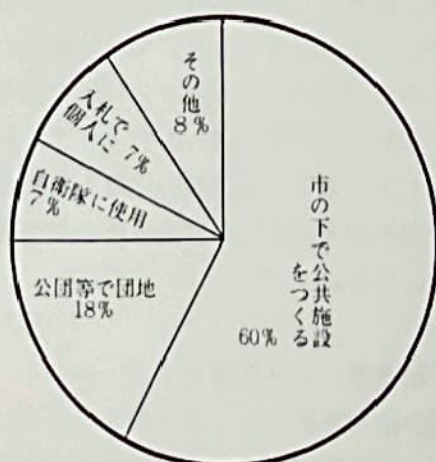
年代性別	10	20	30	40	50	60	合計
男	30	168	162	48	51	28	487
女	34	118	54	27	10	28	271
計	64	286	126	75	61	56	758
%	8.5	37.7	28.5	9.9	8.0	7.4	100.0



日米安保条約は



アメリカ駐留軍に代るべく自衛隊を強化した方がよい



基地返還後の使用について

市民集会

‘70年代の教育を考えよう’ に参加して

相模原ロータリークラブ幹事

伊 藤 茂

去る昭和45年9月5日(土)相模原青年会議所の主催で行なわれました、‘70年代の教育を考えよう’をテーマとする市民集会に参加致しましたが、当クラブの中里さんの名司会の下に、会の運営がなされましたが、殆んど立錫の余地もない程の盛況振りで相模原青年会議所のメンバーが真剣に比の問題と取り組んでいる姿にいたく感銘いたしました。

第1部は、かの‘やまびこ学校’で有名な明星学園講師、無着成恭先生の講演でしたが、そのなかで‘知識と人格とは共にあるべき表裏一体のものであり、相互の話し合いをもてない人間は、不幸であり、真の人間味のない人である。知識が判断を決め行動を支配する’という事を述べられましたが、味あうべきことであろうかと存じます。

ついで第2部のパネル・ディスカッションに入り講師の尾原神奈川少年院々長が家庭教育問題について‘家庭では自制力、抑制力をつけるべきであり、過保護は、危険、根性をつけるべきであると警告し、更に、躰はきびしく、は極めて危険な処方箋であり親自らが殊に父親の役割りの重大性を力説し、親自らが襟を正すべきである’と述べ、ついで山名定雄市立旭中学校長が‘現代の青少年は過去に於ける論理的な人間形成から映像感覚的人間へと変貌しており、情報時代に於ける極めて危険な因子を含むこと’に注意を喚起し、‘70年代の教育は感覚的なもの先行する中に、まず私達がなすべきことは、科学的、論理的なものに教育を向けるべきである’と強調されました。

更に市教育委員長であり相模女子大教授である豊口隆太郎教授は‘親子関係は人類が、この

地球上に生れてから、現代も尚、少しも変わらない実態であるとして愛情の尊さを力説し、戦前は家と家との結びつきの中にあつた親子関係が戦後は、愛情中心主義へと変遷、これがために離婚問題も頻々と多くなつた’と一見矛盾するかの如き言葉を述べておられましたが、これは‘過去に於ては、子はかすがい、と云われたが、現代では愛情を尊ぶが故に愛情のなくなった夫婦は別れるべきだ、しかし子が最もその悲劇の主人公である、親は住みよい家庭のムード造りをすべきである’と、最後に、館盛静光教育長より‘技術革新による物質優先の70年代の教育は、先づ人間尊重、真の民主主義を推し進め教育の機会均等の教育行政が行わねばならない、これがためには機械器具が要求されるでしょうが矢張り、これを使用する先生が大切であり、加えて社会教育がより重要な役割を果たす’ことを述べられ、最後に‘先生と生徒の人間関係の重要さ’を力説されました。

更に各講師から、一言ずつの発言があり質疑応答に入った訳であります。定刻を20分も延長するという、聞かせる者、聞く者の真剣な態度に痛く心を動かされました。

今後私達ロータリークラブがスポンサーとなっている青年会議所、或いは直接、育成致しておりますボーイスカウト、ガールスカウト或いはローターアクトクラブのこのような行事には、一人でも多くのロータリアンが出席して激励し‘BRIDGE THE GAPS’を實踐して頂きたいと存じます。

＝作文発表会に参加して＝

相模原市企画部長

田 所 長 義

市民のかたがたに、より高い文化的な生活を持っていただくためには、どのような施策を企図したらよいのだろうか、豊かなまちづくりへの希望はどうしたらかなえられるだろうか……、いつも私の念頭を去らない命題であります。

このたび、相模原青年会議所のかたがたが、

この問題に取り組まれ、次代をになう青少年の卒直な考えを問われ、その発表会を開催されるにあたって幸いにも私をはじめ、企画課長までもその席に出席させていただきましたことは、感謝にたえません。

人の大ぜい住んでいただけることは、たしかに繁栄につながることにはちがいません。地域の環境が円満なバランスを保っている間は、何んの問題も発生しないことと思いますが、相模原市においては、いま大きくそのバランスが崩れ、青空と緑を誇った過去の姿が一日一日後退を余義なくされている現状であります。

乱開発、公共投資を追い越す人口急増等数えあげると際限がないようであります。中・高校生の皆さんがたの貴重なご提案も、この問題解決へのご意見として、私たちは、謙虚にその解決策を進めてまいりたいと思います。

市政は、常に市民とともに進めていかなければなりません。人口のふえることはともすれば、住民の意志が市政に反映しにくくなりやすいきらいがあり、市と市民との心の触れあいがうすらいでまいります。

私たちは、市民の皆さんの声を十分に行政に反映させ、よりよい信頼関係を創り出していくよう努力を重ねております。とくに昨年7月、市の新庁舎の完成を期して、市民相談室を設けまして、地域の環境問題等について、いつでも門戸を開いて皆さんとの接触関係をより緊密にするようつとめています。

相模原青年会議所のかたがたの運動の目標を拝見いたしますと、地域社会の正しい発展と、そこに住む人々の幸せを願うことをねらいとし、行政への批判でなく、市政への理解と積極的協力と参加の姿勢であると述べておられます。私たちは、百万の味方を得た感がいたします。

急速に変わりつつある相模原市、それは社会環境の退化でなく、無限の可能性を持った青年都市相模原として、幾多の難関をこえて、より豊かな明るいまちを創り出すのでなければなりません。この難事業に取り組まれた、青年会議所のかたがたのご熱意に心から感謝申しあげると

ともに、その成果を期待いたします。

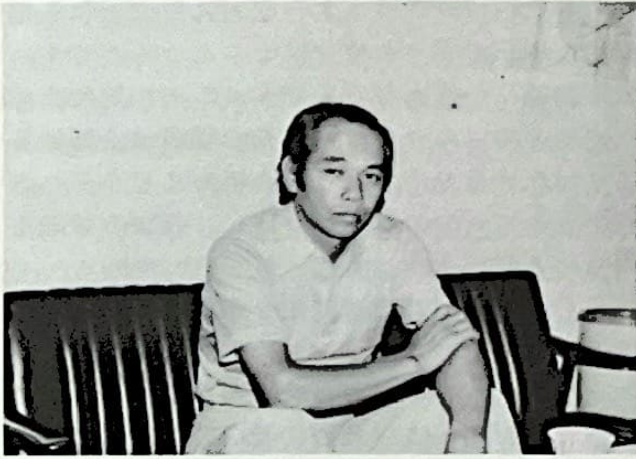
45 年度 役員 構成

理 事 長	宮 崎 直 道
直 前 理 事 長	古 藤 友 昭
副 理 事 長	大 貫 一 男
〃	花 形 義 一
財 務 担 当	鈴 木 英 次
事 務 局 担 当	内 田 寛
総 務 委 員 長	手 塚 幹 夫
社 会 開 発 委 員 長	宮 崎 昇
指 導 力 開 発 委 員 長	中 村 宣 勝
会 員 開 発 委 員 長	山 内 大
経 営 者 開 発 委 員 長	山 口 富 雄
青 少 年 開 発 委 員 長	古 俣 志 郎
広 報 委 員 長	川 合 貞 義

46 年度 役員 構成

理 事 長	内 田 寛
直 前 理 事 長	宮 崎 直 道
企 画 室 長	宮 崎 直 道
副 理 事 長	大 貫 一 男
〃	宮 崎 昇
〃	山 内 大
総 務 委 員 長	中 村 宣 勝
財 務 委 員 長	中 野 精 二
広 報 委 員 長	高 田 仁
社 会 開 発 委 員 長	花 形 義 一
青 少 年 開 発 委 員 長	久 保 田 栄 一
指 導 力 開 発 委 員 長	大 谷 提 亨
経 営 者 開 発 委 員 長	水 谷 好 佐
会 員 開 発 委 員 長	川 合 貞 義

1971年度



10周年への歩み

6代理事長 内田 寛

6代理事長内田寛氏に6月24日お目にかかりました。当時の思い出を大いに語っていただこうと山内OBと大貫理事長、宮崎直、荻野、井上徳、浦上の6名で伺いました。

内田氏は色浅黒く、日本人離れしたその容姿は、外国人と間違える程で、国際人の風格を感じさせます。その秘密は厚木高校から商船大学に進まれ、卒業後は海の男として、大型タンカーに乗り込み世界各地を巡られたからではないかと思っております。船の中での体験から得られたのでしょうか、海のように広い物に対する考え方と、一方でな精緻な行動力も伺われます。

内田氏の家族構成はお母さん、奥様、お嬢さんの4名で典型的な女子家庭だそうです。内田6代理事長は相模原青年会議所のチャーターメンバーであり、認承証伝達式の折には堪能な語学力で在日米軍音楽隊との交渉にあたられたそうです。

5代宮崎直道理事長の元で副理事長として各種書式の整備をされ、6代理事長となられてからは、定款を整備し、完全なものにされました。

現在当JCGが使用している書式の原型はこの時に決まり、その数は10数種にも及んだそうです。理事長として内部に目をつけることもなくなり、外へ目を向けて、大きな事業を計画しました。それは劇団四季による「ハムレット」、をチャリティショーとして開催することです。内田理事長はこのチャリティショーを2つの意味から計画したのです。1つは1時的な手元資金としかならないが、活動資金を集めたかったから。いま1つは相模原青年会議所として、アンケート調査をしたり、市民参加の運動を展開するときの基礎的な名簿を求める為です。しかし、実施には当初つまづきがありました。それは理事長が総会終了後、左足を骨折するという事故に遇われ1カ月間程入院した時、時期尚早との反対意見が出たのです。だが結果的には理事長の熱意が通り、実施が決定しました。こうして劇団四季によるハムレットが、実行委員長 宮崎直、票券管理責任者 大谷のコンビで売り出されました。ハムレットのネームバリューも良く、人気もあり、料金も手ごろで、市民会館が満席となる程の大成功でした。そして、理事長としてチャリティショーのようにメンバー全員が1つに結束し、事業を実施することがいかに青年会議所活動にプラスになるかということを実感なさったそうです。この頃は理事会や例会で会員同士よく激論をかわしたそうです。メンバー全てが良い意味で燃えていた時であったようです。(何かこの話しを聞いて最近のスマートな活動が気になりました。)最近の活動について内田理事長は、年頭初に提出した各委員会の計画が年末までに消化されていないこと、事業報告すら提出されていない点を指摘して、「目的をつかんで事業をやってもらいたい」と活動の基本姿勢をさとされました。

例会もユニークなものが多く、出席率も60パーセント以上であり、25名を割ることはなかったそうです。またこの頃は理事長と理事の年齢的な差があまりなく、良い意味での競争心があり、血気盛んなメンバーが多かったそうです。

またチャリティショーの成功により内田理

事長は劇団四季との関係も深まり、地域の若人も動員する自信もあって、相模原に音協を作ろうと提案されました。、これだけは副理事長以下の大反対によって実現しなかったと残念そうにおっしゃっておりました。

5代目、6代目、7代目と3人が3人とも厚木高校の卒業生です。そして卒業の年度が7代目、6代目、5代目の順で、後輩から先に理事長になった訳ですが、協力体制も良く、この3人の理事長時代が相模原青年会議所の最盛期？と笑って話されました。

内田寛氏は青年会議所に入会しなかったらいろんな意味で今の自分はなかっただろうと述懐されています。最後に、現役の会員に希むこととして、JCそのものに、のめり込んだ活動をし、大いに感動し、批判の精神も養ってほしいと述べられておりました。(浦上記)

71'年頭に当って 理事長 内田 寛

JCはいわゆる社交団体でない。修養機関でもなければ経済団体でもない。JCは社会団体であり実行機関である。JCの精神的支持はヒューマンイズムにあり、JCの目的は有識青年の社会権威の実現にある。それは社会奉仕に集約され、その内容は時と所によって異なるがその実践の過程で修練が達成され、友情が高められる。JCの性格は進歩性、積極性、国際性の三点に象徴される。長文を引用して字数をかせましたが、1955、56年会頭の指針であります。

昨今青年会議所運動が曲り角にあるといわれましたが今日初心にかえってかみしめてみるべき言葉だと私は思います。又、60年代で区切られた造反運動と破壊は70年代には創造の動きとなると信じます。それは基調が造反であれ体制側であれ、新しい創造が生まれると同時に我々も初心を忘れずにそれらに対応してゆかねばならぬ困難もひかえているといわねばなりません。ニーチェは、²理解は行為を停止させる。行

動人とは理解の危険を回避する直視力の持主のようである。²と観破しています。

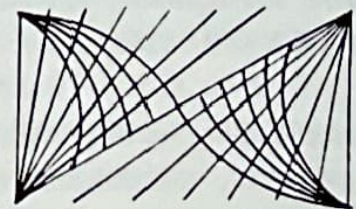
私はこれを青年会議所の若さと行動力の本質にふれるものとして忘れたことはありません。

あるテーマがあります。がどんなことにも拒絶的な理屈の堂々めぐりはなりたつものです。公害問題にしても然り、です。この拒絶的な堂々巡りの中にあっては、活動の進展は全然見ることは出来ません。そこで今年のJCデーへの指針として一つの提案をいたし、皆様の賛同を得たいと思います。

JCの若さの特権は時代を先取りすることですが、すでに大向うには個々の公害に対するオーソリティのアプローチがあります。そこでそれを飛びこして「公害のない社会とはどんなものか²と定めてみたいと思います。又現実の問題となっている低開発国、特にアジア向けの日本の諸援助はそれに派生するすべての公害を今日の日本以上にまきちらしながら進められ、いつかはエコノミックアニマルという言葉が世界に一般化し、アジアを日本以上の公害が覆うのではないのでしょうか。

「文明が2倍になれば危険(公害)も2倍になる²とは何百年も前からある言葉です。つまり公害への挑戦は即文明への挑戦です。文明を破壊して我々の生活はないとすれば、この理解の堂々巡りを断ち切るには、新しい創造文明に文明社会を求める外にないかもしれません。公害を接点として公害のない社会を市民と共に考え、一方無公害を基調としたアジア政策の進展に行動を起したい考えです。

頭初に書きましたとおり目標の実践道程に於て修練と友情を生みだすのがJC活動の本質であります。諸兄の御指導と御支援を得たいと願います。



市内新入学児童 に交通安全

ランドセルカバー寄贈

恒例の市内新入学児童に対する交通傷害保険つき黄色いランドセルカバーの寄贈は、メンバー各位の協力を得て4月5日に行われた入学式に間に合うよう各小学校に配布を終わりました。

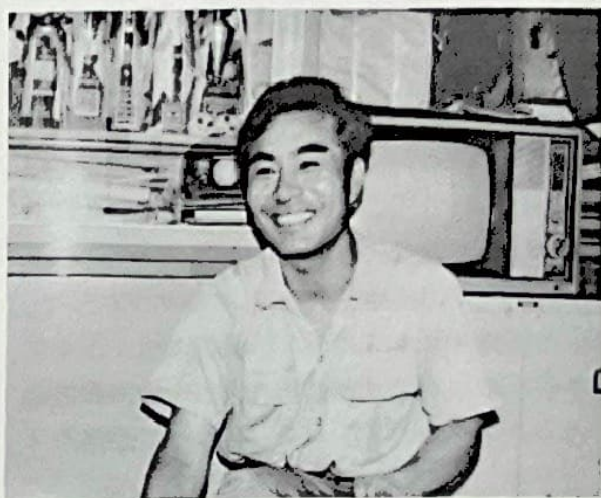
入学式当日には、内田理事長が向陽小学校で行われた贈呈式に出席し、新しい小学生と同席の父兄、先生方、PTAの関係者らに対して、交通公害から子供を守るための我々の願いと行動をアピールする挨拶を行いました。

公害のない明るい豊かな地域社会の実現を掲げてスタートした今年の我々青年会議所の活動は、各委員会の動きも軌道に乗り活発化してきました。中でも交通戦争とまで呼ばれる公害の真只中へ新しく子供達を送り出す親達の心の負担を少しでも軽くしようとの願いをこめて行われているこのランドセルカバーの寄贈は、今回で第4回目を数えるに到り市民の我々JCに対する見方も一層地に着いた市民に密着したものと強く関心を呼び高く評価されてきています。

しかし乍ら、首都圏のベッドタウンとして又、内陸工業地帯として人口が年々急増の一途を辿っている当市の新入学児童の数は、それに伴い激増し昨年度の2割以上も増加し今年度は6,100名に及び、今回の寄贈に対する予算も30万円を越える大型となりましたが相模原ロータリークラブの絶大なる御賛同を頂いて漸く実現したものであるます。

こうした背景の中にあって次年度以降におけるこのランドセルカバーについては若干の問題がありそうですが、目下そうしたJC活動の裏付けとなる予算措置を構ずるべく企画され7月7日開催を予定されている第1回チャリティショーが如何に大きな意義を持っているかを我々は再認識し、必ず成功させるよう努力しなければならぬと痛感します。

1972年度



10周年への歩み

7代理事長 宮崎 昇

7月17日の昼、休み時間を利用して宮崎昇7代理事長を勤務先相模工機所にお尋ねしました。当時の思い出を語っていただこうと山内OB、大貫一、磯崎、浦上の4人で伺いました。

宮崎昇氏は当LOMで先生と称される唯一の人です。その理由は以前中学校で教鞭をとられておられたからであり、会員の植村、小川、榎本三君は先生の教え子とのことです。教壇を去られて相模工機所へ専務として入社後、現ロータリアンの菅沼氏やOBの加藤氏の勤めでJCに入会されました。相模原青年会議所のチャーターメンバーの1人です。山内OBの話によれば先生は7代理事長になる前何度か理事長に推されたのですが、「時期をみて」、とのことで万年副理事長でおられたそうで、まだか、まだかと理事長になられるのを会員一同待ちこがれていたそうです。

6代理事長が内部的な書式等を充分整備されたので先生は内部組織の改革を図り、副理事長を3名とし、同時に室長とする現在の室制度の基本を組み上げました。総務、開発、企画がそ

れであり、当時副理事長の山内、大谷、古俣の3氏が室長となりました。この年の全国理事長会議には、初めて相模原青年会議所もキャラバンを組んで大挙京都へ行きました。そして年頭初の総会に於いて、理事長の熱のこもった20分の所信表明があり、理詰めの運動がはなばなしくスタートしたのです。全理事も張切って協力し、メンバーも43名程でスタートしたのですが年度末には48名になりました。また先生は理事長時代、スポンサーである川崎J.C.（当時理事長は成田氏）の援助を受けて、神奈川ブロック、関東地区協、日本J.C.へ次年度出向者を出す努力をされました。その結果八代山内理事長の時宗村、金子2名のメンバーが日本J.C.に出向することができました。当時の行事としてはまづ、年頭初、神奈川青年の船が出航したことです。これは、青年会議所と神奈川県が共催で、勤労青少年を対象に450名の若人を組織して16日間の船旅（行き先はマニラ、香港）を実施しました。当L.O.Mより理事長代理として山内副理事長、他に喜多、松田の両君が参加し2月初めの帰国後の例会がその報告会となりました。青年会議所らしい、さいさきのよい例会でスタートしたのです。

また5月3日に青少年会館で創立総会を持ったボーイスカウト第7団は、当時、会頭であられた小野正孝氏の提案するヤングブルー計画の一環として発団されたものです。しかし、育成するこのボーイスカウトは有資格者の指導を必要とし、古俣、中島、久保田の3君が資格を取得し指導していったのです。当時は盛んにL.D.やC.D.という言葉がもてはやされ理論的なJ.C.活動が展開されたのです。そういう意味ではボーイスカウト第7団については「生みの苦しみ」をメンバー一同味わったのではないかと思います。なお、宮崎氏は現在のボーイスカウト第7団の姿をみて、「今後の主体はJ.C.から育成会へと移行するべきである」と申しておられました。

例会活動も活発であり、大磯ロングビーチの家族会や川崎J.C.との合同例会（小杉会館）を

開催し、J.C.デーに当麻山の無量光寺で1泊のボーイスカウト指導者講習会も実施されました。さらに年末の12月8日には第2回チャリテイション「オンデューズ」（劇団四季）を開催しました。時期的に12月という販券には最も困難な頃でしたが全会員のがんばりによって結果的には大成功。大いに会議所のPRになったそうです。年末には三浦にて忘年会を持ち、充実した1年を過ごしました。

宮崎昇理事長は当時を顧りみて、「家族の協力にまず感謝し、青年会議所に入会したことによって学校の先生では経験できない得がたい体験をした。」と、申されております。「青年会議所はきれいごとではない。青年会議所活動は理論の先ばしりを追うのではなく、自らが卒先して動き、汗をかき活動することに意味があるのだ。」ともつけ加えております。

当時はゴルフをしない理事長であり、（現在はこれほどおもしろいものはないとおっしゃってます）満足した1年を過ごした理事長の1人ではないかと思えます。そんな意味からも訪問者一同、青年会議所を良い意味でのバックボーンとして過ごされた宮崎昇7代理理事長がうらやましくなりました。この日、お目にかかれませんでした。が、認承証伝達式の日にはピアノを弾かれた奥様と、3人のお子さん（2男1女）から、夫として父親として、の宮崎昇氏を一度お話しいたきたいなあ、と思いました。（浦上記）

運動への参加価値あるJ.C.

理事長 宮崎 昇

創立以来七年を迎えた相模原青年会議所の1972年度の活動を積極的に始動するに当り、若干の所見を述べさせていただきます。

まづ第一に相模原J.C.の一步前進のために参加への御協力を切望いたします。メンバーとして参加こそJ.C.運動の真の姿であります。こゝで皆さんに本年度は是非これをやってもらいたいとか、やってほしいという気持はありません。むしろ皆さん方から「ぼくはJ.C.運動をこう

したい。こうするんだ」という意気込みを、J C運動へ挑む姿勢を積極的に盛り上げていきたい。その盛り上がりこそ真のJ C運動への参加ではないかと思うわけです。私たちはJ C運動の真価がどこにあり、何をもともとめて入会し、在籍しているか、そして離れがたい魅力がどこにあるかを、今一度じっくり考えてみようではありませんか。

第二に豊富な体験と大きな影響力をもつ歴代理事長をはじめOBの先輩諸兄、そして現役理事経験者の諸兄には、本年度も相模原J Cの灯が停滞することのないよう適切な御指導と叱咤激励を賜りたいと心からお願いいたします。

第三に青年会議所運動の二つの基幹であるCDとLDへの積極的に取り組む姿勢を盛り上げたい。綱領にあるようにJ Cの理念は即CDの理念と信じます。CD計画の推進こそが、J Cが地域社会から期待され「頼りになるJ C」として地域社会から歓迎され、更に密着した運動が展開できるからです。市民と共に歩み、リーダーシップをとらんとするJ Cは、もっと深くCD、LDについての理論学習をする必要があると考えます。そのための日本J Cの刊行資料は充分に揃えたい。

第四に事業（活動）計画について室重点事業として本年度はこれを軸に、独自の思考と創造性に溢れた企画に全会員参加で成果を上げたい。

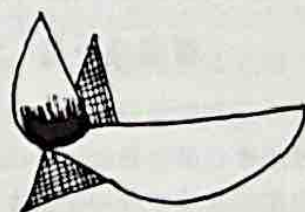
最後に、どうかこの一年全会員うって一丸となって方向を誤らず価値あるJ C運動への参加を重ねてお願いいたします。

年間トピックス

- 5月 小野会頭3万人対話集会参加。
- 6月 「K」法セミナー」秦野J C須山君を講師に招き実施。
- 8月 家族会 於「大磯ロングビーチ」
- 9月 牛尾治郎直前会頭を招き経営セミナーを一般公開にて行う。
- 10月 市議会議長を囲み、基地問題について討議。
- 12月 第2回チャリティーショー。劇団四季「オンディーヌ」上演。

交通安全教室用 信号機セット贈る

昨年度、内田理事長のもと、相模原青年会議所初めての試みとして「交通安全のためのチャリティショー」を開催。大成功を収めた訳ですが、この益金の一部を、市担当者の意向をいれて、学童交通安全教室用教材として、電動3点式信号機と道路標識20基を各2セット宛を贈ることとし、3月4日に、市長室で、この贈呈式が行なわれました。市当局からは、市長、市民部長、上杉課長、J Cからは、理事長、宮崎、山内、古俣、各室長広報委員会から、岡崎委員長、細谷委員、が出席。市長と市内の交通安全対策等について懇談しました。



47年度役員構成

理 事 長	宮 崎	昇
直 前 理 事 長	内 田	寛
副 理 事 長	山 内	大
〃	大 谷	暉 亨
〃	古 俣	志 郎
企 画 室 長	宮 崎	直 道
特別委員会委員長	内 田	寛
財 務 委 員 長	大 貫	一 男
総 務 委 員 長	中 村	宣 勝
広 報 委 員 長	岡 崎	秀 健
社 会 開 発 委 員 長	川 合	貞 義
青 少 年 開 発 委 員 長	高 木	史 郎
指 導 力 開 発 委 員 長	水 谷	好 佐
経 営 開 発 委 員 長	喜 多	貞 夫
会 員 開 発 委 員 長	久 保 田	栄 一

＝日本ボーイスカウト 相模原第7団発団す＝

5月3日、県立相模原青少年会館に於て、相模原青年会議所が、育成団体となる、日本ボーイスカウト神奈川連盟、湘北地区、相模原第7団（少年隊・年少隊）の発団式を挙行。式典終了後、発団記念事業として、会館々庭に、山田副ブロック長始め、J、Cメンバー、スカウト及びスカウト父兄等関係者の手による記念植花（樹）を行いました。

発団経過報告

育成会々長 宮崎 昇

風薫る陽春の今日の佳き日、相模原青年会議所が育成する第一号の日本ボーイスカウト神奈川連盟相模原第7団の記念すべき発団式に当り、市より館盛助役、田所教育長をはじめ各種団体の代表者の方々、近隣青年会議所会員諸兄、ボーイスカウト神奈川連盟理事長をはじめ県連、湘北地区役員各位、そしてお仲間入りさせていただき今後共同志的結束の中で種々御指導御鞭撻をいただく先輩友団のみなさん、かくも多数の御臨席を賜わり盛大に式典がとり行われますことを心より御礼申し上げます。

相模原青年会議所がボーイスカウトを育成しようという動きは数年来ありましたが、機熟せず昨年後半に至り、県連副理事長であられる伊藤病院院長の伊藤先生の熱情溢るる適切なる御指示、御教示と、加えて県連、地区の役員であります稲葉先生、奥津先生、大島先生等にも何かと御指導を仰ぎ、本年度青年会議所の重点事業として社会開発室担当として大谷副理事長、高木青少年開発委員長、川合社会開発委員長を中心に着手し、昨年末には団委員会の発足と、隊員募集にと積極的推進に始動しました。本年二月に育成会の総会を開催し、少年隊、年少隊

共直ちに活動に入り、4月には日本ボーイスカウトへの加盟審査を受け早速その認承をいただき今日に至った経過であります。この間青年会議所会員であって、隊長・副長として古俣君、久保田君、中島君にはその先頭に立って隊活動を実践してきていますことを御報告いたします。

青年会議所運動は社会と人間の開発を目指して地域に密着した運動を進めるところに重点があり青少年育成、ボーイスカウト育成もその一環として全力投球をする事業ですが、何分にも初めての経験であり何かと不行届きがあらうかと思いますが、今日御臨席賜りました皆さま方の暖かい御支援と御指導を今後共お願いいたしまして経過報告にかえさせていただきます。

「5月3日 発団式あいさつより」

創始の精神

（日本JC設立趣意書の一節ヨリ）

現下の混乱した世情下にある我々青年の使命は大である。われわれは日本再建の指導者たらねばならない。日夜当面し或いは将来に予想される諸問題に対して真険に立ち向っている。そして青年に対して国民全体の信頼と期待の目が注がれている。

それ故に我々は単に一社会、一国の觀念にとらわれる事なく常に目を開き国内的に国際的に広く友人と先輩と接触し、その識見を高め青年に共通な高い理想追求のひたむきな情熱を確固とした世界観によって裏付けなければならない。

更に我々はあらゆる機会を捉えて自己社会国家ひいては世界の改善の為に、一致した活動によって何らかの貢献をなさなければならない。

昭和24年9月3日

1973年度

年頭に際して

理事長 山内 大



1973年が始動し、相模原青年会議所も創立以来、こゝに8年目を迎えました。

誠に御同慶の至りですが、言を異にすれば渋滞期にさしかかっていると、言っても過言ではないかと存じます。会員各位のJ C運動に対する無関心

・無責任・無気力・無感動も随所にみられる昨今です。

今、一度青年会議所運動の発祥の原点にかえて四囲の情勢を充分検討し、絶えず問題意識をもち、それを社会に提言し、若い力で次代への布石としての『人間と社会の開発』にいそしもうではありませんか。

限りある青春、限りある人生を青年会議所運動で燃焼させ、自分にとって悔いのない充実した時間をもつことも意義の有ることと信じます。かゝる意味あいから本日の総会に基本事業として私は次の二点を提唱致したいと思います。

その一つは、今迄青年会議所運動にとってはタブーとされてきましたところのJ Cと政治についてであります。

現今の社会は都市化の進展と情報化社会を指向する急激な変化にさらされて考えも及ばぬ様な変化をとげつつあります。

そのなかで我々青年会議所が孤高の精神をとりつづけることには限界があると思います。

政治については、まず我々自身が政治を知り、政治に取り組むべきです。地域社会の政治はその市民のレベル以上のものではないと言われま

す。

地域社会に住むものとしてJ C運動を推し進める一つの方法として模擬市会をとりあげてみました。

今一つは、地域社会にひろく大きく呼びかけ同志の士をつのることです。優秀な積極性に富んだ仲間を集めることは、そのまゝJ C運動の積極的な行動となって表われ地域社会の期待を身一杯に受ける結果になると信じます。共に手をたずさえて行動できる会員を増やそうではありませんか。そしてその輪を一步ひろげ近隣地に会員会議所を設立してみようと考えた次第です。

以上、これの実現には相当のエネルギーを要すると思いますが、会員諸兄には全力をあげて充分の意をつくす様お願い致します。

相模原青年会議所五捨名の意気がびったりあえばその結果はおのずから推意出来ると思つて居ります。

本年度の会員皆様の積極的な各種行事への参加と、御健斗を祈ってごあいさつと致します。

(総会あいさつより)

48年度役員構成

理事長	山内 大
直前理事長	宮崎 昇
副理事長	大貫 一男
〃	川合 貞義
〃	大谷 禎亨
総務委員長	金子 昌弘
財務委員長	大貫 信正
広報委員長	黒川 勉
青少年育成委員長	中島 莊三
会員拡大委員長	水谷 好佐
社会開発委員長	中村 宣勝
指導力開発委員長	高木 史郎
青少年開発委員長	岡崎 秀健
経営開発委員長	宗村 泰延
会員開発委員長	久保田 栄一

早起き野球大会

J C デー 統一行事

市内の中小企業に働らく若者達が参加し、7月から毎週日曜日、朝5時半よりトーナメント戦が20チームの間で行なわれた。青年会議所(JC)の発足日を記念し、9月3日を「若人と共に行動しよう」と計画、実行に移したもので、メンバー全員が協力しなれぬ墨審など、毎週ねむい目をこすってのつらい試練?でもあった。参加チームの選考には、一苦労があり、参加希望チームは、処理できない程の数がありました。しかし、せっかくの希望乍ら、特別強いチーム(市内野球協会A、Bクラス)や、大企業からの参加は、レベルの点、又本大会の主旨からも遠慮願ひ、野球連盟、審判の方々に御協力を求め、なるべく力量のバランスのとれるチームの組合せを行ないました。日程の関係等で、トーナメント戦になりましたが敗者復活戦を是非やって欲しいとの声もあり、スタートから、かなりの盛り上りをみせた。早朝野球に参加してみて、初めて知った事だが、朝早くから野球試合を行う若者達がいかに多いかという事だ。グラウンド確保に一苦労で、やりたくとも出来ない現実を知った事は、この催しの主旨の大きな収穫の一つであった。幸い、我々が企画した今大会は、相模原市教育委員会、相模原市商工会議所、市野球協会が後援して下さり、スムーズに運びました。二ヶ月間に亘る戦いを通じてメンバーも毎週日曜日の参加は大変なことだったと思う。表彰式には約70名程の参加をえ、なごやかなうちに2ヶ月間の労をねぎらいあった。参加者からこの大会を是非来年度から継続して欲しいとの声が高く、大変な事業をかかえてしまったと思う反面、これだけ盛り上った声を、さらに大きな輪に広てみようと思う気持ちをもった次第です。

若人と共感の場

青少年開発委員長 岡崎秀健

JCデー「若人の日」の記念事業として行われました「早起き野球大会」も9月2日の盛大な表彰式懇親パーティーをもって無事終了出来ました。当委員会が担当をまかされ、企画推進してまいりましたが、準備の段階、試合の消化等まごつくばかりで決してスムーズな運営とは申し上げられませんでした。これを助け2ヶ月に亘り朝5時という大変厳しい時間からグラウンドに集合し、慣れない墨審の役を熱心につとめ、あとかたづけまでして協力して下さった会員諸兄には心からJCの友情を感じ、敬意と感謝の意を表すしだいです。

おかげで参加20チーム約300名の選手や関係者各位の中からは大いに好評を博しております。青少年の社会意識の高揚云々…等大げさな事は申しませんが多少なりとも「若人の日」のテーマである「若人と共感の場をもつ」ことが出来たと実行委員の一員として信じて居ります。この大会は継続事業として今後も続けられることになりました。今年度合い言葉のようになり返した参加する姿勢を若人と同等の立場に置き我々の活動が御仕着せでなく若人と密着した実効性のある活動として続けて行けたら幸いと存じます。

優勝	チーム	日	金	工
準優勝		小	泉	産 業
三位		南	相	チ ャ ム

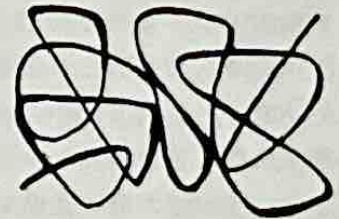
チャリティーボウリング — 2月 —

青年会議所が行なうさまざまな事業の中で、リクリエーションを通じて、奉仕の目的をもつものがいくつかありますが、中でも今回、メンバー及び家族従業員の方々で行いましたチャリティーボウリング大会は雨天にもかかわらず140余名をみる盛大なものでした。益金として37,708円を社会福祉面に寄贈させて頂きます。今後こうした奉仕活動を継続させて頂きますが、何よりも多くの参加を望みます。今年もチャリティーショーの企画やオークション、その他、奉仕を目的とする沢山の事業計画をかかえています。青年会議所とは、奉仕、友情、修練の三つの柱を目的として、地味乍ら、とどまる事のない若人の集まりです。私達がみなさん市民の方々に、呼びかけて、明るい街づくりを一緒につくって行こうと日頃努力を重ねております。たとえ娯楽の結果として、福祉面に奉仕できたものでも、立派な計画だけに終わってしまうものよりは、はるかに尊いものと信じます。私達がロータリークラブの方々と行って参りました新入学児童へのランドセルカバー配布は少しでも交通事故をなくそうとの目的で続けて来ました。これからの私達になお一層の御理解と御協力をお願いしさらに私達JCにご注目下さい。

韓国の旅 — 4月 —

東京から韓国の首都ソウルまで、ジェット機でわずか1時間40分。韓国は日本からいちばん近い外国です。われわれ青年会議所は去る4月13日、3泊4日の日程で韓国を訪れました。経営開発委員会の事業計画として、「韓国を知ろう」というテーマのもと、メンバー13名が参加し、短い日程でしたが休戦下の韓国の目覚ましい発展ぶりを見、また、10年以上は遅れているだろうと思われる様々なものを見聞し、改めて

日本の現状を再確認することができました。われわれと同じ青年会議所が韓国にあります。今回そのメンバーの人達に現在行っている事業内容を披露して頂いたり、また、彼等が首都ソウルで立派な事業をもつ一方、貧困に苦しむ人達の救済に真剣に取り組んでおられる事に深く、感動させられました。働ける肉体を持ちながら、貧困の為に仕事を持つことのできない人達に毎月1台づつ、リヤカーを寄贈したり、靴みがきの少年達や、新聞配達少年達1人1人に運動ぐつを毎年定まった日に贈ったりと、市民に密着した奉仕活動を行っています。現在の韓国の人達は、ぜいたくをつつしんで、国の発展の為に一生懸命のようです。白いゴハンなど食べたくても、いくら金をだしても食べられません。韓国人が云っています。「あと5年から7年先には、きっと日本を追い越すでしょう」と、たぶん、それは実現できると思います。



チャリティーゴルフ — 8月 —

去る8月3日かねてより立案中であったチャリティーゴルフ大会が、えん天の下、相模原ゴルフクラブで行われた。参加者は、ロータリークラブ、ライオンズクラブ、相模原青年会議所メンバー、ゲストに女優山東昭子さんを迎え総数60名、30度を越す厳しい暑さで、水を呑み呑みの状態だった。ゲストの山東さんも「私はゴルフは大好きですが、今日の暑さにはまいりました」と云っていた。そんなうちにも、無事1ラウンドの試合を終え、パーティが始まり、山東さんから記念サイン色紙がくばられた。快よくこの催しに出席して下さいました山東さんには、相模原の活鮎をおみやげに差上げた。チャリテ

イーゴルフ大会だが、只一律いくらと額をきめただけでは芸がなく、入賞者にはペナルティー寄金なる妙な企画をつくり、ほとんどの入賞者はこれに快よく応じてくれた。

約15万円が相模原市善意銀行局長に山内理事長より手渡された。各方面の皆さんの温かい御協力により無事に終了致しました。

~~~~~

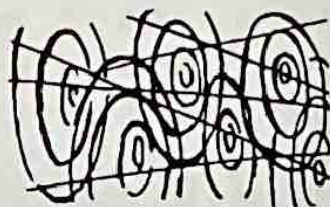
### 第3回チャリティーショー 劇団四季 「間奏曲」

第1回目「ハムレット」、第2回目昨年12月「オンディーヌ」に引続き、今年度第3回目のチャリティーショーが先月9月30日に行われました。劇団四季による「間奏曲」が演じられた。第1、第2と引続き四季の公演でかなりのファンが増えたことと思われませんが、やはり一般興業と違ってファンの層が比較的限られているようで、メンバーの入場券販売にあたっては、いつも乍ら大変苦勞の重なりでしたが、当日、ひどいドシャ降りにもかかわらずほぼ満席になった事で実のところ皆ホッとしたようでした。ジロドウ原作による「間奏曲」は生の世界と死の世界を二人の主人公、浜畑憲吉、加賀まり子の共演でコミカルに演じられました。

生と死の世界の隙間をさまようイザベル（加賀まり子）を見て、先日来、週刊誌をにぎわせた例の事件とオーバラップして観えてしまったのは、あまりにも熱演しているせいだったか？ 約二時間の公演が無事終了した頃は雨もあがりメンバー一同入場者の方々に深く感謝の意を示しました。

引続き、三協会館にて四季の団員としぼし、懇談パーティを行い最後に「若い我等」を全員合唱して打上げた。交通遺児奨学資金の為のチャ

リティーショー。来年引続き行われますが、正直のところ、今メンバーの心境は終ってホッとしたというところではないだろうか。



## 模擬市会開催に際して

社会開発委員長 中村宣勝

模擬市会の開催を前にして、開催目的及び日頃私が考えている青年会議所運動について述べてみたいと思います。

青年会議所運動……それはいうまでもなく「明るい豊かな町づくり」所謂「コミュニティの創造」であります。私も過去8年間この運動に参加してまいりましたが、目的達成上、二つの大きな問題があることに気付きました。一つは「明るい豊かな町づくり」という大きなビジョンの為、具体策にかけ、何を実践してよいのか分からないことであり、一つは、この運動にかにして多くの住民の参加を得るか、という点です。そこで私は運動の対策であるこの社会を私なりに考察してみました。

過去の日本において現在のように物質的に豊かな社会があったでしょうか、おそらくないでしょう。ところで精神的な豊かさはどうでしょうか。それは戦前よりも、むしろ低下しているときえ私には思われます。「衣食足りてすなわち榮辱を知る」という古人の考えは残念乍ら、現在の日本においては何ら意味を持ちません。この物質的豊かさと精神的貧困さのアンバランスの社会において、私たちの運動である「明るい豊かな町づくり」を實踐するには、現在の社会を構成している私たちの思惟の方法を根本から変えなければならないと思います。私利私欲の追求の手段としての政治、行政、私利私欲は



さらに多元化し、複雑化する。その結果として物質的豊かさ、精神的貧困といったアンバランスな社会が生じてきたのでしょ。勿論私は我々の欲求による政治を否定するわけではありません。しかしそれのみでは、このアンバランスな社会を解消して「明るい豊かな町づくり」を実現することは不可能だと思います。豊かな知識を持ち、正しい批判力を養い、社会を構成している一員であるという自覚を持つ人々が、よ

り多くなることこそ「明るい豊かな町づくり」への近道であると思います。

そこで私たちの住んでいる、この相模原市の行政の源である市議会に目を向け、日頃私たちが持っている考えを、市議の方々に正していただき、この中から新たる行動のエネルギーを吸収し、さらに多くの人々の参加を得、相模原を「明るい豊かな町」にしようではありませんか。それが私たちの運動であると思はいます。

## 模 擬 市 会 開 催 さ る

本年度の相模原青年会議所の重点事業である「相模原模擬市議会」が11月10日、土曜日午後1時、相模原市役所内の相模原市議会場で開催された。この模擬市会は社会開発委員会を中心としたプロジェクトチームが担当しそれに山内理事長をはじめ、5代目理事長の宮崎直道君が積極的に協力し開催の運びとなった。議会は議長に直前理事長の宮崎昇君、市長に5代目理事長の宮崎直道君、助役に山内理事長、大谷副理事長、議会事務局長に小山君、議員には当会議所メンバー、担当理事者には市議各派代表で構成された。

議会の開会前にはセレモニーが行なわれ、加藤長治相模原市議会議長、館盛静光助役をはじめ多くの来賓が出席された。その後、場所を市議会場に移し、模擬市会が開会された。まず宮崎昇議長の就任挨拶に始まりあらかじめ届け出があった一般質問形式で議会が運営された。まず、かわきりに宮崎直道市長のまことに当を得た所信表明ついで質問者のトップバッターは西門に住み、先の戦車闘争を体験した、大貫信正君が立ち、その経験の中から基地問題について鋭い質問を浴びせ、答弁にあたった丹治社会党議員自分の持ち時間をオーバーするありきまで、議会事務局長の小山君の緊張した表情が議場の厳肅さを一層深めた。

二番バッターは自分で建設関係に携わる高木

史郎君が建設問題について、市内業者の育成対策を中心とした質問がされ、答弁にあたった一政会の長友議員の模擬市会ならではの市内業者にたいへんありがたい答弁が印象的であった。このころには一般議員も議会の雰囲気慣れようやく落ち着きを取り戻し平静の表情に戻った。その中で6代目理事長の内田君から公害問題について鋭い質問が行なわれ、答弁に立った公明党の峯尾議員も真剣な表情で答弁にあたった。この後休憩時間になると一日議員のJCMメンバーは一時間半に及ぶ息づまるような質疑応答に疲れたのかさかんに背筋を伸ばしていた。

休憩後、最初の質問には久保田栄一君が教育問題について質問し、相模原の急増する人口問題の中でも最も深刻な学校建設について問われ、教育問題では市議会でも有数の理論派である清風会の溝淵議員がたいへん現実的な答弁をなされたのが印象的であった。次に水谷好佐君の商工問題についての質問があり、これには民社党の岡本議員が答弁にあたった。最後に次年度理事長候補の川合貞義君が社会福祉について質問した。川合君と市議会一の論客といわれる石黒共産党議員との息づまる論戦は、まさに青年会議所ここにありとの感があった。この後、助役の大谷副理事長からお礼のことばがあり、4時間に及ぶ模擬市会は厳肅な中で幕を閉じた。

中村記



## 1974年度

## 年頭にあたって

理事長 川合貞義



創立9周年を迎えた1974年度の相模原青年会議所運動を始動するに当り一言述べさせていただきます。

激動の70年代と言われて早3年経過、先のドルショックに次いで昨年来の全世界的な石油パニック、これにかかわる不安

な社会情勢と、まさに内外の厳しい激動の諸情勢の中でJC運動をいかに進めるべきかをまず慎重に考えなければならないと思います。

1月20日京都国際会議場で行なわれた第一回全国理事長会議では早速日本青年会議所としての緊急事態宣言を採決しました。それは「国家的危機とも言えるこの時期に当り、われわれJAYCEEは、JC宣言文及び綱領の精神を想起しつつ、JCが何を為すべきか、何を為し得るかJC運動の真価を問い、その未来を決する重大な時であることを全会員が認識しなければならない」と言う事と、「JC運動のあり方と会員個人個人の姿勢を改めて問い直し、われわれにとって可能であり、且必要なことを決意する」と言う内容であります。具体的な活動基準やプログラムも可決されましたので、本年度事業活動の中で充分検討し組み入れたいと思います。

創立9周年は丁度記念すべき相模原JC10周年を前に十年一昔の最後の年になるわけですが、会員諸兄のJAYCEEとしての使命感を結集して協力をいただき、内部運営の充実に力を注ぎ一つの強いたくましい良い節を次なる10年に

引継ぐことを基本として終始努力をいたす所存ですが、全会員の努力と協力をまずお願いしたいと思います。良きリーダー山内直前理事長、宮崎、内田両特別理事をはじめ大貫、久保田、岡崎三副理事長と、理事諸兄、共々に協議すべき点は充分尽し、移譲すべき点は責任を持って、全うしてもらうよう運営面では責任分担制を踏襲いたします。

私は、ここ数年来、LOMの重点事業に対する委員会の協同性、協調性、協力性を主張してまいりました。

これは、青年会議所の大きな事業いわゆる重点事業に関しては、各委員会の持つその特徴を、あるいは、委員会の事業計画を、この重点事業に生かす活動方法を取り入れていきたいと言う事です。

昨年来急速議題に取り上げられました「市民桜祭り」4月6、7日と行なわれる事になっていますが、当JCでは全面的にバックアップする旨を公表し、すでに実行されていますが、この活動方法を、市民桜まつりに、全面的に取り入れ、まず本年度の前半の真価を問うて見たいと考えております。座間JC設立、交通問題、チャリティーショー、10周年記念のため、資料作り、その他継続事業が、もり沢山ひかえている訳ですが、すべて、この方式により、あせらずに着実に実行する努力を皆さんにも期待して年頭のあいさつにさせて載きたいと思います。

市民桜まつり推進委員長  
宮崎君に決定

市民さくらまつり 4月6日・7日 実施  
市民さくらまつり推進委員会 委員長 宮崎直道  
実行委員会部会JC担当  
総務部会 山内 大 財務委員会 中村宣勝  
記録広報部会 水谷 好佐 広報、社会開発委員会







## 年間トピックス

第一回新入会員認承証  
伝達式

従来会員に承認された時は、例会の席上理事長の手からバッチと手帳を渡され、晴れて会員となったのであるが、この方法をより意味のある厳粛なものにと中野会員拡大委員長の肝いりで新入会員認承式が行なわれた。

当日は新入会員と紹介者が前に並び、紹介者が新入会員を紹介し、新入会員も自己紹介し、1人々々が会員の拍手の中で理事長がバッチと手帳を手渡した。そのとき間にあわなかった会員認承証が出来上り、後日認承証伝達式が行なわれた。認承証は宮崎特別理事の筆になる立派なもので、顔に入り当日理事長欠席の為、山内直前理事長から渡されました。今後は併せて行なわれ、より意義のあるものになりそうです。なお既会員でも希望者には認承証を発行しますので、所属委員長を通して申し込んで下さい。

## ●交通キャンペーン

今年度重点事業の交通問題には統一行事特別委員会が担当し、市内小学校を対象に交通キャンペーンを実施した。(9月2日)  
場所 相模原市鹿沼交通公園。

内容①ポスター標語の募集、発表。

②交通安全教室。

③自転車の正しい乗り方指導。

おそのり競争。

④交通安全体操、参加505人。

⑤歩け歩け運動の実施。

交通パレード 1500人。

⑥愛の献血 90名。

## ●10月第2例会

小野正孝元会頭と林達夫元日本青年会議所経営開発委員長二人を招き講演会を行う。参加者の意識高揚を図る為に、単なる講師例会ではなく、メンバーによるドラマ上演からの問題提起をしての対象の手法に神奈川ブロック内各LOMからも多くの参加者を得て三協会議館でにぎやかにいった。

第4回チャリティーショー  
を終えて

実行委員会 菅 沼 山 一

相模原青年会議所本年度最後の事業である第4回チャリティーショーが、12月5日市民会館大ホールを会場に製作者宮城まり子さんを迎えて、『ねむの木の詩』特別映画会が行なわれました。前三回の劇団四季の公演とは違い昼夜2回の映画上映という初めての試みであったが、映画の知名度と会員の努力で多くのお客様を集めて成功の裡に終ることが出来ました。

年当初、実行委員長は大貫一男さんと決まり、実行委員長を中心に多くの演目を候補に上げ検討しましたが、何れもオビに短かし、タスキに長しで、ようやく九月になって『ねむの木の詩』の上映が決定した。

10月早々に実行委員会のメンバーが決り、第4回チャリティーショーが動きだした。10月18日の第1回委員会からスタートしたものの、前回の副委員長を務めた喜多・浦上両氏の名補佐とは違い、実行委員長の御苦勞もまたスタートしたわけである。私個人を見ても、仕事は票券管理と委員会の司会を担当したのであるが一回も満足な司会が出来ず忙しい中を電話1本の連絡で出席して下さった理事の面々やメンバーには申しわけなく思っています。3000枚という券を発行した為に夜券に比較して昼券の売行きが芳しくなく3回目の実行委員会の席上で急提立看板を作り宣伝しようということに決り、大車輪で木枠を集め、布地を張り、字を書き数日のうちに各所に立てることが出来ました。文章に書くときの熱気を上手く表現出来ませんが私はJCの力とはこれだなと思いました。

今回のチャリティーショーは紹介者の関係もあり多くの問題を抱えて実行委員長は大変な苦勞をされた。当日顔を見る迄心配だった宮城まり子さんも来相されたもののスケジュールの関係で一悶着というハッピーニング迄あり風邪を押してがんばられた実行委員長は余計に熱が上って







しまわれたのでないかと思う。2回目の上映が  
終りお客様を送りだした時何故か胸がつまっ  
てなりません。まだ会計上の整理も残って  
いますが、我々実行委員会の力が足りず今回  
は実行委員長にあらゆる点で御迷惑をかけ  
てしまいました。全会員がその努力は承知さ  
れていると思いますが敢えて実行委員会  
の不明をおわびし大貫実行委員長に大  
きな拍手を。……………

# 1975年度

## 年頭に際して

理事長 大貫 一 男

1975年の出発に当り、相模原青年会議所の運  
動とその組織の発展のため微力ながら精いっ  
ぱいの努力を誓い一言所見を述べさせていただきます。  
高度成長の60年代の真中に初声をあげた  
相模原J.Cも創立10周年の記念すべき大きな節  
となる年を迎えました。その間、諸先輩の築か  
れた9年間の伝統に輝く相模原J.Cの歴史の灯  
も昭和二ケタの我々に点火され次なる10年への  
新たな胎動が起される年となりました。今、70  
年代の真中に立つ社会情勢はご存知の通り全く  
予断を許さない混迷と危機感に満ちた岐路にあ  
ると思います。この様な情勢を思う時、我々J  
C運動も初心に返り、その理念追求に地道な展  
開を推進すべきだと信じます。つまり現実から  
逃避することなく、未来に理想を掲げ、明るい  
豊かな社会づくりに向って、英知と勇気と情熱  
をもって行動すべきだと思います。この様な観  
点に立ち本年度の基本方針について述べさせて  
いただきます。

まず、本年度の事業の基幹である、創立10  
周年事業を如何に推進し、完遂するかが我々に課  
せられた最大の使命であると思います。先にも  
述べた通り、創立10周年の歴史は貴重な伝統と  
なって受け継がれてきました。これを記念し、  
内外にその真価を問い祝賀することは我々の義  
務であると同時に、次なる飛躍への契機として  
意義があると思います。各委員会の事業計画も  
10周年事業に対し配慮がなされていますが、計  
画の実施にあたっては充分なる検討を図り、可  
能な限り10周年事業に関連づけていただきたく  
会員諸兄の深いご理解を期待いたします。

その中で、特に重点事業として市民まつりと  
教育問題に取り組みたいと思います。市民まつり



については、社会開発運動推進の担手としての立場を認識し、地域社会に密着した運動として5月3日、4日に行われる市民若葉まつりの中心的な役割を果たすことであります。市民に歓迎され地域社会にアピールする運動こそJC運動の基幹であると思います。昨年に引き続き市民と共に、ふるさとづくりに邁進しようではありませんか。

又、教育問題については、「大人が自らの社会を正すことこそ、教育の出発点である。」との観点に立ち積極的に取組みたいと思います。先の京都理事長会議でも、日本JC 570余のLOMの総和のもとに、統一テーマ「人間への期待、それは教育への努力」と決定し確認されました。我々は、この機会に日本の教育について真剣に考え自分の目でみきわめ、親として、市民として如何にあるべきかをはっきり自覚し行動に移すべきだと思います。相模原JCの総力を結集し意義ある事業の展開を図っていただきたいと思います。

他に、勤労青少年の早起き野球大会、市民文化向上のためのJC文化講座の開催等、10周年事業は、JCと市民の交流を主眼として推進したいと思います。

最後に、事業推進の基盤として会員の相互理解による和を強調させていただきます。すべて業が成るか否かはこの和の一字にかかっていると言っても過言ではないと信じます。新しい出発点を迎えた今日互に相手の立場を考え、進んで相手を理解する心、相手の欠点を補う心を養う努力をすることにより友情の年を生み、交流の輪を広げ、会の前進拡大が図れるのだと思います。

以上いろいろ申し上げましたが本年も市民と共に手を携さえ明るい住みよい相模原づくりに会員諸兄のご協力をお願いし挨拶いたします。  
(通常総会挨拶より)

## 低成長の中で迎えた10周年

副理事長 水谷好佐

私は総務部会を担当し、予算編成、登録事務、その他の活動の中で、ふと10周年の意義を考え

ることがある。

入会后6年目の私にとって、10周年の感慨はチャーターメンバーほど大きくはない。10周年とは、自分の所属するJCの歴史をふり返り、10年間にわたり当LOMと係り合いのあった先輩や仲間達と語り、未来へ向ってどう自分を位置づけるかを考える時機なのであろう。

しかしながら私はと言えば、式典当日に向けての準備に追われ、自分の会社の仕事に追われ、両立するのにきゅうきゅうとしている状態である。

私の会社では相模原JC10周年記念式典と同じ月に、同じ会場で総合見本市を企画しており、また合理化のために導入した電算機の本番を10月1日にひかえて、繁性を極めていたのである。

政府のインフレ抑制政策がオーバーキルとなり、今年は企業の大倒産や一時帰休、赤字、減益の会社が続出している。

大卒の求人も前年比43%と、求人難が一転して求職難の様相を呈している。

青年経営者の多いJCの中にも、不況、低成長の影響を少なからず受けている仲間達が多いと思われる。

この様な時に、青年会議所は一体何をしたらよいのか？

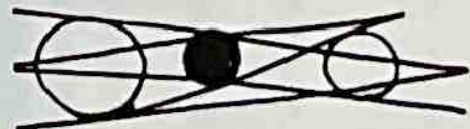
青年会議所は、もっと企業に目を向けるべきだ。

青年会議所活動が、もっと企業に還元されて欲しい。

そして少くとも青年会議所が企業の足を引っ張る事のない様にしたい。

私にとって青年会議所より自分の企業の方が大切である。

これは、青年会議所の存在価値を否定するものではないが相模原JCの10周年記念式典を迎えるに当たり、6年のJC歴をもつ私が、昨今の社会・経済情勢の中で素朴に感じている事である。





若葉に風かおる一九七五年五月三日・四日の相模原市「三十七万人のふるさとづくり市民若葉まつり」此の催は小生にとって生涯忘れ得ぬ記念すべき祭となった。特に四日の相模原青年会議所が主催する青空結婚式である。

式典となった市農協会館では、それを企画され担当となったJ・Cメンバーの面々が早朝よりいそぐと立働いて居た。同会館前広場に特設式場（と云っても仮設舞台である）を設け祭段の飾り付け、器櫃の配置。音響器櫃の準備テストと、いやはや、てんやわんやの忙しさとは、まさに此の事であろう。いやこれだけではないのだ若し雨でも降ったなら（こゝ、数日天候が不順である）との心配いもしなければならぬ。その為に会館内の講堂の方も準備をしなければならぬ。時間は刻々とせまってくる。気がついてはない。

やがて午前十一時五十九分（定刻ピッタリである）エレクトーンより流れる、たえなるメロデイ甘き中にも荘厳かつ厳肅に……耳をすますと、それは「ウエディングマーチ」つまり結婚行進曲である。

そのメロデイが流れる中を三組の新郎新婦がいや、どう見ても一組の新郎新婦と二組の旧郎旧婦とも言うおうか此の二組は既に結婚をして、たゞ何らかの理由で式を挙げられなかったのである。然し乍ら此の日はいづれにせよ新郎新婦である。（こゝ、が若さあふれるJ・C面々のグッド・アイデアなのだ）定位置についた三組の新郎新婦は近くの氏神様より来られた神主さんよりお枝を受け、それ／＼誓いのことを宣べ来賓の方々より祝詞を載き感激の内に式が終わったのである。

以上が挙式迄のあらまじであるが、当日挙式させて載いた三組の中の一組が、かく申す小生と愚妻なのであります。

一番先に書かなければならなかった事なのですが、市の此の祭に際し此の行事を企画された相模原青年会議所に対し深甚なる啓意と

心から厚く御礼を申し上げます。

特に担当されたメンバーの方々には色々御世話様になり、大変なお骨折りを、お掛けしました事を深くお詫びを致します。本当に有難う御座居ました。

想い起せば昭和十七年（一九四二）大東亜戦開戦二年目当時小生は通信機関係の軍需工場に勤務、徹夜・残業の繰り返し正に日月火水木金金、休日どころか定時間すら無い。結婚式などとてもない。そんな余裕もなければ暇もない。区役所に届を出しに行くのがやっと、……出征・終戦・復員やがて平和な日日が……

ふと気が付いて「そうだ俺たちはまだ結婚式を挙げてなかったな」と思った時は、長女の結婚、その後子供達に「お父さん達もう銀婚式よ」と言はれ、娘三人より小遣をもらって温泉に一泊旅行（勿論女房と）旅先で「此れが俺達の新婚旅行かな……」と女房と顔を見合せた事もありました。数年前二女も結婚今は四人の孫の爺さん婆さん。

そして、此の度の市民若葉まつりに青年会議所が青空結婚式を企画された事を聞き、何も今更と思つたが婆さんを説得して早速仲間に入れて載き本当に良かったと感謝の気持ち一杯です。今後機会があれば再度此の様な企画をされ、何かと大変では御座居ましようが沢山の方々に呼び掛けて載き度いと存じます。

乱筆・拙文では御座居ましたが御礼旁々感じた儘の一端を申し延べさせて載きました。

最後に相模原青年会議所の益々の発展と今後のご活躍を期待してペンを置きます。

一九七五年五月十五日

相模原青年会議所御一同様

中村 篤夫 拜



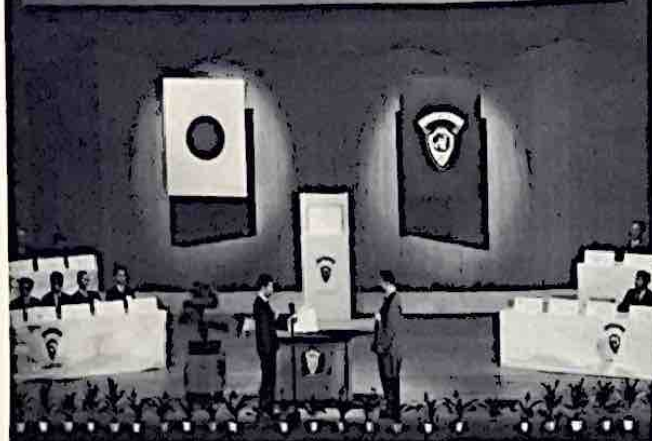


1966年7月17日  
＝認承証伝達式＝





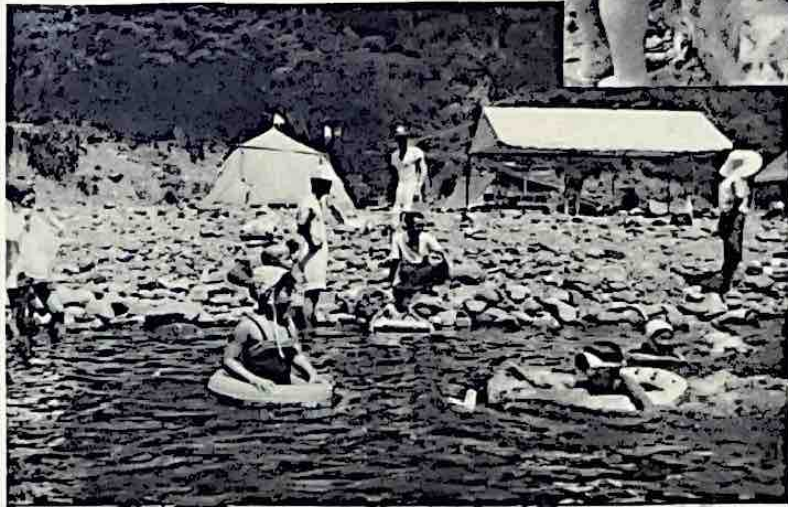
相模原青年会議所 証承認所 式達伝



＝ エクスカーション ＝ (鮎、ますのつかみどり)



＝家族会＝



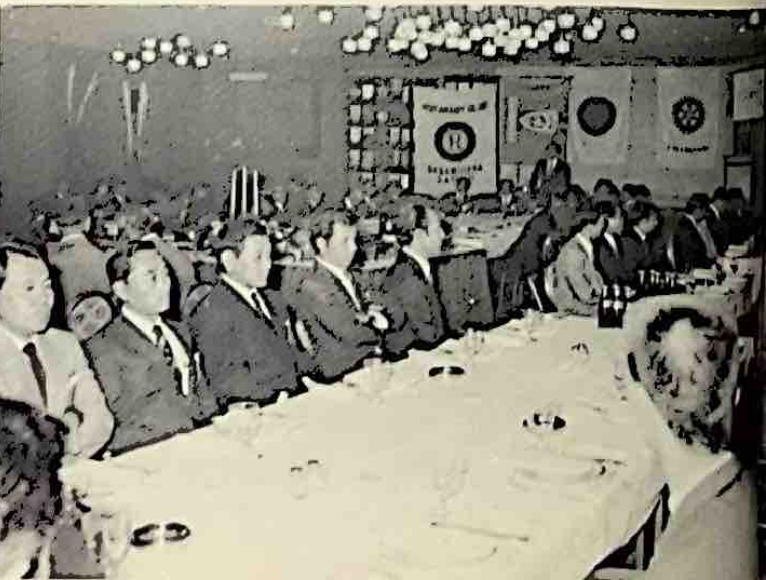




例 会



例 会







▲ 親睦の集い



← 坐禅会





▲ 模 擬 市 議 会



▼ ボーイスカウト第七団



▲ ランドセルカバーの寄贈

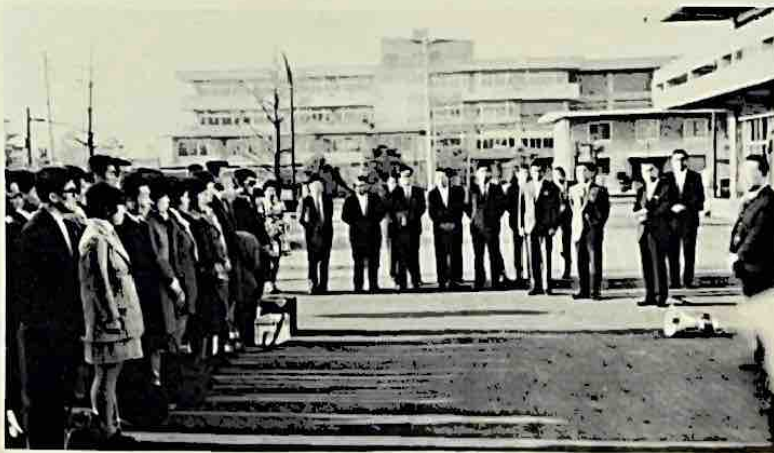
▼ 青少年会館の植樹





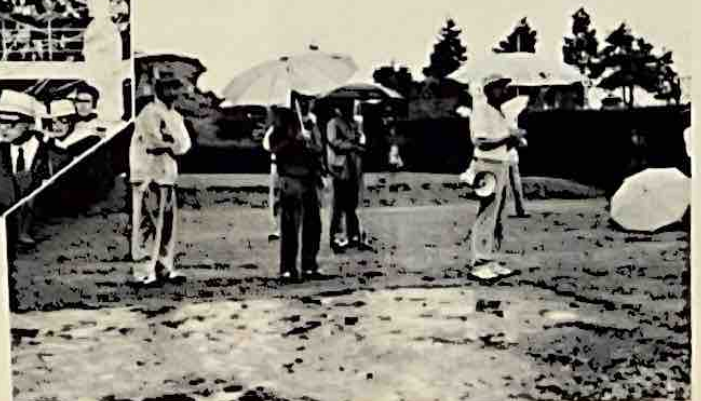


▲ 韓 国 旅 行



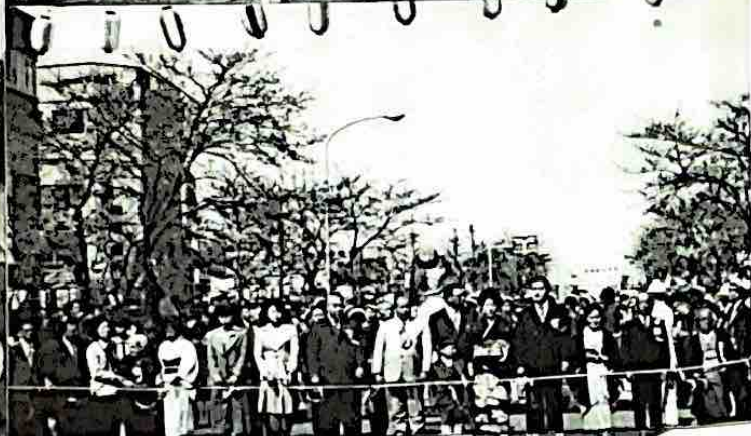
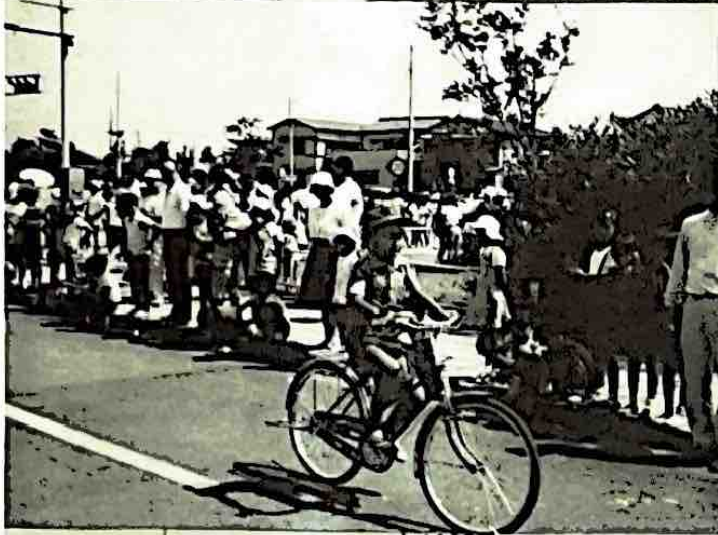
▲ 青年の船壮行式

▼ ゴルフコンペ





＝桜・若葉まつり＝



＝交通キャンペーン＝



## 大塚知雄

「私の赤い前かけは

あの人の情の色でそめたいろ

元得和尚は、書院の木机に頬杖をつき、ぼんやりと雪影色を眺めていた。おそで婆の初七日の法事を終え家路をとり初めた頃から降り出した雪は、禪寺として一応型をととのえた庭を白く深めていた。

「雪か、雪は白い。だから、赤い前かけが出て来たのかもしれぬな」

相模の古いぼうち歌の一節が、ふと口をついたのはおそで婆の思い出の中からであったかもしれないし雪の白が赤の対比を引き出したものかもしれなかった。

ともあれ、おそで婆は元得和尚にとって乳母であった。母親の乳が細かったものだから、おそで婆の乳で育った和尚には、おそで婆の思い出が山とあった。

「おそで婆のおっばいは大きかったな」から始ってよく聴かせてくれたぼうち歌の事、昔語り語りつがれた近在のお化けの話等々……。元得和尚に三十分や一時間、頬杖をつかせておくのは訳なかった。その中でも和尚の記憶に強く残っているものは、おそで婆が半狂乱になって駆けた姿であった。

その頃は、和尚の寺も点在する農家に囲まれた山寺の風情を持っていた。今はぎっしりと家がつまり、新興都市としての活気に満ちているこの街も、その頃はただ広々とした相模野の雑木林と畠の中の一隅に過ぎなかった。

今でも和尚は、冬の雑木林の何ともいえぬすっきりとした、さびしいようなたたずまいを好むが、半狂乱のおそで婆は雑木林のはづれに忽然と現われ、枯野の中を真一文字につばしって、消えて行ったように和尚は記憶している。

和尚の記憶は、とぎれとぎれで、何となく幻想的な雰囲気をもつものになってしまっている

が、泣き濡れた瞳が真赤に充血して光っており、和尚の側を走り抜ける時も、和尚なぞ見向きもしなかったことを知っている。髪は乱れて駆けて行く背でひらひらと漆黒の旗のようだったと憶えている。そしてそれよりも枯野の中を遠くへ走り去って行く若かった婆の白い肢と、赤い腰巻きの乱れが妙に強烈な印象となって残っている。

何故おそで婆が、その時そのようになったか、和尚は良く知らぬが、婆の亭主はその頃戦死したと云う事が今では解る。

古い相模野、そんな事までが詩的な幻想となって残る相模野、昔の方がこの相模野は人の心を豊かにしてくれたように和尚は思う。

「日本武命が火攻めにあったところだぞよ」

「柴胡ちゅう薬草が一杯あって、都からも採りに来たって云うことだぜ……。だから柴胡っ原って云うくれえちゃ」……ふと和尚の思い出はここで切れた。

「む、柴胡、柴胡ちゅうのが良いかもしれないぞ」

目を開き、筆をとると、なれた手つきで柴胡と書いた。和尚の字は達筆である。

それから一か月程過ぎた正月の或る日、和尚は又書院の机の前に座り、頬杖をついていた。以前と一寸違うところは、時々右の頬を撫で、にやりと笑うことである。

「あのやぶ医者め」和尚はふとつぶやいた。

やぶ医者は和尚の属する団体の広報委員長である。団体の広報誌の名前が柴胡と決り、誌名発案者の和尚は、新年会の席で賞を貰った。その結果が「あのやぶ医者め」であり、右の頬に残る心ちよい異和感である。若い芸者は、一寸はづかしそうにしながら、衆人監視の中を和尚の右頬にその唇をあてた。

あのやぶ医者め広報委員長は、宴が終っても



その跡を消す事を許さず、自宅すなわち寺までそれをつけて帰れと命じた。そして目付役までつけて掃宅と云う事になった。

和尚はふと思った。

「おそで婆はくち紅なぞつけた事があったろうか」と。そして又思った。「俺の女房の奴、怒りもせず、かえって喜んでいる風に見えるのはどうしたものだろうか」と。

それから和尚は、しばし黙想した後、今朝死んだ煙草屋のおやじの戒名を達筆な手で書き上げた。

賞のしるしである口づけの跡を、和尚がその令夫人に確認させたかどうかを見とどける為に付けられた目付け役の報告、和尚は一二度右頬に手をあてました、しかし私が「和尚いけませんよ」というとその後はそれが着いてないかの様子で、色々と話しながら行きました。

和尚の寺の玄関を入る時も、本当に堂々としたものでした。玄関を開けて「ただ今」というと、和尚の令夫人が出て来ました。和尚は右の頬が夫人に見えないような姿で立っているので、私が「和尚」と注意すると、和尚の態度は急に変り、年令相応の、いやそれよりもずっと幼い、まるで十五六の娘のように、はじらいを見せました。夫人が「あなたどうしたのですか？」と聞くと、和尚はまるで喧嘩に負けてきた児のように「みんながいじめたんだ」といいました。

夫人は和尚の右の頬を視ると「まあ、あなた」といいました。そしてしばらく凝視した後、袂からハンカチを取り出して拭き取りました。

それから何となく浮き浮きしたような様子で、私達を茶の間に招じ、酒を出してくれました。その間いつも思い出したように笑っていました。

私がどうしてこのような結果になったかを少し恐縮しながら説明すると、はずかしそうにただ笑っているだけでした。その時和尚はいつもの老成した感じの姿にもどり、黙って酒を飲んでいました。

和尚の夫人はあまり喋らない方なので、本当の気持は解りませんが、私は夫人の気持を次の

うに想像します。

「私の主人はまだ二十九才です。筋骨はたくましく肉体的には二十九才と思えぬ程若く、素晴らしいと思うのですが、立居ふるまいといいますが、職業がらあまりにもゆったりと落ついて、少しさびしく思っていました。そこで青年会議所がこの町に出来、みな様方の仲間入りをさせていただいて、気持の方も少しは若返るかと思っておりましたら、その傾向も見えず、すこしがっかりしていたところでした。ところが今日のご褒美をいただいて、私にみせる姿の本当に愛らしく若々しい様子は、私が見た初めての姿です。私は何となく嬉しく、若やいだ気分になりました。本当に感謝しております」

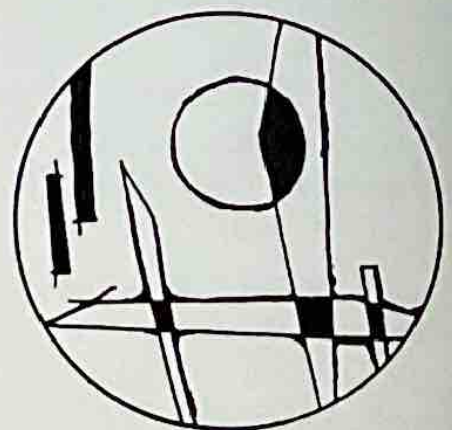
以上は、私の一人合点かもしれませんが、元得和尚が昔生れていたら、名僧知識と敬われたと思います。

現代児の私も昔のほうち歌の一節を、寺の門を出る頃には思い出したものです。

お寺の前のさくろ花

咲きみだれ 御門のうちをかがやかす

(おわり)





## あすの青年号に参加して

山 内 大

—1972年度—

1972年1月20日。冬期には珍しい麗かな陽光を浴びつつ出港式の行事もつつがなく終り、時刻は正に午前11時。神奈川県・日本青年会議所神奈川県ブロック協議会共催による初の勤労青少年研修船「あすの青年号」は一声の汽笛を残し、埠頭より奏でる別れの曲ととびかうテープをきりつつ、スクリューの波をつんざく音もこ、ちよく横浜港を出港した。この時太陽は中天に輝き、一陣の風もなくまことに美わしき天気なれば、関係者はじめ見送の方々、埠頭に黒山をなし、雷のごとき歓声を揚げて「コーラル・プリンセス号」の出港を見送れば、我々団員も甲板に居並び、テープを握れし手やハンカチをふりかざし、しばしの告別の意を表するもの、興奮の面もちにてはやカメラをまわすもの、意味もなく船上をはしりまわるもの様々な別れの状景を画きつつ次第次第に船足をはやめる「あすの青年号」。

羅針盤の指す方ははるか南方のかなた。フィリッピンより東支那海の怒とう、そして東洋一の美港ホンコン指して矢のごとく毎時16.5ノットの快速にて大海原に乗り出していく。

当今のスピード万能時代に逆行する様な船旅、それは経験してみるとまことに優雅なものです。16日間という研修に参加して船旅と言うロマンチックな気分はひたると年甲斐もなく興奮するとみえて以上の様なことを憶面もなく日記（日がたつにつれ書くことがおっくうになり、最後はメモ程度になっている）に書いていましたので冒頭に記し、編集者より報告会での発表以外のことを少し書いてくれとのことですので、船上でまのあたり見、感じたことを二三書いてみます。

〔船 酔 い〕

私は15日間に3回確実に船酔いに苦しめられ

ました。横浜を出港した晩、東支那海では完全に1日中食物もとらずキャビンで横になり、最後はホンコンを出港した翌日と。船酔いとは具体的には表現できないまことに嫌な複雑なものです。甲板におったり身体を横たえているときはさほど感じませんが、廊下が一番いけません。縦横みなゆれる感じで生きた気がしません。自分のたっている足元が揺れるということはいかにその個人を不安にし恐怖のとりこにすることか。

船酔い防止は

- ① 酔ったと思ったらすぐ横になること（屋根のない場所なら尚良い）
- ② 食事は無理をしても喰べること。
- ③ できるだけリラックスして一つことにこだわらない様にする。

となるのですが、これだけわかって、したり顔で居っても船はゆれますので船酔いを感じます。

従って横浜で下船した時はもう嫌だ、二度と乗るものかと思いましたが、日がたつにつれもう一度乗りたくなるから不思議です。船酔いとはそんなものです。

〔食 物〕

私が、この研修旅行を終えて一番うれしく思ったことは日本の食物の良さとそれを又口にすることが出来たことです。

食べることに生き甲斐を感じている様な私です。経験者から船上生活で一番楽しいのは食事であり、それは豪華なものだと聞かされていただけに、自ら経験してみてそれはそれはガッカリしたものです。確かに量も多く腹一杯喰べられます。が味がいかんせん駄目なのです。単調でうす味で似た様な献立が続きます。参考までにある日の一日の献立を記します。



- 朝 パン、ベーコンエッグ、ジュース、コーヒー
- 昼 スープ、やきそば、鳥肉と野菜添、野菜サラダ、パン、アイスクリーム、オレンジ、コーヒー
- 夜 スープ、カレーライス、ステーキ野菜添、野菜サラダ、パン、プリン

このフルコースが毎日続くのです。勿論おかわりは自由です。それが航海の終り頃には油の臭いが鼻につきどうしても口に入らなくなるのです。食堂の前からサヨナラをした日もあると言っても信用出来んでしょうなあー。キャビンですきっ腹をかゝえ、ため息をつくばかり。

ホンコンで広東料理に失望し、この旅行中わずかに救われたのはマニラ料理とマニラで喰べたくだものの味だけ。

#### 〔水〕

水はまずい、大量使用もいかんとはじめから言われていたので覚悟はしていたものの生ぬるい薬品臭い水を口にした時はいささかげんなりしたものです。ただ食時事には冷いきれいな？ウォーターがコップに注がれますので毎食それを2杯ずつ飲む様心がけたところ順応性に富んでいるとみえて3日目頃からはキャビンの飲み水には御やっかいにならずにすみました。マニラ、ホンコンではコレラ等のため生水は厳禁とされましたが、これまたよくしたもので休憩所やホテル・食堂にはチャンとウォーターがありましてわざわざ日本から持参した魔法壺には最後まで恥をかゝせっぱなしでした。

次に心配したのはやはりトイレの水。毎日キッチンと処理せんことには一日の行動に支障をきたす私です。ところが、これがよく出るのです。ヘタな日本のビルの水洗トイレより勢いが良いのです。こんなに出て船のタンクの方大丈夫かなあーと考え過ぎた位。シャワーも同じで衛生上きわめて良好でした。

ところが折にふれ想うのはこれだけの汚水をどう処理しているのかなあーです。真向上段に船員に聞くのも失礼と考え、それからは機会あ

るごとに甲板に出て船尾をのぞいたものですが、私の目には遂に捕えることが出来ず今だに残念です。唯船員達が時々ダンホールにゴミ等をつめてドボンとやっているところを見ると夜陰に粉れてこっそりと吐き出している様な気がして、そのうち太平洋が黄色く変色するのではないかと真剣に想ったものです。

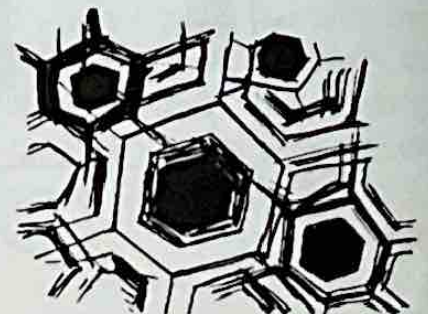
#### 〔空 気〕

空気は日本を離れるにしたがっておいしく感じます。東京湾はどぶの如き色をなし、臭いまたこれに準じているのは皆様も先刻御承知かと存じますが、同じ港でもマニラやホンコンは違います。港のなかも海の色と香を漂よわせています。げに恐しきは公害なりと柄にもなく改めて彼の地にあつて憤慨したものです。幼い頃故郷の海や北海道の潮瀬で眺め鼻腔に吸いこんだエアーをこの船旅で本当？に思い出しました。船上生活の無聊を慰めてくれ追憶に浸らせてくれたのはおいしい空気です。

空気はおいしさと同じに清浄さも兼ね備えていました。身につけている肌着・シャツが殆んど汚れないのです。勿論体臭や体内から分泌されるものでは汚れます。洗濯が嫌いな私は15日間の着換えを持参し、せっせと他人に迷惑をかけない範囲で取り換えていたのですが、やはり全部は使い切れず、あゝこれなら荷物を半分にするんだつたと後悔の念をわかせる程の澄んだ清浄な空気でした。

そして、帰って来てまたまた驚いたのは鼻毛が全々伸びていないのに気がついたときです。

とにかく御清潔な旅でした。





## 広州交易会に参加して

喜多貞夫

—1973年度—

## 中々はかどらない商談

初めに、交易会に参加した以上、交易会に就いてふれないといろいろ誤解をされそうなので簡単に、広州交易会の仕組み、及び、内容的な事柄を述べて、その後、中国の印象に就いて思いついたままを書いて見度いと思う。広州交易会の正式な名称は、中国輸出商品交易会と云うのだそうで、年2回春と秋に広東省広州市に於て開催されます。

春の交易会は4月15日より5月15日迄の1ヶ月間、そして、秋は10月15日より、11月15日迄の1ヶ月間となっております、世界中の友交商社を広州に一堂に集めてはなばなく催されます。日本からも会期中の1ヶ月間に2300人もの人々が参加しております。恐らく会期中世界各国から参加する人々は6000人以上であると思えます。

さて交易会に就いて一寸こ生意気な事を云わして頂く訳ですが、要するに中国見本市と思って頂ければ良いと思えますし、私の聞いた範囲では、以前東南アジアの華僑商人を中心に行われた様でしたが、今日では、世界各国の友好国の参加で、まるでオリンピックを思わせる様な盛大さを誇っております。勿論、中国は社会主義共和国である関係上、イデオロギーを超えての参加は無理であり、誰れでもと云う訳にはとてもまいりません。参加資格に付いてありますが、第一に、中国八億国民に対しての良き理解者である事、第二に政治三原則と云うやつで、簡単に云うならば、中国を絶対に敵視せぬ事と云う様な内容だと思えますが…。

第三は日中貿易三原則であり、第四には、政経不可分の原則、第五に周四条件：と云うのは(1)台湾及び韓国と貿易を行わぬ事、(2)アメリカとの合併企業の取引はしないと云う事、(3)台湾

及び韓国に対して政治、経済援助をしている企業はダメと云う様に中国側から出されている審査規定に合格点がなければ参加出来ないと云う誠にきびしい一条件のもとに難関を突破した友好商社が集まって広州交易会は成り立っている訳です。

私自身の企業も勿論、今迄の規定に接触しておらず、堂々と参加する事が出来た訳です。

さて交易会に就いてもっと深く内容的な所迄入って行き度いと思えますがむずかしい事は、私の不得意とする所なのでむしろ、交易会で体験した、話しを一寸丈け書いて次に移り度いと思えます。

御存知の様に、中国は日本の26倍もの土地をもつ資源国であります。肥料原料及び食品原料、毛、繊維製品その他石材類及びこつとう品類の豊富な蓄積は、世界にもまれであると云われております。私の企業に関係のあるペイント刷毛の原料である、馬毛、豚毛とも申す迄もなく、中国の特産である訳です。その様な関係で中国貿易に関心を持ったのは当然であると思えし又中国の歴史と日本の歴史的な関係からも是非一度、と云う気持ちにかられた訳であります。話しが少し余談になりましたが、交易会の会場は広州市の中央で二つのビルを利用して行われ、東京晴海の様な豪華さは全くなく、むしろ非常に質素に行われました。開催日当日の朝、二会場の前には各国バイヤー達の入場を待ち構える群集とそれを見る中国人市民の群集で、広州交易会会場は大変なさわぎ、午前8時30分会場ビルに設けられた、天に響ろきわたる様な爆竹の音を合図「この音は5分間以上も鳴りっぱなしでした」と共に、私も群集にもみくちやにされながら会場になだれ込む様にして入場した訳です。会場内は、何処を見ても、毛主席の写真と中国人民及び毛主席をたたえる文字ばかりが目



に付く、それに反して、予期した以上に商品構  
せい、期待に反する商品のアカ抜けなさに、一  
寸がっかりさせられ、同行の友好商社員に聞い  
て見た所「今年はこれでも、日中国交回復以来  
始めての見本市なので、中国側としても相当な  
熱の入れ様である。と云う説明を聞き我が日本  
の国力をあらためて見直した次第であった。  
私に関係のあるペイント刷毛のコーナーに出向  
くと、矢張り、日本程、種類が揃っておらず又  
もやがっかりする。しかし高いゼニを払って、  
わざわざ中国迄来たんだから何んとかしなきゃ  
なんて少しあせり気味に商談を申し込むと、こ  
れは何んどのんびり構えられて終って、即日即  
決とは行かないのである。今日はダメとの返事  
に、次の商談日を決めてもらうのだが、これが  
又一苦勞である。刷毛一本の値段を聞くにも、  
先ず当方から、何故に買い度いかの理由説明か  
ら始まって、欲しい数量を提示してその日の商  
談を終ると云う具合で、滞在日数の無い小生は  
あせるばかり、公務員様の集まりなので、晴海  
の貿易博らん会の様には行かぬと思ながらも、  
再度私自身の滞在日数の少ないのを説明して商  
談日を決めてもらうと、急いでも何んと二日後  
との返事が帰って来て、又もや考えて終った。  
兎に角値段の提示をしてもらう迄には何んと四  
日間もかかった訳けである。へたな英語を混へ  
ての商談は全く苦しい。二日後、私は友好商社  
員と共に会場へ足を運んだ。刷毛の会場には中  
国服を着た係員が、5人程、我々の来るのを待  
っていてくれた。一通りのアイサツを終えると、  
最終の商談に入るが、そこで、ひっきりなしに  
中国製タバコを勧める。もしや我々を煙に巻き  
込んで……、なんて一瞬考える、私も日本人で  
ある、決して相手のタバコを頂だいせずに自分  
のポケットからハイライトをとって一服つける。  
紅旗とハイライトの一戦である。しかしその日  
もタバコの勧めだけが忙がしく、商談は思う様  
に進まない、全くあせる。最後の商談は翌日の  
午前10時30分に約束し、シーユーアゲインの言  
葉で、その日もダメという始末、初めての参加  
で気苦勞が多いのに加えて商談の進まぬのには

全くまいて終った次第である。日本流のせせ  
っこましさは、中国では通らぬらしいのである。

と云う様な次第で小生の商談は帰国前日にや  
っと見積価格の提示をいただき、何んとか商談  
の成立を見た次第である。それにしても小生の  
延長戦の為に日程を無理に延ばしてくれた水谷  
君にはお礼の云い様の無い位感謝している。中  
国の商談を今更ながら見直すと云うのか、あき  
れると云うのか、兎に角、日本人との民族の相  
異をはっきり知った様な気がしたのである。参  
考的に中国の製品は全般的に輸出品に限ってだ  
と思うが、非常な値上がり傾向にあり、安いも  
のでも昨年2割高、高くなったもので昨年の  
10倍もする様な商品があったと聞いております。  
高いものの筆頭は、漆器類、宝石類、骨董類だ  
と云われております。私の仕入れましたペイン  
ト刷毛も決して安い価格では買えなかった事も  
報告して、広州交易会に於いてのエピソードに  
したいと思います。

#### 広州で見た中国人の印象

中国人は無表情だ、一寸近寄りにくい堅さが  
感じられ、特に香港側との国境で出会った兵隊  
さんは、ぶっきら棒で、恐ろさも感じられた。  
しかし、人間顔から受ける印象と、接して話し  
会った印象は違う事は、いくらでも経験するが、  
中国人も同様、なれるに従って非常に、親切で、  
礼儀正しく、正直な民族である事を知るのであ  
る。

ここで一寸広州の気候、風土に就いてふれな  
がら、印象を更に深めて話して見度いと思いま  
す。広州の気候は日本と同様、亜熱帯地域に属  
しているが、一年中花が咲きみだれていると云  
われる位、あたたかな中国南方最大都だと云わ  
れております。

人口は230万人、珠江河をはさんで町は広が  
り町並みは古いが、非常に整った町であります。  
又日中貿易に重要な港もあり経済都市としての  
資格を十分に持ち合わせた土地柄でもあり、市  
民の顔色も決して暗い表情は無く、むしろ大変  
に人なつこさが感じられました。しかし諸外国



との交流の無い国民であるだけに、素朴で純真で、人間ずれのない所などは、むしろ日本人が大いに学ばねばならぬ点ではないかと思うし、心を打たれます。10日間の滞在生活中その他いろいろと小生の胸を打つ所が多くこれからいろいろの角度から中国人に就いて感じたままを書いて見度いと思います。

#### 中国人民の団結精神に就いて

毛主席の手記である、毛語録の教えを、中国人民は忠実に学ぶ、真げんに実行する、8億国民は、帝国主義的行動の排除を大目標に掲げ、社会主義社会の達成と世界の人類との友好の旗印しに、団結と勤勉と儉約によって誠に統制とれた、社会を築き上げていると思います。前にも述べた様に中国々民の生活は誠につつましく、勤労が何よりの生がいととして生き続ける。中国を最もこれから注目すべき友好国として重要視すべきだし、高度成長によって伸びすぎたムギの幹の様な日本の現状を考えると又何をか云わんやである。

#### 中国人の規律について

毛語録の中に三大規律に就いて次の様に書かれている。1. 一さいの行動は指導官の命令に従う。2. 大衆のものは針1本、糸1すじも盗んではいけない。3. 一さいの齒獲品は公の材とする。その他の注意事項が数多く、のっているが、日本と同様であり、日本はそれ以上に規律に就いてはきびしいはずであるが比較的守られていないのである、その点中国人は規則を研究しお互いに守る様に努力するのである。一番強く感じられた事は先ずハイヤーである。決してお客さんから頼まれても、すぐには出発せず上から命令が出る迄は、お客を車に乗せない事、又命令によって目的地に向う様なやり方である。次に感心させられた事であるがホテル内ではドアーにかぎをかけなくても絶対に安全である事、泥棒がいない事である。第3は一切の商店は国営である為何処へ買物に行っても値段の差がなく、お釣りをチップ代りにする事は絶

対に許されない事など中国の規律に関しても日本には可成りうらやましい点が多い様な気が致しました。

~~~~~

ちよっと
一言

—1969年度—

飯田 亨

人の生命のなかばを過ぎたら、会議所を卒業しなければならぬ四十才がもうそこ迄近づいてきてしまった。指打り数えれば足かけ五年青年会議所に籍を置いていた事になるが、私はもう十数年も仲間に居た様な気がしてならない。何がそう思わせるのか、其れは入会していらいの会議所のメンバーとの交友からきたものであろう。私と同年齢の者ならわかることだが、戦中派である我々がとくに都会に於て学生時代を経てきた私にとって、学生時代に友人達と親しく学び、語り合う時間が現在の若者達の様子に充分持つ事など思いもよらなかった事だ。疎開するもの、戦火に幼い生命を消す者、戦後は食う為にだけ、それぞれが無縁の人となっていく、そんな中に語り合う仲間を見つけ出す事など夢の話であった。なんとか音信を伝え合える友人達も今では人の子の親として、又は従業員達の生活をささえる職場の長として毎日の生活に汗を流す事が先けつな日を送っている。そんな年になって青年会議所は私にすばらしい友人達を見つけ出してくれた。

「JC」が「明るい豊かな社会」の実現を理念とすべく若き指導者たるべく市民社会の一員として努力する者の団体として事業活動を続けていく上に於て、メンバー同志の人間の心ふれ合いがなければ、根本的な目的への過程を進行させる事は不可能であろう。私は四十才近くなった現在自分のこれからの人生を少年の様な心で考えてみたい。その考えをより豊かに充実させる為に、JCの仲間の誰れ彼れ皆とあらゆる事を語り合っていきたい。家庭にあっても、職場にあっても誰れもが一本筋の通った人生観を持っている友人達がこの年齢になってこんなに多く得られるのは青年会議所以外には考えられ

ない様な気がする。青年会議所へ新しく入会して一体JCとは何であろうか？一体何をやっているのだろうか？と考えている者も多勢いる事と思うが、とにかく話し合ってみて下さい。

青年会議所運動の目標とすべく「社会と人間の開発」の基礎が、そのささやかなコミュニケーションの中に生きている事を感じ取る事でしょう。現在の物的社会の中に、人間疎外の社会の中に、この心をふれ合す願いが大きく育つなら、私は理屈抜きにしてJCに入会した事を誇りに思います。なぜならJCは団体を目的とした主義の主張者ではなく、自からが学ぶ若き市民団体であるべきと思うから。

ちょっと一言が一言いつもの様に多くなりました。これからも一言多く皆人と意見の交換をしたいですね。

青年会議所会員マナー

1. 品格ある青年として行動する。
2. 諸会合には、必ず、JCバッヂをつける。
3. 諸会合には、定刻に出席する。
4. 笑顔で握手する。
5. 発言には、挙手をして、上衣のボタンをかけ、発言する。
6. 先輩には、敬意を示し、挨拶する。
7. スポンサーには、年2度ほどの挨拶状をだす。
8. 諸会合に出席したら、必ず署名登録する。会合の登録を申し込んだ場合は、登録料を必ず支払う。
9. 正会員同志のつきあいには、相手の人格をそこなわないように敬意を示し「○○君」と呼ぶ。
10. 諸通知の出欠ハガキは、すぐ返信をだす。

(東京JC手帖より)

随感

＝1973年度＝

細谷さんとのつきあい

—ある晩の雑談に想う—

黒川 勉

思えば細谷さんとのつきあいはひょんな事から始まった。私がこの地相模原に店を出したのが四十六年二月。それ迄あちこちと目欲しいところを探し廻って、やっとここ橋本に決めた訳で、手持資金と将来性とを、ハカリにかけてみると中々適当なところがなくやっとハカリにかかったのがここというわけでそれでも、この場所には、十日間程、昼間の街の状況をみたり、又夜はどうか雨の日はどうかなど下調べをし、どうにか開店に漕ぎ着けた。

初日、二日目と好調な滑り出しに内心ホットしたところ、その二日目に○○風のおア兄さんが店内でビール瓶を振り上げて喧嘩を始め出した。事前に街の様子を聞いていたので、そんな事が起きてしまい、一沫の不安が何とも重たくおおいかぶさる思いがした。なんとか健康的な雰囲気のお店にしたいものと開店前からその事を常に頭に入れていたので、これから先が思いやられるようで、その上、この地には未だ知り合いがなく正直いって心細い気になったのを覚えている。そんな事があった翌日だったか、十時頃ひょいとして入って来た人がこれ又その筋の者ではないかと思わせるような、いかつい面相で（本人は男前だと思っているかも知れないが）又々ギョツとした、こっちも当りさわりなく半ば内心不安げに話の受答えをした。しばらく話込んでいるうちに表向きの面相とはエラク違う同業者で、話のおもしろい人だという印象での中に細谷さんだと知って苦笑したものです。その日の事が今でも一杯呑むと時々話にでてきて可笑しい。

ある日JCの委員会をうちの店でやるからと

話をもってきてくれたのが、そもそも私に正式に入会意志をもたせてくれた始まりだった。街の様子も知りたいし、第一に友人が欲しいと思っていたもので自分には難かしいかどうかも考えずに入会した。メンバーの人もだんだん店に来てくれるようになり、いつしか入会してよかったと思うようになり、入会した以上やれるだけやってみようと思うようになり、よく先輩とは議論した。やがて私をJ.C.に決定づける大きな事件が起った。「店の火災——開店一年目、三月三日類焼の浮目にあい、文字通り一文無しになってしまった。保険もなく、妻は身重だし、借金をかかえているし途方に暮れてしまった。ショックが大きかった性かすっかり神経がすりへってしまい脱毛症にかかってしまい、それを隠すのにも苦勞した。色々な人が励ましの言葉をかけて下さったが、いざ金銭の事となると中々思うようにゆかず、只自分がここでやる気を失ってはいけなと、とにかく再建しなくてはと気だけは強く持とうと自分に云い聞かせ金策に走った。八方ふさがりの中で、やっと金策の方法をみつけ出したものの保証人がなければ借りられず、さりとて今の自分は一文無し、保証人さえいてくれたらな——とため息ばかりの毎日だった。思い切って細谷さんをお願いしてみようと恐る恐る頼みに行くと、「よしよかった、二三日待ってろ」とその言葉が今でも忘れられず自分もこれから先、人の為に出来る事は精一杯やろうという気構えがついた。

J.C.の方々が、あの火事の時に真っ先に飛んできてくれたのには深く感謝しています。J.C. 私にとって入会動機は友人が欲しい只それだけだったかも知れない、しかしその結果がここ迄になろうとは夢にも思わなかった。私の場合は特殊なケースだったかも知れないが、いかに心の触合いが大切かという事を知っただけでも大きな収穫だった。——そんなわけでゴルフを始めたキッカケも細谷さんで最初は広報委員だからとカメラをもって一緒について廻り、万歩メーターをぶらさげて——今考えてみるとゴルフもしないでよく1.5ラウンドも歩いたものだと思う。最近私、いくら腕があがりナナツの

ハンディを買ってのうえだが、時々〇〇〇かは、せしめる時もあるがよく口惜しがらせている。

相模原青年会議所認承証伝達式の日、エクスカッションの苦勞話を時々聞くのですが、大変盛大なものだったらしい。細谷さん曰く「俺はその為にいちじは毎日のように田名通いをしていたんで近所の者は、つるべは（細田さんの店の名）田名に、いいのが出来たんじゃねえかと疑われてみられたもんだよ」と相模川水郷田名で鮎のつかみどりをやろうのと計画だったらしく、御存知のように河川敷はやたらといじるわけにはいかない。河原の石を一日がかりで積重ね、せきを作って次の日行ってみるとその石がきれいに元通りにされてしまい又やり直した事や翌日がいよいよエクスカッションだという日に作ったイケスに行ってみると鮎が逃げだしてしまっで一匹もいなく「あの時はずいぶんあわてたもんだよ」急拠鮎を鱗にかえて夜中おそく迄やたららしい。「そんな時は夢中だったからな——」そんな話を聞くと自分もついその場にいるような気にさえなる。専門の職業は獣医だが、家庭の事情で一八〇度転換して寿司店をやるようになった。だから話題は減法豊富その上芸達者、お得意のトノ（寸劇で殿様と姫のカケ合い一寸色ばい話で、これまた例の面相でやるのだからねえさん方が笑い出して三味線がひけなくなるんだからおそれ入る）があまりきかれなくなるのが一寸淋しい気がしてならない。卒業式（新年総会）には、かなり真面目に正座して「後輩に一言、J.C.の例会を階段会議にしないように疑問があればその場で質問し、二次会なんかの席であの時はこうだったなどと又個人批判など絶対しないようにして貰いたいあえて苦言を残して卒業の言葉とします」えてしてそうなりがちだったかもしれない今迄によきアドバイスを残してくれた。酒席の言としてではなくよく心してゆこうと思う。私の紹介者である、もう一人の紹介者大貫一男さんも来年一杯で卒業してしまう。考えると淋しいけれど先輩が残してくれた何かを感じとっていつか私も必ず来る卒業迄を有意義に活動したい。

内田 寛

指導力開発委員会として今年の事業計画に相模原市の都市計画を取り上げた。普通、都市計画関係は社会開発の関係であろうが、これをLDとして取り上げた意味を御了解願いたく、慣れぬ文を書く次第です。

私にはヘソが二つある。嘘だと思ふ人には見せてやっても良い。時々何かアタマに来ることがあると、上に付いている方のヘソが、ホンノリと桜色になるから妙といえは妙だ。ここ何年かは歳のせい、あまり桜色のヘソにはお目にかかれなかったが、最近昔よりやや紫がかってはいるが、桜色にお目にかかることが多くなったような気がする。これはきっとJCに入って若がえった為かも知れない。

体の構造からしてそうであるように、私は多分にヘソ曲りのところがあるらしい。酒と女とバクチが大嫌いなのがその良い例である。しかしまだ六年間もメンバーとして御付合させていただかなければならないので、相当な自重が必要である、とは判っていてもやはり私の上の右側にある方のヘソが、変な理屈をこねてしまう。

ここに黄色い、まだ少ししか使っていない、頭に消ゴムの付いた鉛筆がある。“鉛筆の頭に消ゴムがついている間は、人間の間違ひは許される。”とは誰かの言った言葉である。ところでこの鉛筆の頭の消ゴム、我々が中学生であったころからずっと考えると、町に見かける数が少なくなったような気がする。これはきっと一本の鉛筆を使い終る間の間違ひがその頭に付いているゴムでは消しきれなくなったということでもなく、一個立ちの消ゴムがその代りをしていなくても、人間そのものが間違ひが少なくなったのか、又は同時に社会が間違ひを認めなくなって来たのかどちらかだろう。とすると、この鉛筆の消ゴムのなくなる日、つまり人間が

間違ひをしなくなる日は来るのだろうか。そう、人間が物事を考え、書き、そして実行する間はそんな日は来る筈がない。しかし私は遠からず鉛筆の頭から消ゴムがなくなるような気がする。

我々の間違ひをする頭脳の働き、つまりシグナルは、おそらくミクロ的な電流に置きかえられるものだろう。そして、我々の脳細胞の数は膨大なものかも知れないが、有限である。その一つ一つを例えば半導体に置きかえ、磁気テープを使って行けば、我々の頭脳は我々の体の外へ置き換えられる。即ちコンピューターだ。これは元のデータつまり記憶に忠実で間違ひをやらないし、記憶を失うこともない。時が経ち、時代が進めばそのたびにデータの一部分づつを変更させて行けば良い。会社なら会社、都市、はては世界が一つのコンピューターシステムの傘下に治まる時代が来るとすれば……そのとき鉛筆の頭の消ゴムはなくなるだろう。

一本の鉛筆から、タバコ一本吸い終る間に生れる連想は楽しいものだ。だが、いろいろの連想のほとんどが、コンピューターの社会に繋がってしまうのは、あまりにも視野が狭いと私自身反省しているが、現実にコンピューターが多数動き、統計的には私自身の交通違反もコンピューターが知っている今日、ある一つの問題を取り上げ、それが将来なるだろう必然性を追って未来を夢みるのも若い間の特権だと思う。未来への夢が画かれなければ、指導力という観念的なものが、より観念的なもので終わってしまうだろう。指導力は、あくまで未来の夢の実現の過程にしか有り得ない。

団地というものがある。茅ヶ崎の海の方から見える眺めは、色彩も豊かであり、壮観であるとも言える。が、少し近くに寄ってみると、何のことはないバッテリー式鶏舎に酷似している。中味もそうだ。鶏は精子なしでも卵を産むから

一羽で良いが、人間はそうはゆかないので二人で生産態勢をとっているの差しかない。もちろん単にバタリー鶏舎式建物を嫌っただけでもなく、船乗りと似たコンクリートの箱を嫌う為だけでもなく、土地のある人や、その他条件の有利な人は団地には入って来ないだろう。だが今日の日本を支えている実働人口、特に第2次産業を支える人達にとっては、団地生活も又、彼等の目指す目標の一つであることは間違いない。

それは兎に角として、所得水準に合わせるためだろうがいわゆる2DKが圧倒的に多い。六帖、四帖半、ダイニングキッチン(六帖相当)、玄関、便所、風呂場を方形田形にまとめた間取りだ。それも団地サイズの名の有る如く、三尺が三尺以下の妙な建て方となっている。2DKの新築入居に際しては、これから生産態勢に入ろうとする新婚夫婦か、2~4才の子供一人といった核家族が応募し、入って来る。私はこの現実、将来の住宅問題を見ると同時に、住環境の次の社会に有るべき姿が見られるような気がする。

人生を十五年の五倍として七十五年としよう。結婚の平均年齢は二十七才ぐらいだろう。現実の収入から見ても又、団地に入るならばという仮定とするならば、新婚夫婦の希望の公約数は2DKである。しかし、結婚して生活を始めるには快適であった2DKも、夫の収入も上昇し、子供も大きくなるとだんだん不満と欲望がより大きな生活の殻を求め、又、生活そのものも、今の殻より大きく膨脹するだろう。ましてや長子が十五才にも達すると既に2DKでは、現実的問題として生活続行が不可能に成る。2DKが華々しく登場してから、未だ十五年は経っていないが、この問題の出て来るのは、近い将来必然性があると考えられる。

そこで次の生活の殻として求められる一般的なものは3LDKであろう。つまり六帖、六帖、四帖半、それに八ないし十帖の居間と食事の出来るような台所付を基本とした殻である。おそらく長子の結婚年齢の二十七才ぐらい迄ならば、この3LDKは、まあまあ生活可能であり欲望

もある程度満される広さを持っていると思われるしかし、この3LDKでは二夫婦生活は不可能であるし団地であるから建増しも出来ない。当然団地から出る新婚夫婦の大多数は、別の2DKを求めて、核家族化するだろう。

残った夫婦は、まだまだ3LDKを維持して行ける経済力は残っている年齢の苦である。つまり二十七才で結婚して十六年たって3LDKに移った時の平均年齢は四十三才であり、長子が結婚する頃の平均年齢は五十四才であろうからである。一般的に考えれば、それから約五十年は夫婦で3LDKを維持して行けると考えて良い。

人生も六十才を過ぎると停年にもなっているし、従って収入も減少し、3LDKの維持は出来たとしても、老後に不安を感じ、既に住の殻は、自分達夫婦には大き過ぎると気付くのではなからうか。そして老夫婦の落付く望みは、おそらく1LKか1DKといったところだろう。このようにしてみると、住の殻の要求は、2DKに二十七才頃から四十三才ごろ迄、3LDKに四十三才から六十才頃迄、そして1DKに七十五才頃迄と大体十五年を周期として変ると考えられる。これが今2DKに住み、又これから結婚して2DKで生活しようとする又はしなければならぬ平均的サラリーマンの一生ではなからうか。又他面建物の方から考えれば、鉄筋コンクリート造の建築物の耐用年数を75年とし、2DK、3LDK、1DKを同数造った場合、十五年を一週として五回の循環が可能であるが、一世帯が一生同一の建物を専有すると二回程の循環しか得られず建物の利用率も半分以下となってしまう。

以上が私が今年度の事業計画としてあげた相模原市の都市計画の作成並びに建議の発想の根本である。もちろん、この住の殻の十五年循環の考え方が絶対的なものとは思っていないし、その派生する問題に付いて矛盾につき当る事も有ろうことは疑いない。が2DKに於ける一つの見方としての必然性の影を見つめる意味で、この考えをまさぐり、計画し、図面を書き、建議

にまで持って行くべく発展させる若さも必要だ
と思って事業計画にさせた次第である。これか
らいろいろ派生する問題を追ってみたい。

(市民意識について)

小田急沿線の今回の市長選挙の投票率はついに三十%台に終わった。これは文句なく市民意識の不足、市政に対する無関心の現われであることは、言うまでもない。それは何故か——何度も言い古されたごとく、小田急沿線は、東京都町田市相模原区であって経済の流れからも人の流れからも、相模原市の市政の恩恵を受けるのが少ない人々つまり団地を中心としたいわゆるベッドタウンの構想から来た人々が多いからである。しかし私は、前に書いたような団地のとらえ方をすると、別の見方が出来ると思う。つまり小田急沿線に圧倒的に多い2DK相当の住の殻に入っている人は、次には3LDKを求めて出て行く人達である。そしてその求める3LDKは、相模原市内には絶対数が不足する。とすれば、市民意識の問題がどこにあるにせよ、おそらくは無意識に不安を感じ、分譲団地を探しているだろう。分譲団地には3LDK相当の間取りが多いからである。相模原市から出て行く人々、故郷なき核家族にどうやって市民意識を植えつけ、又どうやって市政に対する認識を深められるのだろうか。

一生のうち十五年間ただ寝にもどるだけのベッドタウンの構想にはこのように人々を政治に背をむけさせる要素が多分に含まれており、やがて別れ別れになるのが、理屈ではわかっているけれども、何か肌で感じている人々の間には、利害関係を抜にした近隣のコミュニケーションが生れるわけもなく、隣は何をする人ぞといった生活が当たり前となり、いわゆる核家族は、団地単位に於ても社会を形成しにくく、ついには市政の中の重い荷になってしまう。又、おそらく、核の中の人達個人については立派な、政治に対する考え方を持っている筈ではあるが生活環境の非情さが市に定着した意識を持ちきれず、古くから市内に生活する、いわゆる保守的な考え方に、まとまって発言する機会を得ようとす

る努力もせずに居るのが現状ではないだろうか。

(住環境に関する性格構造の変化)

上溝のテラスハウスが出来てから、十数年経っていると思う。当時のことを思い出してみよう。決して団地とは言わなかった。そして入居する資格について制限のあることや、相当遠くから入居して来ることや何もわからぬままに、さえずったものだった。しかし私にとって圧倒的だった感情は、うらやましい、だった。理由は鉄筋コンクリートの家で、台風でも屋根が飛ばないことだった。鉄筋コンクリートの家、それは当時には考えられなかったことであつた。庶民には夢としてしか画けなかった別の世界だったのである。そのころの我々の頭の中にあつた家又は家族制度というものは、丁度流行していた“今どきの若いもんは、”という言葉に表わされるようにすでに敗戦を堺として変りつつあつたのである。それは環境に適合したことにもよるし、同時に教育の結果でもあつた。

時を経、見わたす限りの白亜の中層ビルが聳える団地が普遍的になった今、そして我々よりも別な教育を受けテレビに感化され、ラジオを心に受けとめて来たハイテンの住に対する、これからの考え方又は対応の仕方をつかむことは困難である。何故ならば、次の世代の考え方と行動は即物的であるからである。

学校の教育はどうだろうか。例えば、物理なら物理、英語なら英語は、それら各々には過去につながる一本の線が確立されているが、各々の横の関係は全くない。だから化学の中に物理の公式が出て来るととまどってしまったり、数学、物理等が哲学的になると理解出来なくなってしまうのだ。そのように現在の教育というのは、単位又は単元について分業化されすぎている、しかし、一方教室を出るとどうだろうか、巷には、横のつながりどころか縦の連がりの全くない点としてのメディアで時が埋めつくされている。テレビは西部劇の合間に、楽しいCMが入るし、ラジオは、流行歌の間に事故のニュースが、DJ式に入ってくる。我々は、そういうことに不安と反撥を感ずるのだが、ハイティ

ーン達は、それを抵抗なく受けとめる。カッコよく石坂浩二がチョコバーをかじればそのシーンを思い出しながらチョコバーをかじるし、グループサウンズの間にはスポットとして大事故のニュースがあれば、すぐにそれを消化し次の日の話題に上げる能力を持ちながら、次のグループサウンズが流れて来れば無条件にそれに聞き入ることが出来る。

物心付いたときから、そのように目まぐるしく変るメディアと相対して来た子供達は、学校に入る前に既に瞬時的反応による生活様式を身につけ、又大げさに言えばそのような関連のない知識量については、先生よりも多いかも知れないほど”教育”を受けてやって来る。これらの子供達が学校をどう受けとり、先生をどう考えるかは今回の問題ではないので別として、とにかく2DKの核家族の長子は、物事を系統建てて結論を出す我々のような性格構造ではなく、物事を自分に同化出来るものを即物的に受け入れる頭の構造になっていることは間違いないと思われる。家付き、カーつき、パパア一抜きという言葉が出れば、我々は、家族制度がどうの、消費形態がどうのという系統的、理屈的賛否が生れるのだが、これからの時代の人達の頭の中には、それは社会生活の中の一つの点としての記憶としてしか残らないだろう。今行われている事柄をすべて認め、身に受取めることが、現代人の資格の第一歩と考える。

話が少々はみ出してしまったが、このような性格構造を持つ若い人々に即物的に撰たくされたとしても、十五年の循環の考え方は受け入れられると思う。

(社会福祉に対する問題)

現在スウェーデンでは、生れる子供の三分之一が私生児であるという。文字通り揺籠から墓場迄の社会保障が行き届きつた自由主義国家の一つの未来像を暗示するかのよう現象である。老人はほとんど何もする必要はない、それでも生活出来る。しかし、もし人生の意義又は人間生れて来た意味が“何か”をすることであるとしたら、何も為なくても良い生活は生きる意味

がない。老人は、生きることと死ぬこととの見境がつかなくなり……自殺の増加となる。ただこれは我々のように縦の絆で結ばれた人間の行く末であり、点に生きる現在のハイティーンが老人になったとき、そうであるとは考えられないことである。

相模原市、及び日本の福祉行政の希みは大きいかも知れぬが、実際にはまだ手をつけたかどうかという段階であるし、一方考え方によればそれらの福祉行政は、すでに前時代的なものと言えぬこともなかり。敗戦後二十有余年福祉行政が足ふみをしていることは、予算とか、行政上の問題より以前に、今おし進められようとしている社会福祉法人の扱い方や、養護老人ホームに対する考え方が、効果があるのか、又は、それぞれが市民に対して、税金や寄附金の還元として、公平であるかという根本に政策が行届きかねる要因が見られる。十五年の循環に於て、福祉行政は違った形態を取るようになるだろう。

(終りに核団地の構想と都市計画について)

情報社会という言葉は、そんな新しいものではない。コンピュータというものが夢であるにしろコンピューターが社会に果たす役割は日々大きくなりつつある。もちろんコンピューターを動かし利用するのは、人間の情報収集であり、集められた情報を理解し、シグナルとしてコンピューターに記憶させたり、又、それを取り出したりするのも人間である、が、その媒体となるものは電気である。電気は三つ子でも知っているように、最大のスピードを持ち、一点から通信衛星を使えば地球上のあらゆる点に搬送することが出来る、ということは若し世界の頭脳が巨大なコンピューターに変わり得るとしたら、それを動かすには、人類が今迄何かの条件で造り上げた都市即ち人口の集中は必要なく、散在する点からの指令で、同時に全世界に情報が流せ、又得られる。人々は電波のメディアにより全世界のことに同時に関心を示し(現在でもそうであるが)反応する。コンピュータへの階段を上るには、こんな1時代があるだろう。しかし、生きとし生けるものの本能である集団

性はどうか残るだろうか。

私はここに15年の循環を基とする一つの団地がその核となろうと考え、これを核団地とした。これは、生活するに必要なあらゆるものをそなえた団地という考え方ではない、ある物件は複数の核団地が共有する場合もあろうしかし、未来社会の構造体の核をなすものであれば、人々のその核に於ける定着性を要求し、そして十五年循環の考え方に依る構成はそれを満足させる。それらの規模は、つまり一サイクルの構造世帯の数は、複数の核が所有する特色によって異なるのは当然であるが、一つの必然性である教育行政から考えれば、おそらく二千から二千五百戸が核団地の最少の規模となるだろう。現在、確かに学校付き、マーケット付きの団地はある。しかし、これらの団地の共有する物件は、現在に最少必要なものであり、単にベッタウンのためだけのものであって、未来に連がる何ものも用意されていない、ということで核団地とは違うものである。今迄のように、2DK、3LDKや、1DKをバタリー鶏舎式に、画一的に積み上げたのでは、十五年の循環は行われぬ。こゝに於て、それらの配分の仕方や、建築の方法も、現在とは違ったものが出て来ようし、既にそれに適する方法もいくつか発表されている。

我々の指導力というもの、未来に通ずる過程に於て生ずる。従って未来を創る若者達を、我々の感覚で批判し、指導するのは、一種の時代錯誤である。我々は、未来を創る若者を理解し、その上になつて、適格に未来に通ずる道を見つめ、そして後輩を引っぱっていかねばならぬまい。

ありもしない知恵をしばって、何かモヤモヤするものをかき出してみたが、やはりヘソ曲りのタワゴトだったのだろうか。要するに現在の相模原市の住に対する政策は、全く無策と言って良く、将来の都市の有り方にも目を向けていないし、おまけに、市政への無関心を助長させる要素も多分に持っている。今後十五年もすれば、野放しに売買された木造の住宅のひしめく中部は、将来の生活水準の向上と、様式の変化

により、スラム化することだろう。この辺で鹿沼の埋立てあたりに、このような意味を持った核団地を造成し、市民に故郷を支える運動を提案する。



ちよつと
一言

—1968年度—

川合貞義

“参加することに意義がある”

これには、いろいろと問題があるが、何事も参加なくして、初めはないのである。

犬猿の仲一犬と猿が生存して、お互いが、顔を合せる良かれ悪しかれ、そこに何らかの現象が生じこの言葉が生れると同じ、とにもかくにも、まず、面を合せることが、先決である。

相模原J Cの出席率の悪さが、いつも問題になっている。しかも、この問題に、社会の一端を担っている賢明なるJ Cの幹部が、多くの時間をかけて、毎回毎回議論する姿が、何ともばからしく、みすばらしい事かと、思わずにはいられないのである。

その基本的な認識を、もう一度確認して、相模原青年会議所を振出しにもどし、0からやり直しの必要があるような、気がするのだが、私

の考え違いでしょうか？。

ここで一つの提案ですが、理事長を中心とした、相模原青年会議所の目的を、大きく一つにしぼっていく。

例えば、今年度の一つの大きな事業として相模原市民を主体とした“文化の向上”というテーマをあげたと仮定しよう。

ある月にまる一日、大講演会を開催する。それには、各委員会が、それに関係ある問題を取り上げて、その目的を成功させる為、全力をあげる。

経済開発委員会は、相模原の経済について充分な調査をし、その調査と関連して、優れた講師を招く。

広報委員会は青年会議所のPR、又はその講演を成功させるためのPR、

青少年委員会は、現代青少年の現状を調査し、その大講演に発表する。

指導力開発委員会は、会社の従業員の教育向上指導の為、この日に教育映画を上映するなり、講師を招いて講演する。

他の委員会も、このように同調して、仕事の分担をもつ。

当日は、お年寄りの為に、有名な万歳師を、子供の為の劇団を、現代青年の為に、美人流行歌手を呼ぶ………という具合である。

以上のように、一つの目的を定め、それを成功させる為に、関連して仕事をするならば、きっと、各委員会も活発になるであろうし、又停滞も許されないということに、なるのではないだろうか？。

いずれにしろ、出席しているものの間だけで、話合っている、決して、出席率が、よくなる訳がない。欠席者大会を開いて、その原因をつきとめなければ、結果は出ない………かな？。

—1970年度—

主張

宮崎直道

本年度も半年間が経過しました。過去4ヶ年間の会員の努力、地道な活動を通して得た尊い経験、そして新しい意欲によって、欲自ながら例年以上に活潑な活動が展開されているように思います。

会全体の動き、各委員会の活動も、漸くバランスのとれたものになりつつあります。本年初頭から頭を痛めた例会運営も、大過なく割合スムーズに運んでいます。各会員の自覚と協力の賜とと思います。然しまだ運営面でも学ぶべきこと、反省すべきことが山積しています。そして同時に、我々が守らなければならないルールも多いと思います。

青年会議所運動は、奉仕、修練、友情と言う創始の三原則から、ごく最近に於ける、社会と人間の開発という運動目標をか、げ、明るい豊かな社会をつくるために、運動を繰りひろげています。そして本年は、「豊かな心 厳しい自覚 貫け社会の正義」というスローガンを打出しています。非常に高度な運動であると誇りに思います。然したゞ単に、口先だけで物申すことは極く易いことです。一生懸命努力する人、手をこまねいて見ている人と判然と別れている感じですが。我々はみな同じ意志で、青年会議所に入っているものと思います。このような差がなくなった時、より素晴らしい青年会議所活動が出来ると信じます。

先日ある新しい会員の方から、青年会議所の例会は時間通りに運営されていないという御指適をうけました。運営面の不手際で、非常に申訳ないと弁明しながら頭を下げました。然し頭を下げて済むことではないと思います。非常に忙がしい世の中で、大変重要な位置にある会員諸氏ですが、我々が作ったJC、我々が決めた時間、そして我々の例会です。より多くの会員が、時間を守って出席するところに盛り上がりのある、満足のいく例会が実現出来ます。

宗村泰延

私は仕事の関係上、しばしば海外旅行をします。今年に入って、5月にホンコン、マカオ、6月7月にかけてアメリカ、カナダ続いて、8月には再び香港、台湾と商用のため出かけています。

海外旅行をしていると、いろいろな事に出合います。アメリカに出かけた際、ニューヨークのアベビクトリアホテルのエレベーター前で、胸にJCのバッチをつけた青年に出会いました。失礼ですが貴方はJCの方ですかと私が尋ねると、ハイ私は福岡JCの者ですと彼は答え、その後たまたま行く先々で彼と行動を共にすることが出来、福岡コンファレンスの苦勞話等を聞くことが出来ました。

帰途ロスアンゼルスで、立川JCのメンバーのほとんどが八月上旬渡米すると言うことを聞きました。何を目的に来るのかと質問したところ立川市と、カルフォルニアにある都市とが姉妹都市になっているが、JC同志の結びつきが何も出来ていないので、渡米の中心はJC同志も姉妹としてのつき合いをすると言うことを聞き、立川市のJCのことながら私事の様に感じました。立川市JCの皆さんのスケジュールの中には素晴らしいフェニックスの老後天国である、老人ホームの見学、又は経済力とバイタリテイを誇るニューヨーク等の都市見学を含め、必ずや有意義な旅行をされるだろう事を心から信じています。

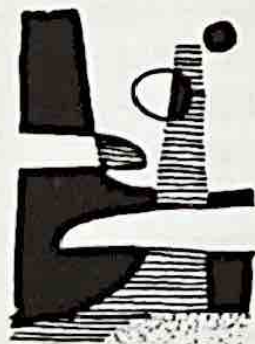
又8月上旬香港からの帰途台風の関係上、直接帰国する飛行機のリザーブが出来なかった為、台湾に寄ってみました。何しろ初めてのところですので先づエアポートで帰国のフライトの予約をするためカウンターで待っていると、私のスーツの胸にあるJCのバッチを見つけて一人の青年が話しかけて来ました。

ユーはJCの人ですね。私は劉錦松といい台北にある中山JCのメンバーの者です。若し貴

本年は会員開発委員会と会員の努力で、新しい会員が多く入って参ります。何か新旧交代したような感じがします。嬉しい現象ですが、反面旧い会員の奮起が欲しいものです。その中でもう何年もJC活動をして来たような新しい会員の方も居ります。大変良いことだと思います。節度や礼儀は人間に必要なことですが、つまらない見栄は青年会議所の中では、さっぱりと捨て去りましょう。つまらぬ見栄を張り、張り切りすぎて、自分の立場を窮屈にしてしまうようなことはなくしましょう。人間同志、肩の力を抜いて、袴をぬぎすて腹の底から話し合いの出来るところに、お互の親しみが深くなり、情が湧いてくると思います。こんなコミュニティーを、青年会議所の存在は私共の心の中で大きな支えになり、その意義も大きなものがあると信じます。3年、4年も青年会議所運動をして来た人、また入っても間もなくJCとはなんだろうと暗中模索の人が、互の意見を交換し合った時、楽しいコミュニケーションが生まれます。そして素晴らしいコミュニケーションが作られた時、よりよい社会開発や人間開発が語られ、計画されると思います。

本年度残り半年間、我々が建てた事業計画の実施に力を注ぎ、悔を残さぬ活動をしていきましょう。

批判も大切ですが、まず実行するところに道は開けて来ます。折角たてたプランです。各委員会ごとに必ず消化することに心がけましょう。ルールを守り、よりよいコミュニケーションの中で展開されるJC運動は、小さなことでも大変素晴らしいと思います。



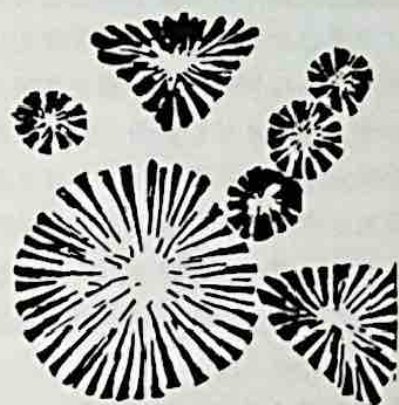
会費と予算についてのあれこれ

鈴木英次

方がホテルを探しているのならば、私が働いているホテルへ来ませんか絶対素晴らしいところです。貴方は満足すると信じるから来るだけ来て見て下さい。もし気に入らなければ他のホテルに移して下さい、と熱心に誘われ同じJ Cのメンバーと言う気安さも手伝い彼の働くホテルに宿泊することにしました。部屋は期待通りとはいかなかったが先づシャワーを浴びた後散歩でもしようと玄関迄行くと、先程ホテルを案内してくれた劉錦松君が仕事が今終わったから貴方がもしつかれていなかったら台北の街を案内しましょうと誘ってくれたので、私も知人もいない台北の街を歩いても何の価値もないので彼に全てをまかせ夜の台北の街を歩きまわることが出来、楽しい想出の一ページを残すことが出来ました。次の朝彼は私をホテルの玄関迄迎えに来てエアポート迄送ってくれ、再会出来ることを約束しながら私が機内に入るまで一生懸命手をふりながら送ってくれました。

J Cの会員として私は新人ではありますが、海外に出た時自分がJ Cメンバーであると言う誇りと、こんな楽しい想出に会うことがあると言う現実、今更ながらJ Cに入ってよかったとしみじみおもっています。

そこで私は自分自身が働けるJ C活動にしなければならぬことを痛感し、timeを出来るだけ多く有意義に活用し、努力し、且頑張りたいと思います。



ご承知のとおり青年会議所の事業や運営のために消費される資金は当J Cの場合会員の会費で充当しております。そこで担当者としていくらの会費が適当であるか。(勿論少なくともそれには越したことはありません)

J C会計の損益分岐点のようなものを一寸考えてみました。日本J Cの統計(1968年)によりますと年会費は最高5万円、最低1万5千円、平均で2万7千7百円となっています。目立つところでは3万6千円が44青年会議所、3万円が84、2万4千円が155であります、しかし内容的に予算総額に対する事業費との比率は40%~50%を占め年会費の少ないところほどその比率が高くなっております。現在J Cの会計基準が全国的に統一されていないために完全な比較は出来ませんが、日本J Cその他への負担金が12%~15%を占めております(当J Cは7.5%が69年度の実績)50%の事業費を支出した場合、会員のコミュニケーションの費用や事務局関係の費用はどのように支出されうるだろうか考えさせられます。当J Cの場合事務局関係費は他J Cよりも比率が低い懸案の事務所設置の件はここで大いに問題となるところです。そこで今後の予算について事業比率、及び事務局比率のパーセントを一定率でとり、それに必要な会員会費を逆算していくのも健全財政の一方法であろうかと思えます。他J Cに比較して当J Cは健全財政であることは確かではありますが新入会員が一定数以上あれば、あるいは次年度より年会費のダウンも考えられないことはないと思えます。

70年度の子算のなかで事業費に65%を計上いたしました。2月現在各委員会ともその活動が非常に活発で予算不足を訴える委員会もあろうかと思えます、担当者として嬉しい悲鳴をあげさせていただけるよう各委員会にお願いします。

J Cってなんだろう？

根岸喜美夫

私が、相模原J Cに入会したのは48年の春中野精二さんを親にして入会致しました。以前より他の人から勧められていたのですが青年会議所なんてどうせエリートづらして、思い立った連中が集まって、何をやっているんだか分かりはしないと思っていました。今思えば食わず嫌いだったと思う。そんな私でしたので、中野さんが熱心に勧めるので義理として例会に出て見ました。

例会見学に来て見るとなんと驚く事に宝光寺の住職宮崎さんが入会して居るではないか、それに顔見知りの人達が数人。鉦をチーン、変な歌、J C宣言、綱領、カッコウつけて、でもこのJ C宣言や綱領を本当に心から読み上げて居るのならたいした人達、けっこうな会だなと心の中で呟く。以上が例会に始めて参加した時の感想です。

2回目の例会。出席しようか、どうしようか迷った。でも例のJ C宣言、綱領には何んとかなくひかれる。3回目の例会。入会承認、とうとうJ Cメンバー。本当に心ざし同じゅうする者の集いかな、よしその点に目を向けて見ようと。

数ヶ月後日野J C認承証伝達式に登録出席した。そこではJ Cの友情というものを教えてもらった。日本全国からJ Cという名の下で、日野J Cの為に集ってくる。私はこんな友情の形は知らなかった。大変すばらしい事だ。それともう1つ、あの式典、全てJ Cメンバーだけで企画運営。聞くところによると、我が相模原J Cでもそうだった様に。入会して1年半、立派な友達も出来た。勇気を出してやれば何んでも出来るという事も教えてもらった。でもJ Cって何んだろうまだよくわからない。J Cを何んとか知ろうと積極的に色々な事に参加した。でも何んとか素晴しい会。自分から動かなければ、考えなければ、分かろうと心がけなければ分からない会？だと現在も思っている。

「J Cに入会して」

篠崎教夫

入会の動機は商売柄店に閉じこもる機会が多く交際範囲が限定されてしまうので何か外に出るチャンスはないものかと思っていた時、タイミングがいいと言うか、悪いと言うか、同じ商店街の浦上氏や久保田氏からの誘いが来ました。それまで二・三の会が有るという事は、聞いていましたがその中でも青年会議所が一番勉強になるとの事でありました。そんなわけで外に出れるというだけの理由で入会したのはいいのですが、これがまた私にとっては場違いに思えるほど諸先輩方は、行動力や、実行力またははっきりした自分の考え方を持ったりっばな人達ばかりでした。

生来私は人前で話したり、意見を述べたり、みんなの先頭に立ったりするのが大の苦手でした。ところがJ Cは実に困った事に、私の苦手とする事が逆にスローガンとなって押しすすめていく団体でした。ですから入会したものの、とまどいと不安感をいだき今でも自分自身がJ Cについていけるかどうかカットウの連続です。こんな弱音をはりあげている私にある日、やっと話すチャンスがやってきて、人前であらぬようにと失礼にもみなさんを「カボチャ」に見立てて話そうと思った所いざその時になったら「カボチャ」も見えないくらいにあがってしまい二汗位かいた時もありました。いまにして思えばいい経験をしたと思いました。（このようなチャンスをくれた方々を決してウラんでおりません。）それからは何かと話す機会が増えて（喜んでいいやら悲しんでいいやら）はきましたが、あいかわらず思った事の半分も言えない有様です。そんな中にも例会を終ってからの二次会で友人もでき、月一回のジャガイモなどは私にとってJ Cの中で唯一のいこいの一時であります。以上が私が今年J Cにはいって10ヶ月たった現在の心境です。

—1967年度—

某三岳会誕生記

古 俣 志 郎

登山というと今でこそゴンでもハチでも「山がそこにあるから登るんだ」てな事を言って、山がこわれる程登っておりますが、一昔前までは余程物好きで、金と力と暇のある連中がする事位にしか考えられていなかったようです。色男金と力はなんとやら、下界ではとてもモテる見込みのない不細工なツラがまえ、キ印の上に山がついて山キ印というその不細工なツラが三人寄って、三岳会。「イッチョ、ヤロメイカ」とこれは名古屋弁、衆議一決。かつては随分と山を泣かせたベテランOB?のH氏をリーダーに、ミスター男性美のS氏、マチガ沢のくたばり損いの小生、附録のマダムX、初めて4名、時は8月なかの頃、中央アルプスは木曾駒ヶ岳、2956メートル、会社が退けると香典の心配をする仲間を送られて駅へ一目散。中央線は上松駅からバスに乗り換え、登山口へ着いたのが23時。

エッチラオッチラと登り始めました。夏とは言えど片田舎、裕やりのやなんじゃらほいと涼風に吹かれながら降るような星空の下、虫すだく中を電池で足許を照らしつつ、三合目の小屋へ着くまでは鼻唄交り、小屋でお茶を飲みながら上を仰げば、先に登って行く人達の電池のあたりが木の間がくれにチラホラと、夜山の中で見る灯というものは非常に印象的で、吾々のファイトをかきたたせ力づけてくれるものです。さてそこからが大変、美貌と教養が邪魔をする尻突き八丁、汗が流れてきて目が見えなくなるわ。岩につまづくわ——、でエンストの連続。もう駄目だ。今度こそと思ひながらとにかく五合目の小屋へ着いたのが午前三時半、もうその先は聞くも涙、語るも涙（とはオーバーかな）後はおぼろ、後はおぼろ（カット）なんでこんな処へ連れてきやがったんだと声なき声を同行の三人に……。肉体と精神は完全に分離し、魂はゴーホーム。足はとにかく前へ動いていたものようです。

かくてラッキーセブンの七、七合目の七、嬉しかったです。ハイ。ここで夜食兼朝食。涙がこぼれました。涙と共にパンを食べたものでなければ人生の味は判らないとか、山でも全くその通り、オマンマにありついた嬉しさと、あと三合なんとか都合出来れば頂上という安心感と、良くぞここまで登りけると、しばし感無量。木の根っ子に首を引っかけて大の字に引っくると、天の川が手の届きそうな処に来ていました。

八合目を過ぎる頃だんだんと夜が明け始めました。山男を一番厳肅にさせる時、それが夜明けです。雲海の彼方に霊峰「御岳」がすっきりスカイラインを描き空の色が紫色に変る時、紺青に変る時。山は吾々を謙虚にし、吾々に生への希望と喜びとを与えてくれるのです。

頂上は雨、すさまじい風が九合目の小屋のトタン板を叩きながら渦を巻いて頂上へ吹き上げていました。風速30m 視界10m、自然の厳しさに打たれてそうそうに頂上を退却。九合目の小屋へ。小屋の中でも寒さで体が震えて、八月という月がうそのよう。合わない歯の根をガチガチいわせながらの燃料補給。体の震えが止った頃七合五勺で倒れたとかいうのが、救助隊にかつがれて小屋入り。

いささか自信をつけたとは言え、こんな処に長居は無用と、靴の紐を締め直し、お先に失礼。ボンコツ車も下り坂となれば快調。ドタバタと正に山が欠けるんではないかと思われる位。登りはエンストの連続が下りはブレーキの故障で、所要時間3時間、雪山讃歌をマンボかドドンパのリズムで歌いながら足取りも軽く？これがその後下界での数日間の足取りに影響することも知らないで……。かくてまずまず外見は怪俄もなく上松駅へ到着。駅前でビールとラーメンで山岳部の発会式を祝ったものであります。

自然から学ぶ

黒川 勉

かぶと虫が一匹200円!!

今や昆虫がデパートで売られる世の中となつてしまいました。そろそろ夏休みが近づいて来ましたが、またこんな記事が、新聞をかざることでしょう。“めだかの学校”“赤とんぼ”の歌をうたっても今の子供達は、本やテレビで知っているだけではないだろうか。私達のまち相模原は緑のまちで、まだまだ草木や山があって、おたまじゃくしや赤とんぼも季節になれば、なんとか見つけられるでしょうが都会の子供は知らないでしょう。経済の発展にどんどんおし流され、いなかは年々、都市化の波にあらわれて、タンポがなくなり、緑もなくなってゆきます。そこで私達の子供の頃を思い出してみると、夏休みともなれば、一日中日の暮れるまで、野原や小川や海辺、境内や山に入って遊んだものです。それで、知らず知らずのうちに、草木の名前や昆虫の名前、小鳥の啼き声、巣のかたち、魚の棲態など様々の事を覚え、知ったものです。自然から学びとる、子供時代はそれが一番よい情操教育ではないでしょうか。

一日中テレビに、かじりついている我が息子にふと昔の自分の子供時代を思い出し、何と今の子は自然とのふれあいの場が少いものかと考えさせられました。私達がスポンサーとなって発団した、ボーイスカウト第7団は、忘れられている自然とのふれ合いを、リーダー諸君が一生懸命やってくれています。お金を出して乗物に乗って遊ぶ一日も、おいに結構だし、必要でしょう、でも一日ぐらひは、タンポのあぜ道や小川の淵で遊んでみたいものです。

相模原市に
おける青年会議所の意義

松田 孝純

私は、青年会議所会員として、相模原市における、私達の役割を考えてみたいと思います。青年会議所といっても、実際に市民の方々に、どれほどの知名度があるか、甚だ疑問であります。それは、私達の活動を市民の皆様に発表する場が遺憾ながら少なかったからであり、私としてはもっと発表の場があたえられてもよいのではないかと思います。そして私達の活動を市民の皆様により一層理解して載き協力してもらわなくてははいけません。それにも増して私達自身の活動そのものの拡張も考えなければならぬでしょう。

私達会議所は市民の生活に密着していません。ある時は、声なき声として、またある時は、表面に立ち市民の意見を代行しなくてはならないからです。

市民生活を向上させる為にアンケートを取るのも活動の一つの手段ですし、それを、しかるべき場所で発表することは、大きな意義があります。

また市民とのコミュニケーションの場をより多く作り、絶えず市民の考えを把握することは、まことに重大なことであり、こうした活動こそ民衆の中から生まれた青年会議所として、実に相応しい姿であります。市民との触れ合いなくして会議所の存在を語ることは出来ません。そしてまた、私達は市政に対する批判や反省もかかせない活動の一つであり、私達は常に、市政に対して関心を示し、より一段と向上せねばなりません。

私達の活動により少しでも市民の皆様が向上することになれば、それは、私達自身の発展にもつながり、それでこそ青年会議所の意義があると思います。

—1971年度—

随 想

テレビと公害

水谷好佐

最近私はテレビの番組に疑問を持つ様になった。テレビは言うまでもなく、目で見、耳で聴くことにより様々な情報が伝わる訳だが、テレビの影響で感覚的に物を見ることが発達し、考える力が退化してきたと言われる。テレビを見終り、後になって考えてみると何も残っていない、大切な時間を無駄に過ぎた様な、空しい気持になる事がある。

テレビは娯楽という大切な役割を果たしているのだから、余り堅く考えることはないかも知れないが、しかし私達は知らず知らずのうちに、普段好んで見る番組により影響を受け、教育されているという事は無視出来ない。私の様に途中からならば末だしも、オギャーと生れるともうテレビが見られた現代っ子達にとって、彼らの成長の過程で受けるテレビの影響は、かなり重大な問題と言わなければならない。今やテレビは学校教育も、家庭教育も顔負けする程の教育者なのである。テレビと言う、機械によって、いや企業競争の為に作られた映像により次代を任う若者達の、物の見方価値判断が歪められて

いると言ったら、言い過ぎだろうか。NHKと民放の違いは何といっても視聴料であろう。民放はただで見せてくれる。その代り番組でちょうど雰囲気盛り上げたところへ、ハイノコマーシャルと来る。民放の料金はただと思っただけで大きな間違いで、私の使っているMG5でも牛乳石鹸でも、ちゃんと視聴料が含まれているのである。企業は、テレビというマスコミを強力な宣伝媒体に使っている。スポンサーは視聴率の高い番組がより効果的だからこれを狙う。ところが高視聴率は必ずしも内容の良い番組とは一致しない。それどころか、民放側も営利企業だから、高視聴率の番組を少しでも安く作ろうと努力する。そこには(勿論すべてという訳ではないが)青少年に対する教育的配慮というものは見られない。

現在私達は、大気汚染とか交通戦争など、世の中が高度になるがゆえに起ってくる公害に悩まされている。しかし、テレビも或る意味では精神的公害と言えるかも知れない。テレビには、記憶も新しいアポロ宇宙中継や万博のすばらしさ、感動させられるドラマなど、良い面も沢山ある。テレビによる精神的公害を、作る側も見る側もよく認識し、自覚して欲しいと願ってやまない。

—1975年度—

『十周年に思う』

金子昌弘

入会してすでに五年、いつのまにか過ぎていつのまにか理事の一人になっていた自分。余りにも安易に来た自分に、何かしっくり来ない。

それは「不忠無位、忠所以立」……だろうと思う。十年ひと昔と言われているが、今年十周年をむかえる当JCにも一つのくぎりの折でもある。

これから又、新しい時代への一步をふみだそうとしている我は、今改めてJC運動を、源を見つめねばならぬ時期ではないだろうか。来る廿年目の為に無為な時間を過してはならない。「徳者事業之基。

未有基不固而棟宇堅久者」……と。JC運動は、多くのメンバーの小石が集って出来ているケルンの様なものだと思っている。その一つが欠けても立派なケルンは出来ない。人それぞれ「分」と言うものがあり、それを越えてはならぬと私は思っている。

JC運動も年々盛んになり、その活動は四方八方へのびているが、それで良いものだろうか。

背のびは永くは続かないものだ。LOMもこれからの十年の為に来年は心豊かに。

子曰、「処世讓一步高。退歩即進歩的張本。」

明日の為に

今日をかえりみる我也。

内田寛第6代 山内大第8代理事長を送る

中 村 宣 勝

1974年も後数十分で終わろうとしている。当相模原青年会議所の一時代を築かれた優秀なるリーダーのお二人も後数十分で青年会議所を卒業されていく。この数十分の間お二人の当会議所に残される多くの遺産の中から、小生が気付いた点をあげ、この両先輩を送ることばとしたい

内田寛六代目理事長、この人の物に対するクールな考え方と、秀でた先見性が、彼のリーダーシップの根幹となっていたと考えられる。第一回チャリティショウの開催は、彼の理事長時代の一大事業であった。彼はこの事業によって我々に二つの大きな遺産を残してくれた。その一つは、もちろん次年度の十周年記念事業費として使われるチャリティショウの益金であり、いま一つは、我々メンバーに一つの大きな行事を行なう時に最も必要となる、いくつかのすばらしい教訓を我々の体内に直接経験という型で残してくれたことである。さらに彼の日頃の言動から私が感心させられたことは、JC運動がいかに市民の中に入っていくかということを考えていたことであった。JC運動がとかく自己満足の中に終る点を彼ほど真剣に考えていたリーダーは珍しいのではないだろうか。この点は我々に残された大きな課題であると思う。彼は演劇を通じて市民との心のふれあいを求めることを、この一大事業のチャリティショウ開催の目標の柱としていたのではないかと私は考える。

◇

ミスターJCということばが、この相模原青年会議所

にあるとしたら、まずこの人、山内大八代目理事長にあてはまるのではないだろうか。この人とミスタージャイアンツ長島茂雄には共通点があると思う。それは人間の感情のうちで若者に最も必要な情熱を、その対象物に傾けた点である。あの長島が後楽園で引退の声明をした時我々の心の中に呼び起したことは、長島のたった一つの白球に追いすがる姿であり、あの白球をとらえるバッティングの姿、すなわち、男の情熱であったのではないだろうか。私は山内八代目理事長時代、その年度最大の行事であった模範市会の開催にあたり、彼の脇役として事業実施に携わったが、いくつかの困難にあたって、その困難に立ち向い、解決した時には、まさにリーダーここにありと、いくたびか感じた。ではこのリーダーシップの基は何であろうか、それは青年会議所運動に惚れた男の情熱であったと私は思う。彼の口ぐせは「この世の中に、明るい豊かな街づくりを理屈抜きで考えてるグループが他にあるか」であり、この考えが、彼がその困難に立ち向っていった裏打ちであったと思う。

時間は1975年になってしまった。御卒業おめでとう。大さん、寛さん、私はお二人の人生の共通点、常に新たな目標に向って進む男の姿、いつもいつも感激して、その後姿を見てまいりました。どうか御卒業されてもなおいっそう、立派な道をお進み下さい。

大さん日く？「勝ちゃんよ、そんなにおいらをおだてなさんな、人生いたるところ青山ありだよ、なあ寛さん？」

—1973年度—

卒業にあたって

宮 崎 昇

八年間が走馬灯のように想起されます。

一九六五年七月七日酷暑の相模原市民会館に各地から馳せ参じてくれた八百余名の先輩JC各位の見守る中で感動に震えながら進めた認承認伝達式の式典司会の役割が忘れられません。来賓、高地地区協会展長、川崎JC理事長中野さん（当時社会福祉委員会、修練委員会がありました）、今後のJC運動の進むべき方向としてC・DとL・Dを予言された格調高い演説で、その通り三年後にはJC運動の基幹になりました。）等諸士の祝辞、激励、御教示の言葉の一つ一つが脳裏に刻まれ、万感胸に迫る感激の

第三一六号認承認が矢島理事長の手に渡った一瞬が今尚はっきり思い出されます。

この点自分たちの式典乍ら会場に出られずに当日の関係役割で追われ、終日大忙して過した殆んどの会員に比べ恵まれていたと感謝しています。あの感動が文字通り八年間のJC生活を支えてくれたと信じます。この八年間で得た価値を今後の全ての生活で活かしていきたいと思ひます。

長い間の御交誼本当にありがとうございました。今後共、相模原JCの進む方向を誤らず会員自らの企業共々御発展あらんことを祈念いたし、同時に変わぬご友情を賜わらんことをお願いしてお礼のことばに代えさせていただきます。

(第七代理事長)

さがみはら市の概況

郷土さがみはら

原始時代の相模原 相模原に、はじめて人間が住みついたのは、今から2～3万年前だといわれています。遺物の石器は、現在、境川沿いの深堀付近、横山下の姥川・鳩川沿いなど30か所以上から発見されています。

次の縄文時代の遺跡は、約4,500年前の中期のものが多く、境川沿い、横山沿い、姥川沿い、鳩川流域、八瀬川付近、相模川のがけの上などにあります。とくに勝坂部落を中心とした地域から出土した土器は、「勝坂式」と呼ばれ、顔をかたちどった把手や立派な文様があり、学問的にも特色のあるものです。

近代の相模原 明治になっても相模野開発は続けられました。いずれも規模は小さく、台地の上はほとんど原野のまま残されていました。明治5年に学制が公布されました。相模原の寺子屋や塾が、新しく小学校となったのは翌6年の8月ころでした。

明治22年に町村制が施行され、それまで18か村あった村々は、相原、大沢、田名、大野、溝、麻溝、新磯の7か村に合併されました。

蚕糸関係の生産はますます盛んになり、明治3年から開設された上溝市場は、非常ににぎわいを見せました。

明治41年に横浜線、昭和2年に小田急線、同4年に小田急江の島線、同6年に相模線が開通しました。バス路線も各方面に伸び、交通網は次第に充実してきました。

昭和12年以降、陸軍士官学校・相模造兵廠をはじめ、軍関係の施設や工場がぞくぞくと相模原に移ってきました。このため「軍都」として、時代の脚光を浴びるようになりました。

これに呼応し、昭和16年4月、上溝・座間・相原・大野・大沢・田名・麻溝・新磯の2町6か村が合併し、面積108.71平方メートルという、日本最大の町として相模原町が誕生しました。敗戦により、軍施設の多くは、昭和20年から昭和25年にかけて駐留軍に接収され、相模原は基

地の町と化しました。

昭和23年9月、座間地区の分離が行われ、昭和25年3月、県施行の土地区画整理事業が終了し、相模原の都市計画は区画を整理しただけで、町に移管されました。

一方、駐留軍施設に働く日本人従業員は、ぼう大な数になり、町はふたたび活気を取りもどしました。こうして、昭和25年、市制促進委員会が結成され、昭和29年4月には木造の本庁舎が現在地に完成しました。そして、昭和29年11月20日、県下10番目の市として相模原市が発足したのです。

昭和33年8月、相模原市は首都圏整備法による第1号の市街地開発区域の指定を受け、内陸工業都市として、ますます整備されていきました。

昭和44年8月には、現在の市庁舎が新築完成「たくましい市民のまち相模原」の新しい象徴となりました。人口36万4千人、昭和50年代後半に50万都市を想定し、いま、相模原市は、明るく、健康で、文化的なまちづくりを進めています。



勝坂の土器

市のあらまし

わたしたちの相模原市は、神奈川県北部にあります。

市域は、東西14.3キロメートル、南北12.8キロメートルのほぼ長方形で、総面積90.77平方キロメートル。北から東は、県境の境川をへだてて東京都町田市に、西は相模川を境に城山町、愛川町、厚木市に、南は大和市、座間市に接しています。

地勢は、広いなだらかな台地と、相模川沿いの平地からできています。市の中央部を南北に縦断する丘陵状の相模横山が上台地と下台地を緑の帯で分けています。これらの台地は、一面に赤褐色の赤土でおおわれています。これは関東ローム層といわれ、富士火山の噴き上げた灰が造りあげたものです。

現在、相模原市の人口は36万4千人（昭和49年10月1日調べ）。市制を施行した昭和29年当時が約8万人だったのに比べ、20年間で4.5倍に増えました。いまでも、年間約1万5千人が増えるという人口急増都市一。これは相模原市の特色を表わすもののひとつになっています。

こうした人口急増の原因は、工業の立地条件に恵まれているため、多くの企業や工場が増えたこと、東京・横浜への通勤、通学が便利なところから一般住宅が増加したことなどです。

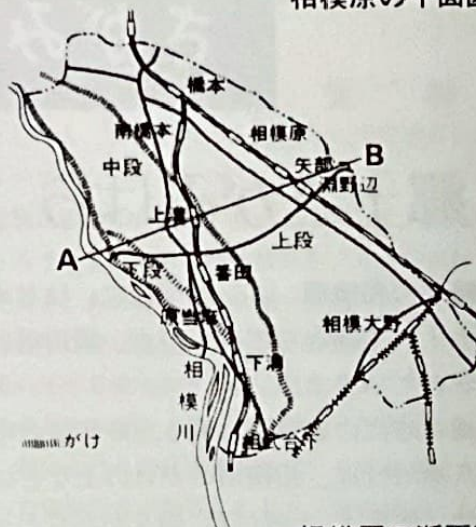
市では、昭和50年代の後半に50万都市になることを予測して総合計画を立て、将来の都市像を「たくましい市民のまち相模原」として長期的展望にたった計画を推進しています。

市章（昭和24年11月1日制定）

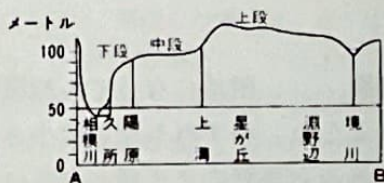


「サガミハラ」の文字を図案化したものです。市民がたがいに手を取り合って明朗、なごやかに進む姿、明るい相模原市を象徴するものです。

相模原の平面図

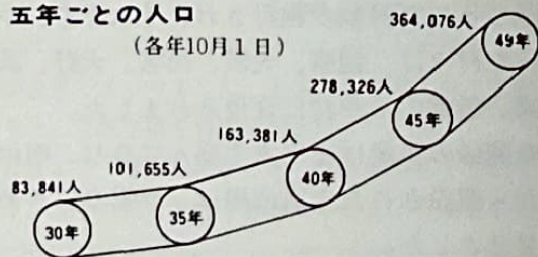


相模原の断面図



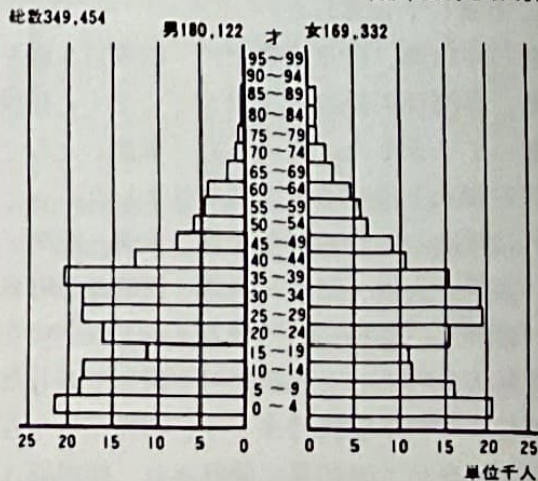
五年ごとの人口

(各年10月1日)



年齢・男女別人口

(48年10月1日現在)



産業の新しいすがた

相模原市の産業は、農業中心から工業・商業へと移行してきました。

かつて、産業の主体であった農業は、穀物生産がその中心をなしていましたが、市街化の進行、労働力の他産業への流出などによって大きく変化してきました。

商業については、中心となる商店街がなく、地元での消費はあまりふりませんでした。今日では人口の急増、横浜線や小田急線の輸送力の増強にともなって活況を呈していますが、中心商店街の形成は今一歩というところです。

工業については、その進展はめざましく相模原市の産業動向に大きな影響力をもっています。

●**農業** 相模原の農業は、戦後、食糧増産のために畑地かんがい事業などが積極的に進められました。しかし、都市化の急激な進行で、この事業も廃止されました。また、住宅建設の増加により、かつては特産物といわれた高座ブタ、麻溝ゴボウ、サツマイモなどの生産も大幅に減少してきました。しかし一部の農家では、野菜、施設園芸、果樹園、畜産の協業など、都市農業としての新しい経営方法を取り入れている姿も見られます。

●**商業** 都市化の進展とともに、相模原の商業は、年々めざましい成長を続けています。市制施行当時に比べると商店が3.8倍の4,511店、従業員は6.3倍の17,439人、販売額では約46倍の1,287億3,356万円に達しています。

(昭和47年)

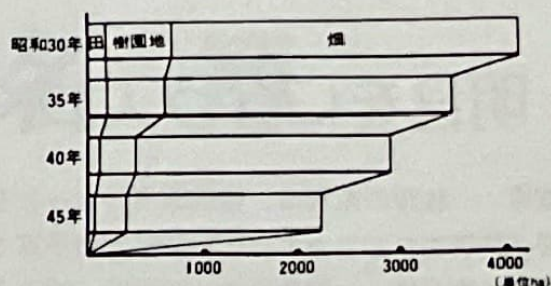
相模原は、交通や地理的条件などから、商店街が分散していますが、ここ数年の間に大型店の進出が目立つようになり、商業活動は活発になってきました。それに伴い、既存の商店街や中小商店の近代化が急がれています。

●**工業** 工業の発展は、商業よりも著しく、昭和29年との比較では、事業所が18.4倍の1,087、従業員が57.8倍の46,449人、製造品出荷額が約731倍の5,118億612万円となっています。

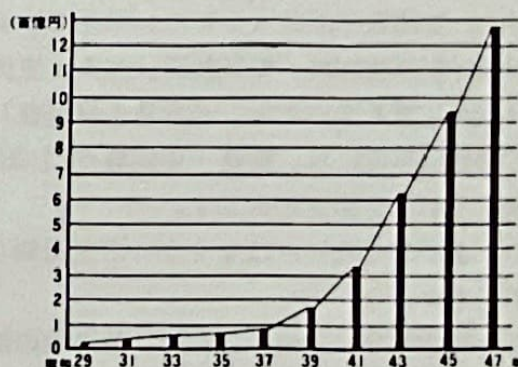
(昭和48年)

工場の進出が盛んになったのは、昭和33年ころからですが、いまでは県下最大の内陸工業都市として発展を続けています。これからも、公害のない産業を振興するとともに、中小工場の育成、従業員の福祉向上に努めていく方針です。

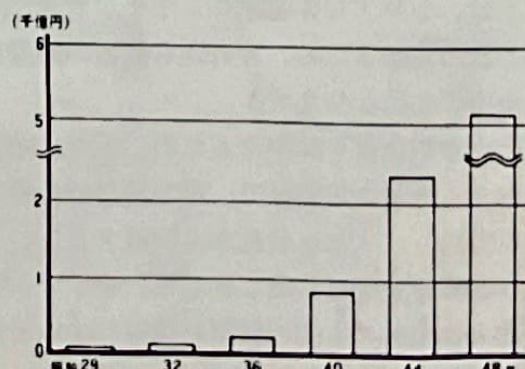
農耕地面積の推移 (農業) (農業センサスによる)



販売額の推移 (商業)



出荷額の推移 (工業)



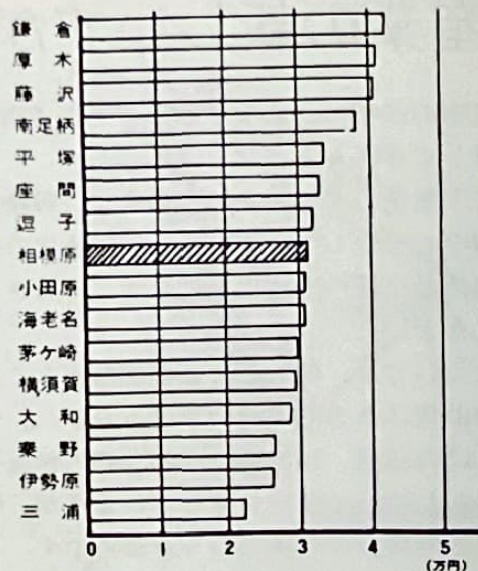
●**財政** 首都圏整備法による市街地開発区域の指定を受けてから、工業の進出、人口増加等により市の財政は年平均27パーセントの伸びを示してきました。しかし、人口が毎年10パーセント前後増加しているため、学校、道路、下水道など公共施設建設への投資が増して、財政運営は苦しい状況にあります。

総合計画による昭和55年度までの公共投資のために必要な経費は、一般会計で1,463億円にのぼります。

今後もこれら財源の確保については、地方財政制度の改善や補助率の向上など、国や県に積極的に働きかけていかなければなりません。

一人当たりの市税負担額

(昭和48年度)



明日をになう人づくり

●**教育** 教育の充実は、相模原市のもっとも重要な施策のひとつです。昭和49年度の予算で、教育費の割合は、一般会計の、実に34.3パーセント（9月現在）を占めています。20年前の昭和29年には、小学校15校、中学校7校、児童数10,944人、生徒数4,612人でした。現在では小学校30校、中学校12校、児童数37,494人、生徒数12,447人に増えています。（5月1日現在）そして昭和55年度には、児童・生徒数が83,000人に達するものと推定されます。

ここで、まず考えなければならないのが深刻な教室不足です。

こうした教室不足に対処するには、新設校の建設や既設校の増改築を積極的に進めなければなりません。しかし、校舎建築に対する国の補助制度では、5月1日を基準にして不足教室への補助が決められるため、それから校舎の建設をはじめることとなります。

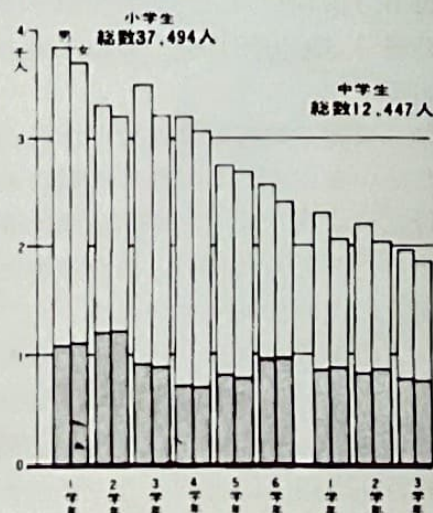
このような不合理を解消するため、市では昭和45年度から全国に先駆けて、市公社に校舎等の建設を委託し、それを公社から買収するという肩替り建築方式を打ち出しました。そして、年々増加する児童・生徒の教室を確保しているのが現状です。

このほか、新しく開校された学校にはその年度内に屋内運動場、プールの建設をしています。学校給食については、昭和49年5月現在、単独校方式17校、給食センター（2か所）によるもの14校で、小学校では100パーセント、中学校では27パーセントの割合で実施されています。さらに心身障害児のための特殊学級は小学校22学級、中学校12学級で、児童・生徒数268人になりました。この中で、学校に来られない重度障害児に対し、在宅訪問指導学級を新設し、特殊教育の一層の拡充をはかりました。

学年別児童・生徒数

(49年5月1日現在)

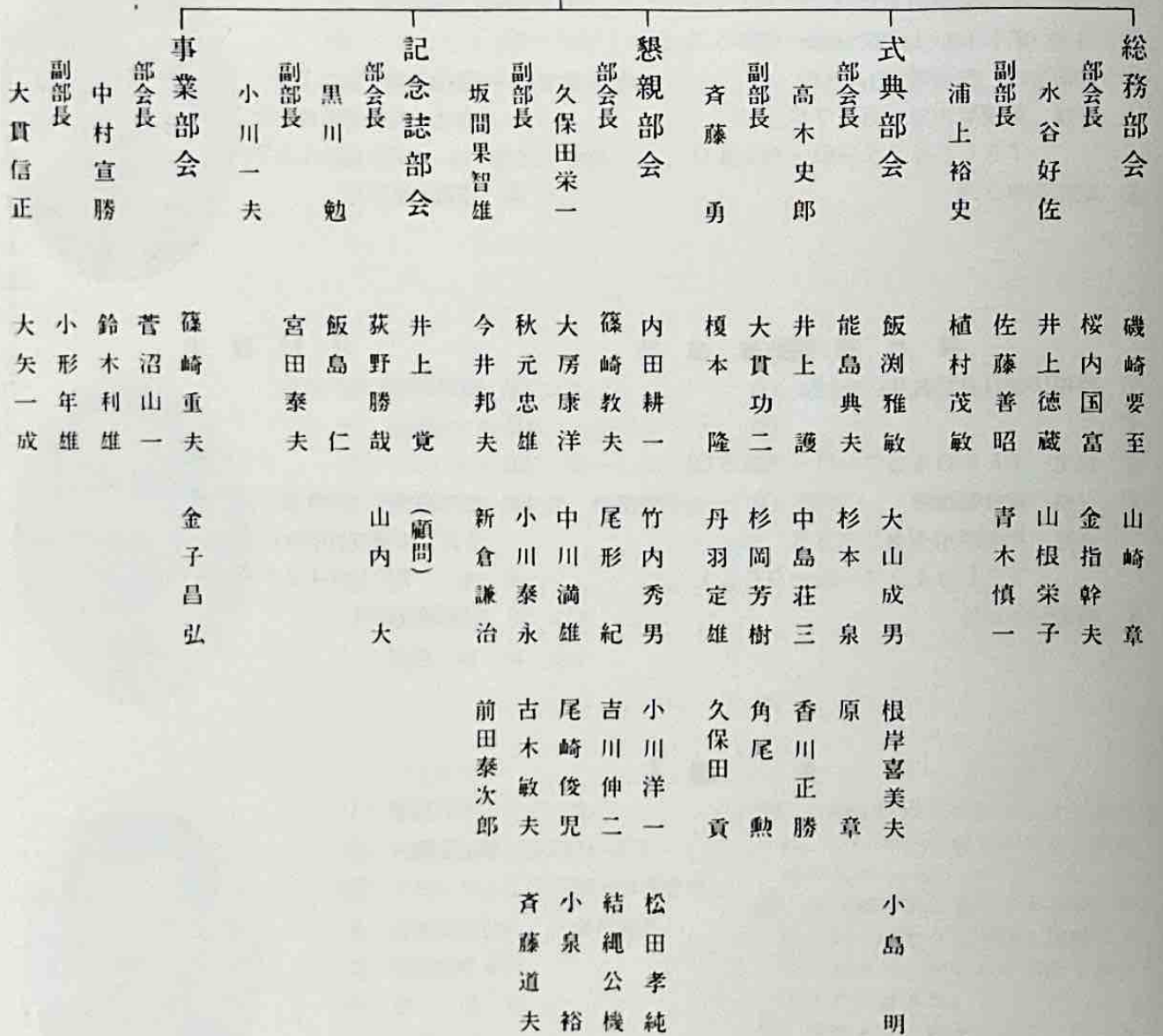
昭和49年



相模原青年会議所十周年実行委員会組織図

実行委員会

理事長	大貫一男
専務理事	川合貞秀
委員長	岡崎直道
副委員長	宮野精二



朝日生命相模原営業所
 八千代信用金庫橋本支店
 株式会社 クボタスポーツ
 松原電気工業株式会社
 相模レンタカー
 植村工業株式会社
 株式会社 佐々木工務店
 有限会社 第一中央商会
 有限会社 杉本商店
 齊藤紙工株式会社
 相模医科工業株式会社
 株式会社 相模カラーフォーム工業
 ミツウロコ株式会社
 菊屋浦上商事株式会社
 テクニカ株式会社
 有限会社 相都製作所
 有限会社 藤川製作所
 株式会社 水谷商事
 合資会社 洋文堂
 丸産建設株式会社
 有限会社 香川タイヤ商会
 株式会社 カネマス
 ブリヂストンタイヤ京浜販売(株)相模原営業所
 橋本ゴルフセンター
 有限会社 クボタ製作所
 橋本自動車学校
 桜内工務店
 小川水道工業所
 合名会社 大貫米穀
 相模原信用組合
 株式会社 中村書店

- 横浜銀行瀏野辺支店
有限会社 ユイナワ建具
有限会社 大矢松衛商店
有限会社 駿河屋
相模ガス株式会社
有限会社 向陽精機
向陽工機有限会社
株式会社 森井製作所
株式会社 宝生工業
千代田器機株式会社
ファニー あけぼの
小川電機商会
日ペ相模原調色サービスステーション
株式会社 ローゼン
有限会社 古木不動産管理
株式会社 明野開発
富貴堂眼鏡院相模原店
小島陶器店
大貫洋品店
篠崎時計店
井上齒科医院
小形商店
有限会社 菅沼商店
株式会社 内田材木店一級建築士事務所
有限会社 津久井屋商店
学校法人 桜美林学園
フォート マツダ
オギノ写真館
株式会社 ソーワ空研
社会福祉法人 相模福祉会
戸沢政方事務所

医療法人社団仁和会 相模原伊藤病院
西門 吉友
サパークラブ・ムラタ
福栄軒
武相新聞社
株式会社 石久不動産
あさひや
石川直正事務所
中島商会
株式会社 相模総合企画
大和興産株式会社
新倉左官店
向笠建材
川口塗装店
つるべ寿司
ゴルフショップツルミ
肉の小山
針井石材店
吉川織物工場
富士屋レストラン古壇
八王子 天安
天ぶら 十兵衛
味の関所 庄助
割烹 えびの
季節料理 その
鉄板焼 にしまつ
タケウチ酒店
株式会社 米山洋紙店
ユタカ製本
アトリエ いちのへ
有限会社 藤本総合印刷

■ 編集後記

10年の歴史を一つの記録としてまとめる作業に着手して、初めていかに数多くの事業が過去さまざまな形で行なわれてきたかを知り、勉強不足を深く反省させられました。

その記録をどのような形でまとめるか、また不足資料をどのように集めるか、出発の時点で大変苦労させられました。資料のない年度に当たったとき、事業記録を一年ごとに整理保管しておかないと過去の記録を参考にする段に大変な困難を期すんだと改めて痛感致しました。

幸い1974年度広報委員会が、広報紙「柴胡」に企画した「10周年へのあゆみ」がありましたので「10年のあゆみ」の欄は、それをそのまま採用させて頂きました。随想・雑感の項はやはり「柴胡」に寄稿していただいたものを加筆、訂正せずに原文のまま、記載してみました。

そして、多くの記念誌が「見る」型のものが多い昨今、この記念誌を、あえて「読む」記念誌にしようと意図しました。したがって年度年度の会員の活動状況、当時の会員のJ.C.に対する考え方も多少わかるようにしたつもりです。

こうして、全メンバーの多大な協力により、無事記念誌を発行できますことは部会と致しましても望外の喜びです。

どうか、是非本誌を熟読され、折ある毎にひろげて頂き、永遠に続くJ.C.運動に参加されたかつての自分の姿を思い起し、今後共J.C.運動に対して深い御理解をいただきます事をお願い致します。

10周年記念誌部会 黒川 勉 小川一夫
飯島 仁 井上 覚
宮田泰夫 荻野勝哉

山内 大

相模原青年会議所事務局

相模原市中央3-12-3
(相模原市商工会館内)
TEL 0427(53)1315

相模原青年会議所 創立10周年記念誌

昭和50年10月20日印刷
昭和50年10月25日発行

編 集 者	10周年記念誌部会
発 行 者	相模原青年会議所
発 行 人	理事長 大貫一男
-----	-----
写植・製版	アトリエ いちのへ
製 本	ユタカ製本
印 刷	藤本綜合印刷

